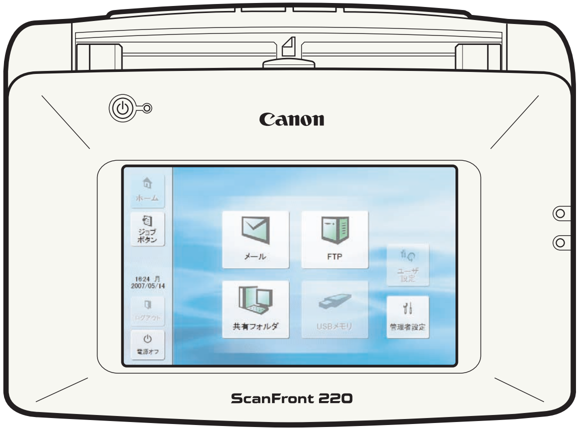
Canon

imageFORMULA

ScanFront 220/220P

取扱説明書



ご使用前に必ず本書をお読みください。
将来いつでも使用できるように大切に保管してください。

■ 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

■ JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は高調波電流規格JIS C 61000-3-2適合品に適合しています。

■ ご注意

- 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
- 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成しましたが、運用した結果の影響につきましては、前項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

■ 複製についてのご注意

- 紙幣、貨幣、政府発行の有価証券およびパスポート、または公共団体や民間団体発行の免許証、許可書、公文書、私文書などの複製は違法となり、処罰の対象となります。
- 書籍、絵画、版画、地図、図面などの著作物の複製は、自己の使用以外の目的でお使いになることは禁じられていますのでご注意ください。

■ 商標および登録商標について

- imageFORMULA は、キヤノン電子株式会社の商標です。
- Microsoft、 Windows、Internet Explorer、Active Directory、は、米国マイクロソフト社の米国および他の国における登録商標または商標です。
- Adobe、Acrobat、および Adobe Readerは、Adobe System Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

■ 著作権

libtiff

libjpeg

Portions of this software are based in part on the work of the Independent JPEG Group.

MD5

derived from the RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm

(Hg) LAMP(S) INSIDE THIS PRODUCT CONTAIN MERCURY AND MUST BE RECYCLED OR DISPOSED OF ACCORDING TO LOCAL, STATE OR FEDERAL LAWS.

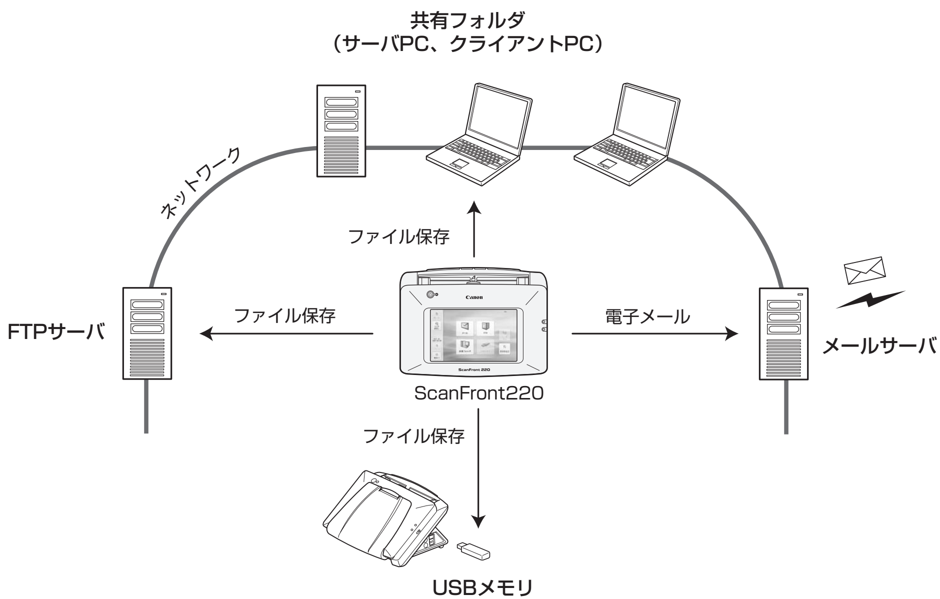
はじめに

このたびはキヤノンネットワークスキャナ「imageFORMULA ScanFront 220/220P」をお買い求めいただきありがとうございます。
本機の機能を十分にご理解いただき、より効果的にご活用いただくために本機をご使用になるまえに本書をよくお読みいただくとともに、お読みになったあとは必ず保管してください。

❏ ScanFront 220/220P について

ScanFront 220/220P は、コンピュータと接続しないでスキャンすることのできるネットワークスキャナです。

ScanFront 220/220P でスキャンした画像は、ネットワーク上のサーバ PC やクライアント PC の共有フォルダまたは、FTP サーバへを転送したり、電子メールによる遠隔地への配信が可能です。また、ネットワーク環境のない場所での画像データの利用については USB メモリに画像ファイルを保存して使用することができます。



ScanFront 概念図

❏ マニュアルの構成について

本製品のマニュアルは以下の構成になっています。本製品をお使いになる前によくお読みください。

セットアップガイド

ScanFrontを使えるようにするまでのセットアップの手順について書かれています。ScanFrontの詳細については以下のオペレーションガイドおよび取扱説明書（電子マニュアル）を参照してください。

オペレーションガイド

ScanFront の概要と、ユーザが ScanFront を使用するための操作手順について書かれています。ScanFrontの設定については以下の取扱説明書（電子マニュアル）を参照してください。

取扱説明書（電子マニュアル）：本書

取扱説明書は、付属の取扱説明書 CD に収納されている PDF 形式の電子マニュアルで、ScanFront の概要から取り扱い、メンテナンス、トラブルシューティングなど、ScanFront を取り扱う項目全般について説明しています。

❏ マニュアル内の表記について

本製品のマニュアルで使用している記号・表示について説明します。マニュアルをお読みになる前に、ひととおり目を通して、その意味を理解しておいてください。

(→ P.1- xx)

参照ページを表します。カッコ内の数字は、書かれていることについての詳しい説明が記載されているページ数です。

警告

取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う恐れのある警告事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの警告事項をお守りください。

注意

取り扱いを誤った場合に、傷害を負う恐れや物的損害が発生する恐れのある注意事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの注意事項をお守りください。

重要

操作上必ず守っていただきたい重要事項や禁止事項が書かれています。機械の故障や損傷を防ぐために、必ずお読みください。

ヒント

操作の参考となることや補足説明が書かれています。必ずお読みください。

❏ 本書の構成について

本書は以下の構成になっています。

第１章　お使いになる前に

ScanFrontの概要について説明します。

第２章　ScanFrontの取り扱い

使用できる原稿の種類と、ScanFrontの基本操作について説明します。

第３章　ScanFrontのセットアップ

ScanFrontのセットアップ手順とScanFront本体での「管理者設定」について説明します。

第４章　Webメニュー（管理者モード）

管理者が設定するするためのWebメニュー（管理者モード）について説明します。

第５章　Webメニュー（ユーザモード）

ユーザが設定するするためのWebメニュー（ユーザモード）について説明します。

第６章　ScanFrontの使用方法

ユーザによるScanFrontの操作手順について説明します。

第７章　メンテナンス

清掃と、搬送ローラーの交換について説明します。

第８章　こんなときは

困ったときや、メッセージが表示されたときの対処方法について説明します。

第９章　付 録

仕様とサポート情報について説明します。

❏ 目次

第５章　Web メニュー（ユーザモード）

第６章　ScanFront の使用方法

第 1 章　お使いになる前に

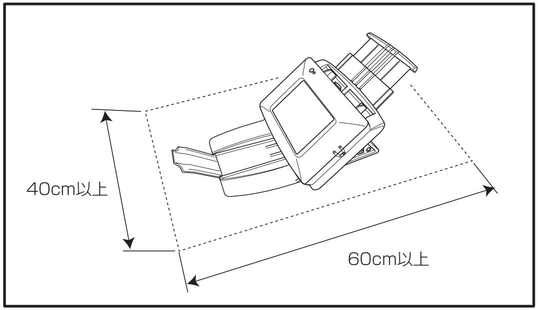
1. 安全にお使いいただくために

本製品を安全にお使いいただくため、以下の項目についての注意事項を必ずお読みください。

❑ 設置場所について

本機の性能は、設置されている環境によって影響を受けることがあります。設置する場所が次の環境条件に合っていることを確認してください。

- 本機の周りには操作、保守、換気のためのスペースを十分確保してください。



- 直射日光の当たる場所は避けてください。やむをえない場合は、厚いカーテンなどで日光をさえぎってください。
- ほこりの多い場所は避けてください。ほこりは本体内部に悪影響を及ぼすことがあります。
- 水道の蛇口、湯沸器、加湿器など高温、多湿になる場所の近くや、アンモニアガス、シンナーなどが発生する場所は避けてください。
- 不安定な場所や、振動しやすい場所は避けてください。
- 温度が急激に変化する場所は避けてください。本体内部で結露が発生すると品質低下の原因になります。以下の環境下でお使いください。

  室温　　10℃―32.5℃
  湿度　　20%―80%RH

- スピーカーやテレビ、ラジオなど磁気を発生する機器の近くは避けてください。

❑ AC アダプタについて

- 電源は必ず 100V のコンセントからとってください。
- 他の電気機器と同じコンセントを使用しないでください。また、延長コードを使う場合は、延長コードのアンペア数値に注意してください。
- AC アダプタの分解、改造は、危険ですので絶対に行わないでください。
- AC アダプタおよび電源コードの上に物を置いたり、踏みつけたりしないでください。
- 電源コードを束ねたまま使用しないでください。
- 電源コードを強く引っ張らないでください。電源プラグを抜くときは、電源プラグを持ち、そのまま抜いてください。
- 非常時に電源プラグが抜けるように、電源プラグの周りには物を置かないでください。
- 付属のACアダプタ以外は使用しないでください。また、付属の AC アダプタを他の製品に使用しないでください。
- 電源について不明な点があるときは、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

❏ スキャナの移動

- スキャナを移動する場合は、本体を落とさないように必ず両手でしっかり持ってください。スキャナ本体の質量は約 3.4kg です。
- スキャナを移動する場合は、トレイを収納し、インターフェースケーブルや AC アダプタを、必ず外してください。ケーブル類を付けたまま持ち運ぶと、無理な力が加わってプラグやコネクタが損傷することがあります。

❏ 日常の取り扱いについて

警告

本製品をお使いになるときは、次の警告をお守りください。これらは火災や感電の原因になります。

- ■ アルコール、シンナーなどの引火性溶剤の近くには設置しないでください。
- ■ 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工しないでください。また、重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げないでください。
- ■ 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
- ■ タコ足配線をしないでください。
- ■ 電源コードを結んだり、束ねたりしないでください。電源プラグは奥まで確実に差し込んでください。
- ■ 付属の電源コード、AC アダプタ以外は使用しないでください。
- ■ 本機を分解したり、改造しないでください。
- ■ AC アダプタの分解、改造は、危険ですので絶対に行わないでください。
- ■ 本機の近くでは可燃性のスプレーを使用しないでください。
- ■ 清掃の際は電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
- ■ 本機の清掃には、水を含ませて固くしぼった布を使用してください。アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。
- ■ 異常音、発煙、発熱、異臭があったり、電源を入れても機械が動かないなどの異常が発生した場合は、直ちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そして、お買い求めの販売店または担当サービスにご連絡ください。
- ■ 本機を落としたり、ぶつけたりして、強いショックを与えないでください。万一本機が破損した場合は、直ちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そして、お買い求めの販売店または担当サービスにご連絡ください。
- ■ 本機を移動させる場合は、必ず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意

- ■ ぐらついた台の上や傾いたところなどの不安定な場所や、振動の多い場所には設置しないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因になることがあります。
- ■ 通気孔をふさがないでください。本機の内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
- ■ 本機の上には、クリップ、ステイプルの針、ネックレスなどの金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入ると火災や感電の原因になることがあります。万一これらが本機の中に入ってしまった場合は、直ちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そしてお買い求めの販売店または担当サービスにご連絡ください。
- ■ 湿気やほこりの多い場所には設置しないでください。火災や感電の原因になることがあります。
- ■ 本機の上には物を載せないでください。置いたものが倒れたり、落下して、けがの原因になることがあります。

■ AC100V 以外の電源電圧で使用しないでください。火災や感電の原因になることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張ると、芯線の露出、断線などで、コードが傷つき、火災や感電の原因になることがあります。

■ いつでも電源コードが抜けるように、コンセントの周りには物を置かないでください。非常時に電源コードが抜けなくなります。

■ 本機の内部に、水や引火性溶剤（アルコール、シンナー、ベンジンなど）をこぼさないでください。火災や感電の原因になることがあります。

■ 長時間ご使用にならないときは、安全のため、必ず AC アダプタのプラグを本体から抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 本機を操作するときは、ゆったりとした服装を避け、装飾品など動作中の本機に引っ掛かりそうなものを身につけないでください。本機に巻き込まれてけがの原因になることがあります。特にネクタイや長い髪などはご注意ください。万一巻き込まれた場合は、直ちに電源を切って機械を停止してください。

■ 原稿をセットするときや、詰まった紙を取り除くときは、慎重に扱ってください。紙の端で手を切るなど、思わぬけがをすることがあります。

❏ 指紋センサーについて（ScanFront 220P）

● 以下のような場合、指紋センサーの故障および破損の原因になることがあります。

- 指紋センサーにものを落としたり、強い衝撃を与えたりする
- 指紋センサーの表面をひっかいたり、先のとがったものでつついたりする
- 指紋センサーに爪や金具など硬いものを押し付けて、指紋センサーの表面にキズが入っている
- 汚れた手で指紋センサーに触れたことにより、細かい異物などで指紋センサー表面にキズが付いている、表面が汚れている
- 指紋センサーの表面にシールを貼ったり、インクなどで塗りつぶしたりする

● 指紋認証の失敗が多発するようなときは、指紋センサーの汚れが原因になっていることが考えられます。定期的に指紋センサーの表面を清掃してください。

● 指紋センサーを清掃する際は、乾いたやわらかい布で表面の汚れを取り除いてください。

● 指紋センサーの周りにゴミがたまったような場合でも、先のとがったものは使用しないでください。指紋センサーの故障の原因になります。

● 静電気を帯びた状態で指紋センサーに触れると、指紋センサーおよび本体の故障の原因となる場合があります。指紋センサーに触れる前に金属に触れるなどして静電気を除去してください。特に冬季など乾燥により静電気を帯びやすい時期は、特に注意してください。

❏ 廃棄について

● 本機を廃棄する前に、初期化を行って登録したデータを必ず消去してください。

● 本機および付属品を廃棄するときは、必ず法律およびその地域の条例に従って廃棄するかお買い求めの販売店にご相談ください。

2. ScanFront 220/220P の特長

ScanFront 220/220P の主な特長は以下のとおりです。

❏ ScanFront 220/220P

● **コンパクトネットワークドキュメントスキャナ**

幅 310 mm ×奥行き 234 mm ×高さ 158 mm のコンパクト設計のネットワークドキュメントスキャナで、名刺からA4サイズまでの原稿をスキャンすることができます。

● **多様な送信先をサポート**

スキャンした画像ファイルは、ネットワークを経由して以下の場所に送信することができます。

- 共有フォルダ
- FTP サーバ
- 電子メール

但し、ファイアウォールの設定を必要とする FTP サーバへは送信できません。

● **多様な読み取りモード**

読み取りモードとして、「白黒」、「誤差拡散」、「文字強調」、「グレー」、「カラー」の 5 種類の読み取りモードが用意されています。

* 送信する画像のファイル形式によって選択できる読取モードが変わります。

● **高速原稿給紙**

A4 サイズの原稿を最大 26 枚 / 分で読み取ります。

* 読取条件：白黒 / 片面 /200dpi

● **USB メモリーサポート**

USB メモリーへの画像ファイルの保存をサポートし、ネットワークに接続していない／ネットワークを使用していない場所への画像ファイルの移動が可能です。

● **タッチパネルオペレーション**

8.5 インチ TFT WIDE-VGA(800 x 480 ドット表示) タッチパネルの採用により、操作は全て画面に触れて行います。

● **WEB メニューよる設定**

ScanFront の基本設定や、ユーザ登録、ジョブボタンの登録などを、コンピュータの Web ブラウザ（Web メニュー）で行います。

* Web メニューには管理者が設定を行う「管理者モード」と、ユーザがアドレスやジョブボタンの登録を行うための「ユーザモード」があります。

● **ジョブボタン**

送信先と読み取り条件をあらかじめジョブボタンに登録し、ジョブボタンを押してスキャンを行います。

● **共有アドレス帳、共有ジョブボタン**

すべてのユーザが使用することのできるアドレス帳（共有アドレス帳）と、ジョブボタン（共有ジョブボタン）です。

● **マイアドレス帳、マイジョブボタン**

すべてのユーザが共有して使用するアドレス帳とジョブボタンの他に、ユーザごとに使用する「マイアドレス帳」、「マイジョブボタン」が用意されています。

● **マウス、キーボード対応**

タッチパネルによる操作に加え、マウス、キーボードによる操作が可能です。(→ P.2-4)

● **ディレクトリサービス対応**

ディレクトリサービス（Active Directory、LDAP）に対応し、ドメインサーバやLDAPサーバに登録されているユーザアカウントや電子メールアドレスを参照して利用することができます。

● **機能制限**

使用するユーザに合わせて送信先やホーム画面の使用などを制限することができます。

● **原稿サイズ検知**

スキャンした原稿のサイズを検知して、周りにできる白い部分を削除します。

- **文字強調モード**
  原稿の下地や文字の背景色を処理し、文字の部分を強調して読みやすくします。
  * 原稿によっては有効に機能しない場合があります。
- **長さによる重送検知機能**
  原稿の長さの比較によって原稿の重なりを検知し、搬送を停止します。
  * 1枚目の原稿の長さを基準とし、長さの異なる原稿が搬送されたときに重送を検知します。
- **白紙スキップ機能**
  原稿の両面をスキャンして、白紙として判断した面の画像の保存をスキップします。
- **斜行補正**
  スキャンした画像から原稿が斜めに搬送されたことを検知したときに、画像をまっすぐに補正します。
- **画像回転**
  スキャンした画像を 90 度単位で回転または、原稿内の文字の向きを検知して、文字の向きが正しくなるように画像を 90 度単位で回転します。
- **裏写り除去**
  薄い原稿をスキャンした時に起きる原稿の裏写りを除去します。
- **ドロップアウト / 色強調機能**
  スキャン時に赤、青、緑色から 1 色を指定して読み取らないようにするドロップアウト機能または、指定した色を強調する機能を備えています。
- **カードスキャン**
  ISO/JIS 規格に対応したクレジットカードや IC カードをスキャンすることができます。
- **プレスキャン**
  スキャンを開始したときに原稿を1枚スキャンして中断し、1 枚目の画像で明るさとコントラストを調整してからスキャンを行います。

❏ ScanFront 220P

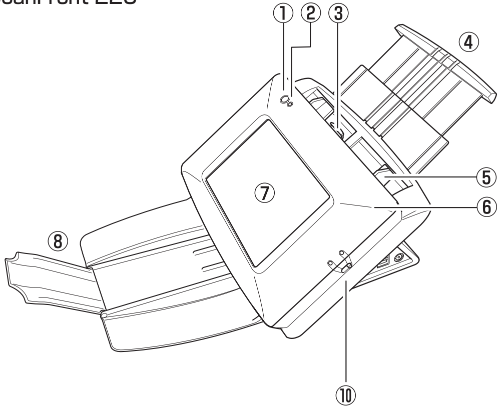
- **指紋認証**
  ユーザ認証に指紋センサによる認証方式の採用により、ユーザ名、パスワードを入力しないで ScanFront 220P にログインすることができます。
- **超音波重送検知機能**
  原稿の長さによる重送検知機能の他に、超音波センサーによる重送検知機能を備えています。

3. 各部の名称と機能

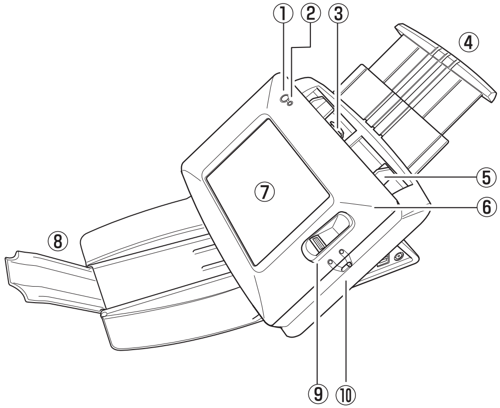
ScanFront 220/220P の各部の名称と機能は以下のとおりです。

❏ 前面、給排紙トレイ

ScanFront 220



ScanFront 220P



① **電源スイッチ**
電源をオンにします。(→ P.3-4)

* 電源をオフにするときはパネルに表示されている「電源オフ」ボタンで電源をオフにします。

② **電源ランプ**
電源がオンになると点灯します。(→ P.3-4)

③ **ロックレバー**
パネルユニットをロックし、レバーを手前に引くとパネルユニットのロックが解除されます。(→ P.2-8)

④ **給紙トレイ**
原稿の長さに合わせて給紙トレイを引き出します。(→ P.2-3)

⑤ **原稿ガイド**
原稿の幅に合わせて位置を調整します。(→ P.2-5)

⑥ **パネルユニット**
紙詰まりやメンテナンスの際に開きます。(→ P.2-8)

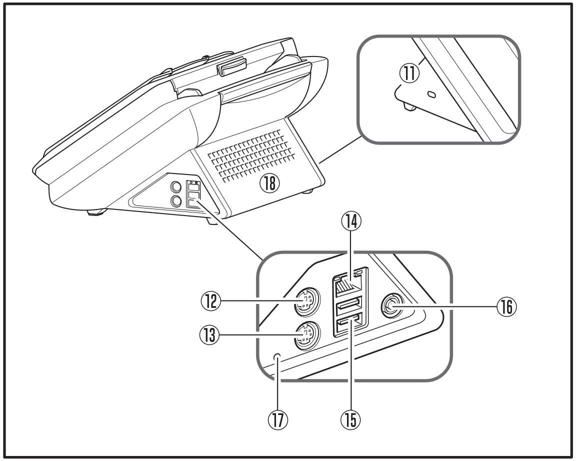
⑦ **タッチパネル**
画面に触れて ScanFront を操作します。

⑧ **排紙トレイ**
ScanFrontを使用するときに開きます。スキャンした原稿が飛散するようなときは補助トレイを開き、排紙トレイの上で原稿が丸まってしまうようなときは排紙トレイを取り外して使用します。(→ P.2-3)

⑨ **指紋認証センサー（ScanFront 220P のみ）**
指紋を登録、認証するための指紋センサーです。(→ P.2-9)

⑩ **給紙切替えレバー**
原稿の給紙方法を切り替えます。(→ P.2-4)

❏ 側面、背面



⑪ **ケンジントンスロット**
盗難防止用のスロットで、市販のキーチェーンなどを接続して盗難から防止します。

⑫ **PS/2 コネクタ（緑）**
PS/2 マウスを接続します。（→ P.2-4）

⑬ **PS/2 コネクタ（紫）**
PS/2 キーボードを接続します。（→ P.2-4）

⑭ **LAN ポート(RJ-45)**
RJ-45(10Base-T/100Base-TX）に対応したネットワークケーブルを接続します。（→ P.3-3）

⑮ **USB ポート**
USB1.1/Hi-Speed USB2.0に対応したUSBメモリまたは USB キーボード、USB マウスを接続します。

⑯ **電源コネクタ（DC16V）**
付属の AC アダプタのプラグを接続します。（→ P.3-3）

⑰ **サービス用スイッチ**
サービス用のスイッチです。この穴には何も差し込まないでください。

⑱ **通気孔**

4. ネットワーク環境について

ScanFrontを使用するためには、以下のネットワーク環境が必要です。お使いのネットワーク環境についての詳細については、ネットワークシステムの管理部門にお問い合わせください。

❏ ネットワーク環境

● **Microsoft WindowsNetwork 準拠**

ScanFrontは、Microsoft Windows Networkの環境でお使いください。

● **ネットワークプロトコル**

ScanFront をネットワークに接続するためのプロトコルには、TCP/IP プロトコルを使用します。

● **IP アドレスの割り当て**

TCP/IP プロトコルでは、ネットワークに接続する 1 台のデバイスに 1 つの IP アドレスを使用します。お使いのネットワークの管理部門に相談し、ScanFront に割り当てる IP アドレスを決定してください。

● **DHCP 対応**

ScanFrontは、DHCP(Dynamic Host Configration Protocol)に対応しています。DHCPサーバが用意されているネットワーク環境では、IP アドレスを DHCP サーバから自動取得することができ、ScanFront 本体での IP アドレスの設定が不要になります。

* DHCP で取得できる IP アドレスの数は、管理部門で管理されています。詳細については、お使いのネットワークの管理部門にお問い合わせください。

● **100Base-TX 対応**

ScanFrontは 100Base-TX に対応しています。但し、ネットワークに接続されている他のデバイスや、HUB の種類によっては、ネットワーク本来の通信速度を得られない場合があります。

● **SMTP（電子メール）サーバ**

SMTP サーバに対応し、画像ファイルを ScanFront から直接電子メールで送信します。

● **FTP サーバ**

FTPサーバは、ローカルネットワーク内に設定されている FTP サーバに対応し、ファイアウォールの設定が必要な FTP サーバへは送信できません。

❏ その他

● **ActiveDirectory**

ActiveDirectoryはWindows2000で採用されたディレクトリサービスで、ActiveDirectoryに登録されている情報を他のコンピュータが使用することができます。

ScanFront では、認証サーバとして登録したドメインサーバに登録されているユーザ情報で認証を行い、ScanFront にログインすることができます。

* OS に Windows NT Server を使用しているドメインサーバは、認証サーバとして登録できません。

● **LDAP サーバ**

LDAP（Lightweight Directory Access Protocol）プロトコルで接続できるLDAPサーバに対応し、LDAP サーバに登録されているメールアドレスを参照して使用することができます。

第２章　ScanFrontの取り扱い

1. 原稿について

ScanFront は、名刺、小切手などの大きさのものから、 A4 サイズまでの原稿をスキャンすることができます。
搬送できる原稿は、給紙方法によって以下のサイズ、紙厚の原稿が使用できます。

❏ 普通紙

サイズ

幅　：50.8 ～ 216mm
長さ：53.9 ～ 355.6mm

紙厚（分離給紙の場合）

52 ～ 128g/m^2（0.06 ～ 0.15mm）

紙厚（非分離給紙の場合）

42 ～ 157g/m^2（0.05 ～ 0.20mm）

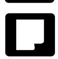
重要　読み取る原稿には一定の基準があります。次の項目をよくお読みください。

- 複数枚の原稿を一度に読み取るときは、原稿のサイズ、厚さ、紙質をそろえてください。異なる条件の原稿を給紙すると、紙詰まりの原因になります。
- インクが乾いていない原稿は、ローラーや読み取りガラスを汚し、画像にすじが入る原因になったり、他の原稿を汚す原因になります。必ず乾かしてから読み取りを行ってください。
- 鉛筆などで書かれた原稿は、ローラーや読み取りガラスを汚し、画像にすじが入る原因になったり、他の原稿を汚す原因になります。このような原稿を読み取ったあとは、スキャナの内部を清掃してください。
- 薄い紙の両面原稿を読み取る場合、読み取ったときに裏写りすることがあります。あらかじめアプリケーションソフトウェアで読み取る明るさを調整してから実行してください。
- 次のような原稿を読み取ろうとすると、紙詰まりや故障の原因になりますのでご注意ください。このような原稿を読み込むときは、複写機でコピーしてから行ってください。

 しわや折り目が入っている

 カーボン紙

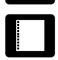
 カール（巻き付け）がある

 表面がコーティングされている

 破れている

 半透明の薄紙など極端に薄い

 クリップやステイプルの針が付いている

 四角いとじ穴がある

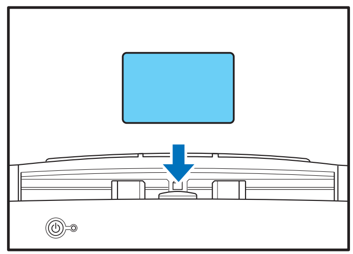
❏ 名刺

サイズ	幅 50.8 mm ×長さ 53.9mm 以上
紙厚	300g/m^2（0.35mm）以下

重要
- 名刺の束をセットして正常に搬送できない場合は、セットする名刺の枚数を減らしてください。
- 名刺のサイズや厚さ、セットする方向によっては排紙時の積載順が狂うことがあります。

❏ カード

サイズ	53.9 × 85.5mm（ISO/JIS 規格準拠）
カード厚	0.76mm 以下
挿入方向	横送りのみ



注意　**カードを縦方向にセットすると、搬送時にカードに負荷がかかり正常に排出されない場合があります。さらに、エラーになったカードを取り除く際に、カードを損傷することもあるのでカードの挿入には十分注意してください。**

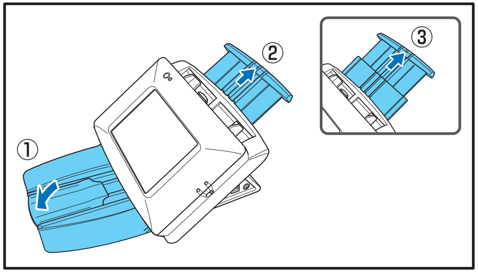
2. スキャナの準備

原稿をセットするときは、スキャンする原稿のサイズに合わせて給紙トレイを引き出し、原稿の給紙方法（分離給紙、非分離給紙）に合わせて給紙切替レバーの位置を切り替えます。

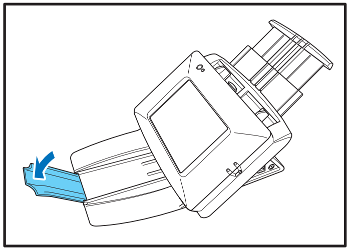
❏ 給紙トレイ、排紙トレイの準備

スキャンする原稿に合わせてトレイを準備します。

1. **排紙トレイを開きます①。**
2. **セットする原稿の長さに合わせて給紙トレイを引き出します②, ③。**

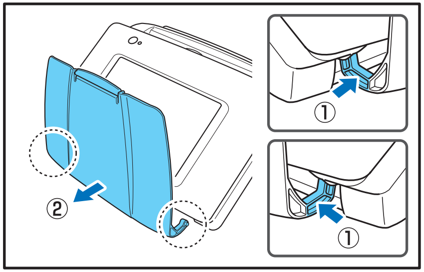


ヒント　排紙された原稿が飛散するようなときは中央の補助トレイを開きます。

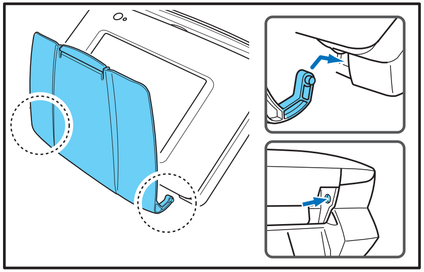


ヒント　薄い原稿をスキャンしたときなど、排紙された原稿が排紙トレイの上で丸まってしまうようなときは、排紙トレイを取り外して使用してください。

排紙トレイを取り外すときは、排紙トレイの矢印部を両側から押し込んで①、取り外します②。



排紙トレイを取り付けるときは、排紙トレイの両側の凸部を本体の穴に差し込んで取り付けます。



排紙トレイを取り付けたあとは、排紙トレイが外れないことを確認してください。

❏ 給紙切り替えレバー

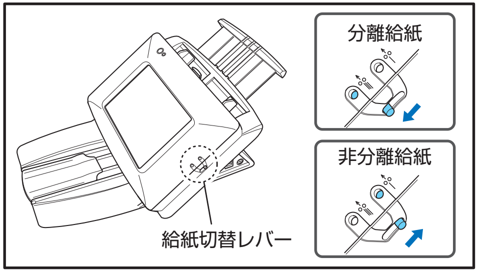
原稿の給紙方法に合わせてレバーの位置を変更します。

分離給紙

原稿の束を１枚ずつ分離させて連続給紙するときはレバーを下にします。

非分離給紙

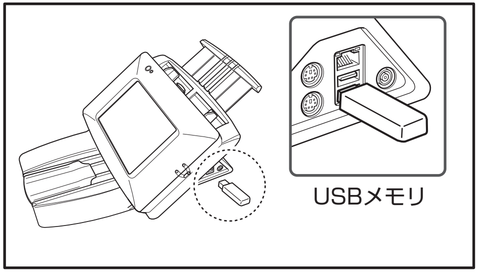
複数枚綴りの伝票などを１枚ずつに分離しないで給紙するときはレバーを上にします



重要　レバーを上（非分離給紙）にして原稿の束をスキャンすると、数枚まとめて搬送されます。

❏ USBポートについて

USBポートには、画像ファイルを保存するためのUSBメモリを挿入または、USBキーボード、USBマウスを接続してScanFrontを操作することができます。

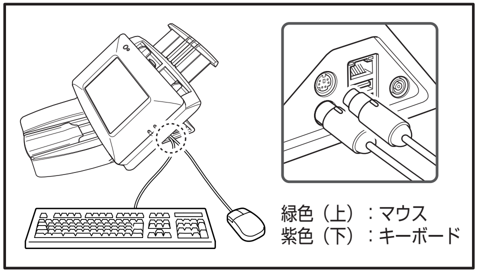


重要

- USBメモリーの挿入は、ScanFrontが起動している状態のときに行ってください。USBメモリーを挿入したまま電源をオンにした場合、USBメモリーによっては正常に認識できない場合があります。
- USBメモリは、セキュリティにより書き込みが保護されていないUSBメモリをお使いください。USBメモリーへの書き込みが保護されている場合、USBメモリーへの書き込みができません。
- USBメモリーには、画像を保存するための空き容量を十分確保してください。

❏ PS/2キーボードとPS/2マウスの使用

PS/2ポートは、PS/2キーボードとマウスを接続してScanFront操作することができます。



重要　PS/2キーボード、マウスの抜き差しは、ScanFrontの電源をオフにして行ってください。

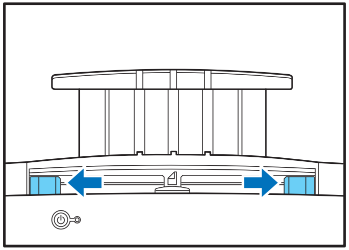
3. 原稿のセット

ScanFront に原稿をセットするときは原稿を裏返し、上端を下にしてセットします。

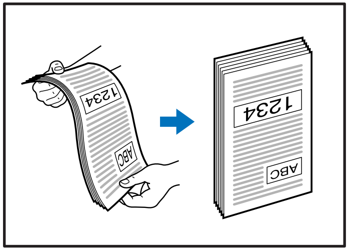
❏ 原稿のセット

原稿を、以下の手順でセットします。

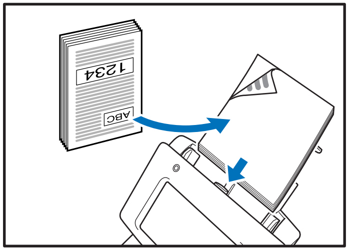
1. 原稿ガイドの位置を原稿の幅より広くします。



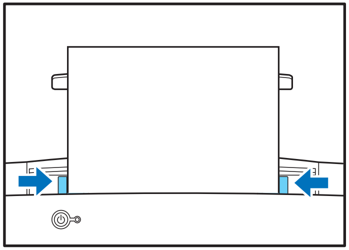
2. 原稿をよくさばき､先頭ページの上端が一番低くなるようにずらしておきます。



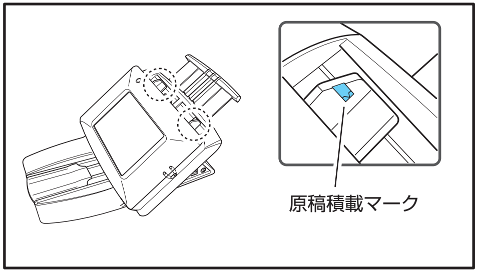
3. 原稿を裏返し、上端を下にしてセットします。



4. 原稿ガイドを原稿の幅に合わせます。



重要　給紙トレイへの原稿の積載は、普通紙で 50 枚以下とし、原稿をセットするときは原稿ガイドにある積載マークを越えないようにセットしてください。



❑ カードのセット

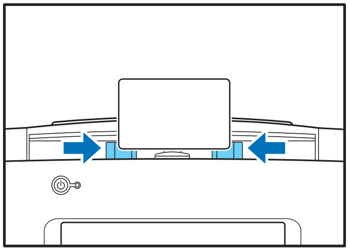
カードをスキャンするときは､以下の手順でセットします。

1. 給紙切り替えレバーを上（非分離給紙）にします。

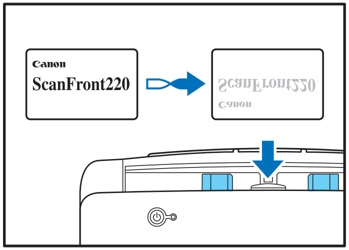
重要

カードをスキャンするときは給紙切り替えレバーを非分離給紙にして、必ず１枚ずつスキャンしてください。

2. 原稿ガイドの位置をカードの横幅に合わせます。

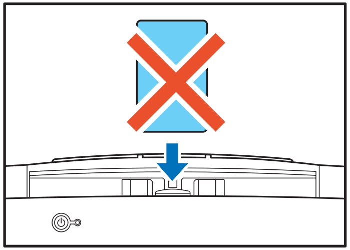


3. カードを横向きにして裏返し､上端を下にしてセットします。

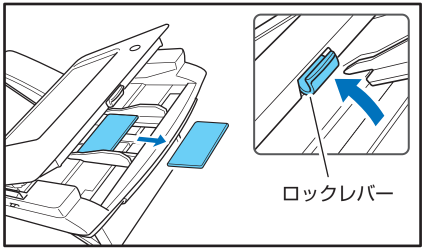


注意

・カードを縦方向にセットすると、搬送時にカードに負荷がかかり正常に排出されない場合があります。さらに、エラーになったカードを取り除く際に、カードを損傷することもあるのでカードの挿入には十分注意してください。



・セットしたカードを取り除くときはロックレバーを引き、パネルユニットを開いてから取り除いてください。パネルユニットを閉じた状態で指を差し込むとけがをする原因になります。

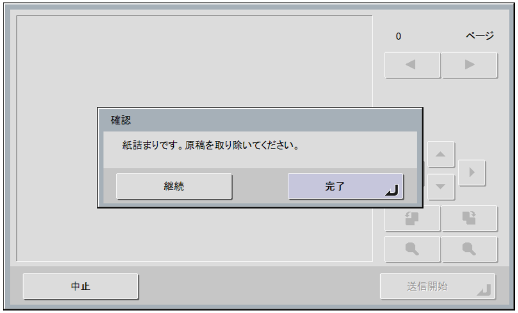


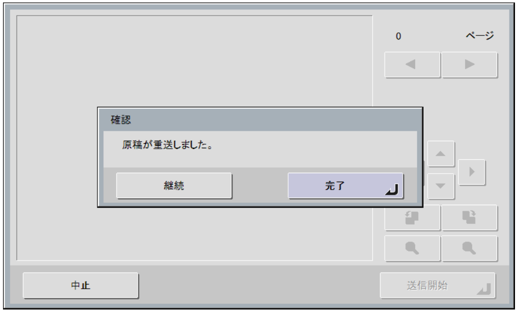
4. 紙詰まりや重送を検知したときの処理

紙詰まりや重送を検知したときは、搬送を停止し、スキャンを中断します。

1. 表示されたメッセージを確認します。

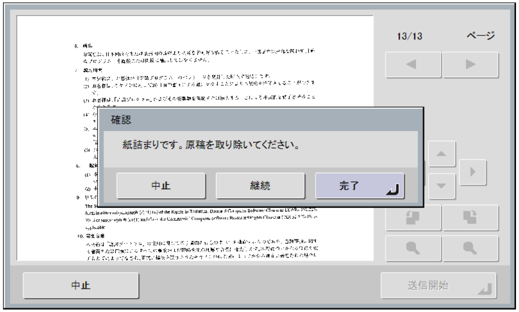
１枚目の原稿で紙詰まりや重送を検知したときは、以下のメッセージが表示されます。





ヒント
- スキャンを継続するときは画面に触れずに原稿の処理を行います。原稿をセットし 直してから［継続］を押すとスキャンを再開します。
- ［完了］を押すと、前画面に戻ります。

スキャンの途中で紙詰まりや重送を検知したときは、以下のメッセージが表示されます。



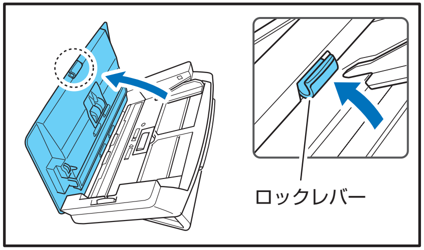


ヒント
- スキャンを継続するときは画面に触れずに原稿の処理を行います。原稿をセットし 直してから［継続］を押すとスキャンを再開します。
- ［完了］を押すと、紙詰まりや重送を検知する前にスキャンした画像を保存して、送信画面になります。
- ［中止］を押すと、スキャンした画像を破棄して前画面に戻ります。

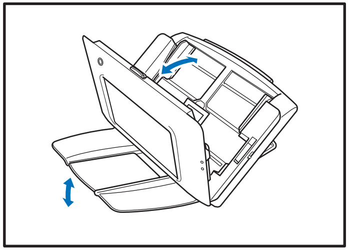
重 要
上記のメッセージが表示されているとき ScanFront が「ローパワーモード」に移行すると、それまでにスキャンしたデータがすべて破棄されます。（→ P.4-25「ローパワーモード」）

2. スキャンした原稿と、給紙トレイに残っている原稿を取り除きます。

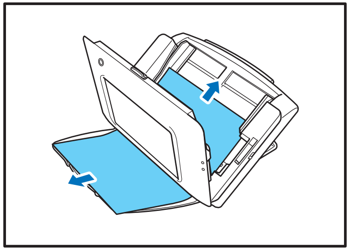
3. ロックレバーを手前に引いて、パネルユニットを止まるところまで開きます。



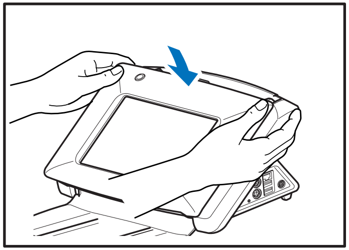
注意　パネルユニットの開閉に連動して排紙トレイが上下します。パネルユニットを開くときは、排紙トレイを押さえないでください。



4. 詰まっている原稿を取り出しやすい方向から引き出します。



5. パネルユニットを元に戻し、原稿をセットし直します。



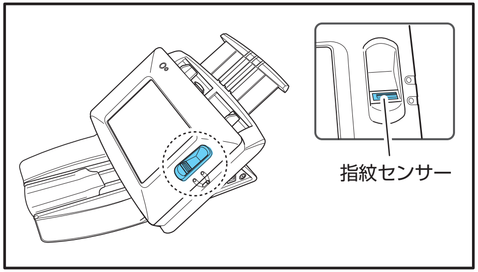
6. ［継続］ボタンを押して、スキャンを再開します。

重要
- 重送が繰り返し起きるようなときは、セットする原稿の枚数を 10 枚程度に減らしてください。
- 紙詰まりや重送が起きる原因として、静電気による原稿の密着、搬送ローラーの汚れや磨耗が原因になっている場合があります。搬送ローラーが汚れているときは、ローラーの清掃を行い、ローラーを清掃しても紙詰まりや重送が起きるようなときは、交換ローラーキットをお買い求めになり、搬送ローラー（フィードローラー、リタードローラー）と原稿押えガイドを交換してください。（→ P.7-8）

5. 指紋センサーについて（ScanFront 220P）

ScanFront 220P には、指紋を登録してユーザー認証を行うための指紋センサーが搭載されています。
指紋センサーは精密部品です。扱いには十分注意してください。

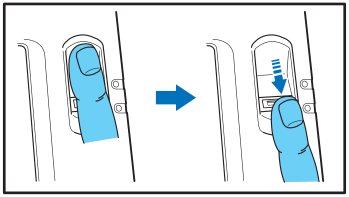
❑ 指紋センサーの取り扱い上の注意



- 以下のような場合、指紋センサーの故障および破損の原因になることがあるので注意してください。
  - 指紋センサーにものを落としたり、強い衝撃を与えたりする
  - 指紋センサーの表面をひっかいたり、先のとがったものでついたりする
  - 指紋センサーに爪や金具など硬いものを押し付けて、指紋センサーの表面にキズが入っている
  - 汚れた手で指紋センサーに触れたことにより、細かい異物などで指紋センサー表面にキズが付いている、表面が汚れている
  - 指紋センサーの表面にシールを貼ったり、インクなどで塗りつぶしたりする
- 指紋認証の失敗が多発するようなときは、指紋センサーの汚れが原因になっていることが考えられます。定期的に指紋センサーの表面を清掃してください。
- 指紋センサーを清掃する際は、乾いたやわらかい布で表面の汚れを取り除いてください。
- 指紋センサーの周りにゴミがたまったような場合でも、先のとがったものは使用しないでください。指紋センサーの故障の原因になります。
- 静電気を帯びた状態で指紋センサーに触れると、指紋センサーおよび本体の故障の原因となる場合があります。指紋センサーに触れる前に金属に触れるなどして静電気を除去してください。特に冬季など乾燥により静電気を帯びやすい時期は、特に注意してください。

❑ 指紋認証について

- 指紋登録および認証は、以下の手順で行います。
  1. 指の第 1 関節をセンサーの位置に合わせ、指を指紋センサに押し付けます。
  2. 指を押し付けたまま一定速度でゆっくり、まっすぐスライドさせて指紋を読み取ります。



- 指紋認証は、指紋の固有情報を認証に利用するものです。指紋が磨耗している場合など指紋の特長がすくない指の場合、指紋認証機能が正常に機能しないことがあります。
- 指紋の登録には同じ指で 3 回の読み取りが必要です。
- 指紋の認証は、登録時と認証時の指紋の状態によって認証性能が異なり、以下のようなときは認証性能が低下します。
  - 指が濡れている / 汗をかいている
  - 指が汚れている
  - 汗や油で指紋の溝が埋まっている
  - 指が乾燥している（乾燥肌）
  - 傷や火傷などで指紋の一部が欠けている
  - 指紋が磨耗して薄くなっている
- 手を洗ったり、クリームを塗るなどして指紋の状態を変更することによって、認証性能が改善されることがあります。
- スライドの早さによっては正常に認証できないことがあります。メッセージに従ってスライドの早さを調整してください。
- 指紋認証は本人の認証、照合を保証するものではありません。

ヒント　指紋の登録、認証の手順については、第 6 章「ScanFront の使用方法」を参照してください。

第 3 章　ScanFront のセットアップ

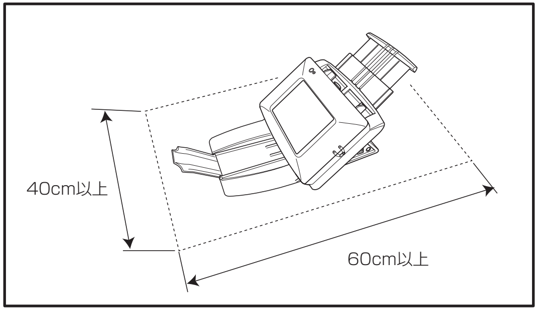
1. セットアップする前に

ScanFront をセットアップする前に ScanFront を設置場所に移動して、AC アダプタとネットワークケーブルを接続します。

❑ 設置場所について

本機の性能は、設置されている環境によって影響を受けることがあります。設置する場所が次の環境条件に合っていることを確認してください。

- 本機の周りには操作、保守、換気のためのスペースを十分確保してください。

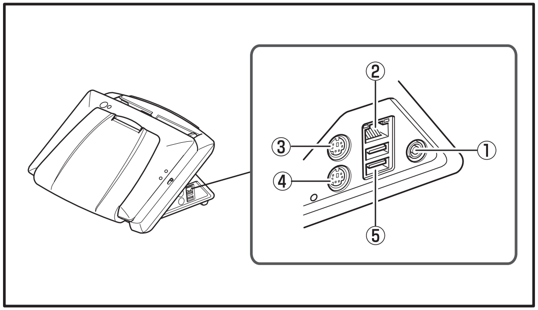


- 直射日光の当たる場所は避けてください。やむをえない場合は、厚いカーテンなどで日光をさえぎってください。
- ほこりの多い場所は避けてください。ほこりは本体内部に悪影響を及ぼすことがあります。
- 水道の蛇口、湯沸器、加湿器など高温、多湿になる場所の近くや、アンモニアガス、シンナーなどが発生する場所は避けてください。
- 不安定な場所や、振動しやすい場所は避けてください。
- 温度が急激に変化する場所は避けてください。本体内部で結露が発生すると品質低下の原因になります。以下の環境下でお使いください。

  室温　10℃―32.5℃
  湿度　20%―80%RH
- スピーカーやテレビ、ラジオなど磁気を発生する機器の近くは避けてください。

❑ インターフェース部

インターフェース部は、ScanFront の右側面にあります。



① 電源コネクタ：付属の AC アダプタのプラグを接続します。

② LAN ポート：RJ-45 のモジュラージャックを使用したネットワークケーブルを接続します。

③ PS/2 コネクタ（緑）：PS/2 マウスを接続します。

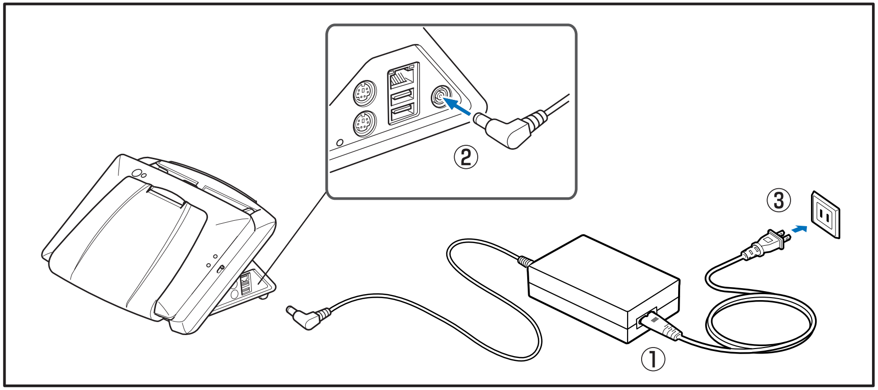
④ PS/2 コネクタ（紫）：PS/2 キーボードを接続します。

⑤ USB ポート：USB メモリまたは USB マウス、USB キーボードを接続します。

❏ AC アダプタの接続

付属の AC アダプタを、下図の手順で接続します。

注意 **AC アダプタと電源コードは、必ず付属品を使用してください。**



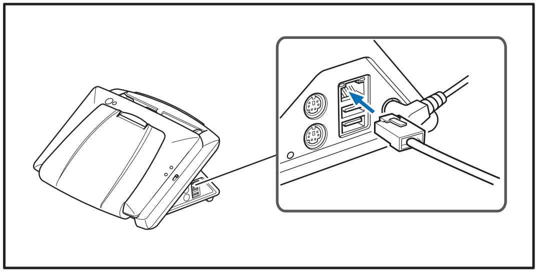
① 電源コードと AC アダプタを接続します。

② AC アダプタの電源プラグを電源コネクタに差し込みます。

③ 電源プラグをコンセントに接続します。

❏ ネットワークケーブルの接続

ネットワークケーブルのコネクタ（RJ-45）を LAN ポートに差し込みます

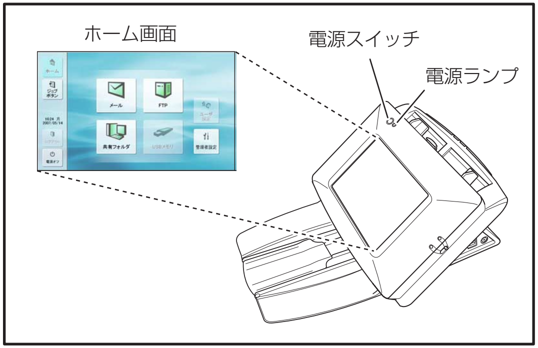


2. 電源のオン / オフ

ScanFront の電源は、「電源スイッチ」でオンにし、操作パネルに表示されている「電源オフ」ボタンで電源をオフにします。

❏ 電源のオン

電源スイッチを押して、ScanFront の電源をオンにします。電源ランプが点灯し、ホーム画面が表示されます。



重要

- 電源スイッチをオンにしてからホーム画面が表示されるまで約 40 秒かかります。
- 電源ランプが点灯した状態でパネルが表示されていないときは、ディスプレイオフモードによりパネルの表示がオフになっています。このようなときは、パネルを押すことによりディスプレイオフモードから復帰します。(→ P.4-25「デバイス動作設定－ディスプレイオフ」)
- 電源ランプが点滅した状態でパネルが表示されていないときは、ローパワーモードにより ScanFront の動作が停止しています。ローパワーモードから復帰するときは、電源スイッチを押してローパワーモードから復帰します。(→ P.4-25「デバイス動作設定－ローパワーモード」)

❏ 電源のオフ

パネル左下にある［電源オフ］ボタンを押して電源をオフにします。



重要

- ScanFrontの電源を入れ直すときは、電源をオフした後、約５秒間待ってから電源をオンにしてください。
- ScanFrontが動作しなくなったときは、電源スイッチを長押しすることにより、システムがシャットダウンされます。

3. ScanFront のセットアップ

ScanFront のセットアップは、導入時のネットワーク設定を「管理者設定」で行い、ScanFront を使用するための設定については「第４章 Web メニュー（管理者モード）」で設定を行います。

❏ 管理者設定について

管理者設定には以下の設定項目があります。詳細については、「管理者設定」（→ P.3-8）を参照してください。

ヒント

管理者設定の設定項目は、本体のメンテナンス項目（ローラーカウンタのリセット、タッチパネル調整、初期化）を除き「Web メニュー（管理者モード）」で設定することができます。詳細については「Web メニュー（管理者モード）について」（→ P.3-6）および「第４章 Web メニュー（管理者モード）」を参照してください。

設定項目	設定内容	管理者設定	Webメニュー（管理者モード）
ネットワーク設定	ネットワークへ接続するための「デバイス名」と「IPアドレス」を設定します	○	○
管理者のパスワードを変更	「管理者設定」、「Webメニュー」へのログインを制限するパスワードを設定します	○	○
設定情報のバックアップ/リストア	ScanFrontの設定をバックアップおよび、リストアします。	○	○
ログインタイプ選択	ユーザーのログイン画面を選択します。	○	○
ローラーカウンタリセット	搬送ローラーを交換した時にカウンタをリセットします。	○	−
ScanFront220の初期化	ScanFrontの使用環境を変更する時など、現在の設定をすべて消去するときに使用します。	○	−
タッチパネル調整	タッチパネルを押した位置と反応する位置がズレているときに調整します。	○	−
表示言語設定	ScanFrontのパネルに表示させる言語を選択します。	○	○

❏ Web メニュー（管理者モード）について

Web メニュー（管理者モード）には以下の設定項目があります。詳細については、第４章 Web メニュー（管理者モード）を参照してください。

ヒント　ユーザが設定する Web メニュー（ユーザモード）では、設定できる機能が制限されます。

設定項目	設定内容	Webメニュー（管理者モード）	Webメニュー（ユーザーモード）
ユーザー管理	ユーザーの新規登録と編集を行います。ユーザーモードでは設定の編集のみを行い、設定の一部の編集が制限されます。	○（→P.4-5）	△（→P.5-4）
アドレス帳設定	「共有アドレス帳」の登録と編集を行います。ユーザーモードでは「マイアドレス帳」の登録と編集を行います。	○（→P.4-10）	○（→P.5-6）
ジョブボタン設定	「共有ジョブボタン」の登録と編集を行います。ユーザーモードでは「マイジョブボタン」の登録と編集を行います。	○（→P.4-15）	○（→P.5-12）
デバイス設定	ScanFront本体の設定を行います。		
デバイスのネットワーク設定	ScanFront本体に設定されている「デバイス名」と「IPアドレス」を確認します	○（→P.4-23）	－
言語/タイムゾーン	ScanFrontのパネルに表示させる言語と、使用する地域の設定を行います。	○（→P.4-23）	－
デバイス動作設定	ユーザーの自動ログアウトや省電力モードを設定します。	○（→P.4-24）	－
ログイン設定	ユーザーのログイン画面を選択します。	○（→P.4-24）	－
管理者設定	管理者のパスワードとメールアドレスを登録します。	○（→P.4-25）	－
通信設定	メールサーバ、認証サーバの登録を行います。		
メールサーバ	電子メールを送信するためのSMTPサーバを登録します。	○（→P.4-27）	－

設定項目	設定内容	Webメニュー（管理者モード）	Webメニュー（ユーザーモード）
認証サーバ	Active Directoryでユーザーを検索できるドメインサーバを登録します。	○ (→P.4-27)	―
アドレス帳サーバ	電子メールのアドレス帳を検索できるLDAPサーバを登録します。	○ (→P.4-28)	―
システム設定	ScanFrontを管理するための設定を行います。		
全設定のバックアップ/リストア	ScanFrontの設定をバックアップおよび、リストアします。	○ (→P.4-30)	―
モジュールのバージョン情報	ScanFrontのモジュールのバージョン情報の表示および、バージョンアップを行います。	○ (→P.4-31)	―
ログ設定	ScanFrontの使用状況をログファイルに記録します。	○ (→P.4-32)	―

4. 管理者設定

管理者設定は、管理者パスワードを入力してログインします。

❏ 管理者設定へのログイン

ScanFront をネットワークに接続するための「デバイス名」、「IP アドレス」の設定を以下の手順で行います。

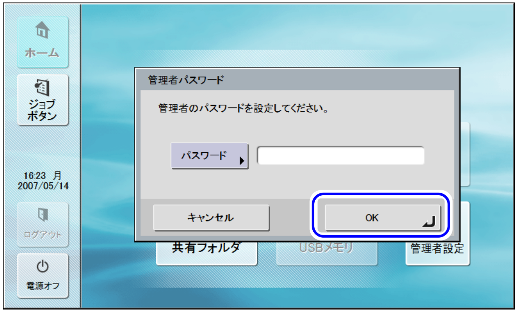
1.「管理者設定」を押します。



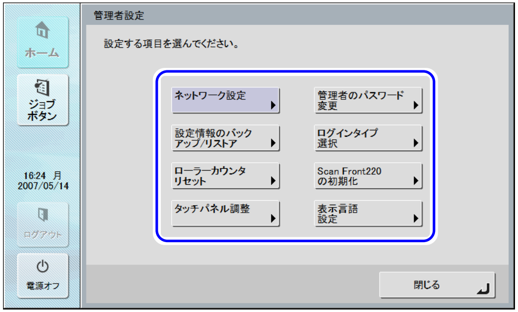
「管理者パスワード」の入力ボックスが表示されます。

2.「OK」を押して「管理者設定」画面を表示します。

初期状態では、管理者パスワードは設定されていません。

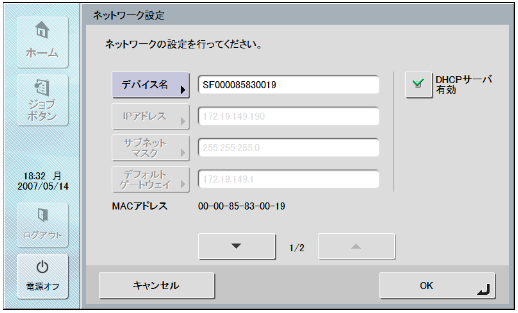


3. 設定項目を選択して設定を行います。



❏ ネットワーク設定

ネットワーク設定では、ScanFrontをネットワークに接続するためのデバイス名と IP アドレスの設定行います。

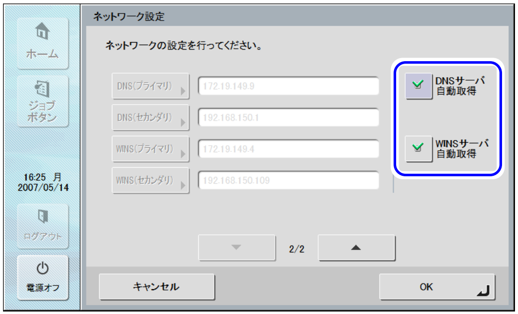


重要

- デバイス名は、ネットワーク上で使用される名称です。他のデバイスの名称と重複しないように設定を変更してください。
- デバイス名は、英字(A-Z, a-z)、数字(0-9)とハイフン (-) の組み合わせで 15 文字以内にしてください。
- デバイス名の先頭には英字(A-Z, a-z)を使用し、末尾にハイフン (-) は使用できません。

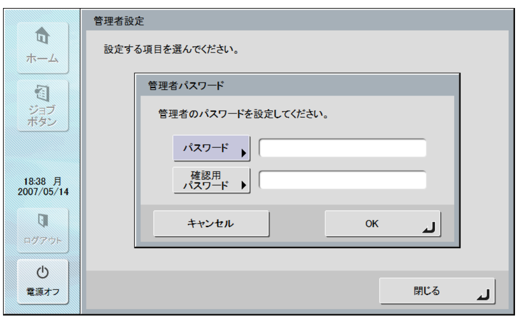
・IP アドレスの割り当てに DHCP サーバを使用しない場合は、［DHCP サーバ有効］のチェックをはずして固定アドレスを入力します。詳細についてはネットワークの管理部門にお問い合わせください。

・DHCP サーバを有効にして DNS サーバと、WINS サーバの情報が正常に取得できないときは、［自動取得］のチェックをはずしてそれぞれのサーバのアドレスを入力します。



❏ 管理者パスワード

「管理者設定」、「Web メニュー（管理者モード）」へのログインを制限するための管理者パスワードを設定します。



注意　**管理者パスワードを忘れた場合、ScanFront のフォーマットが必要になり、登録されている全てのデータが消去されますます。管理者パスワードの管理には十分注意してください。**

❏ 設定情報のバックアップ / リストア

設定情報のバックアップ/リストアは、ネットワーク上の共有フォルダや USB メモリを使用して行い、以下のようなときに実行します。

ScanFront の増設時

ScanFront を増設したときなど、１台目の ScanFront で設定した設定情報をバックアップして、残りの ScanFront に設定情報をリストアします。

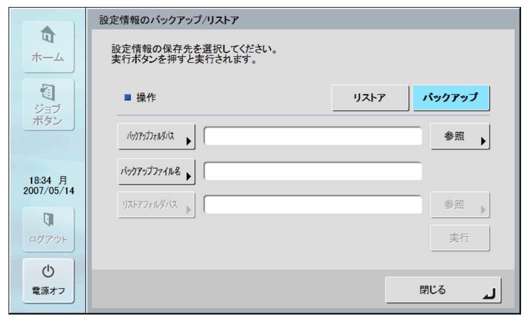
ScanFront のバージョンアップ時

ScanFront をバージョンアップする前に設定情報をバックアップし、バージョンアップが終了したら設定情報をリストアします。

ScanFront の修理依頼時

ScanFront の修理を依頼するときには ScanFront の設定情報をバックアップします。

重要　ScanFront を修理に出すときは、設定情報をバックアップし、ScanFront の初期化を実行してください。
（→ P.8-10「ScanFront の初期化」）



ヒント
・「設定情報のバックアップ / リストア」を押したときに USB メモリが挿入されていると、USB メモリのフォルダへのバックアップが有効になります。
・設定情報のバックアップ / リストアは、Web メニュー（管理者モード）の「システム設定」（→ P.4-31）でも設定できます。

❏ ログインタイプ選択

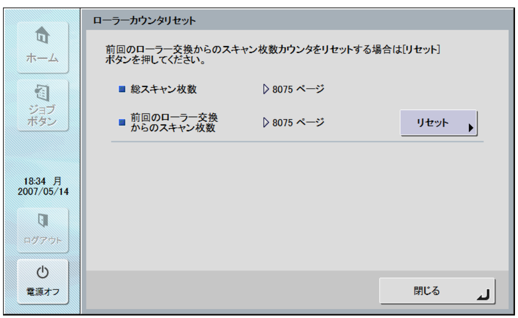
ユーザがログインする際のログイン画面を設定します。

詳細については、第６章「ログイン画面について」（→P.6-4）を参照してください。



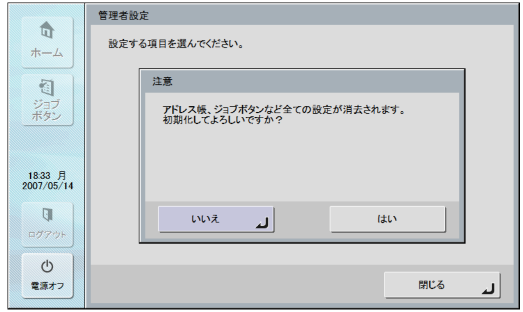
❏ ローラーカウンタリセット

原稿の搬送性が低下してローラーを交換したときにカウンタをリセットします。詳細については、第７章「搬送ローラーと原稿押えガイドの交換」（→P.7-8）を参照してください。



❏ ScanFront 220 の初期化

ScanFront に登録されているユーザ情報をすべて消去します。



ScanFront 220の初期化は以下のようなときに実行します。詳細については、第８章「ScanFront の初期化」（→P.8-10）を参照してください。

ScanFront の修理依頼時

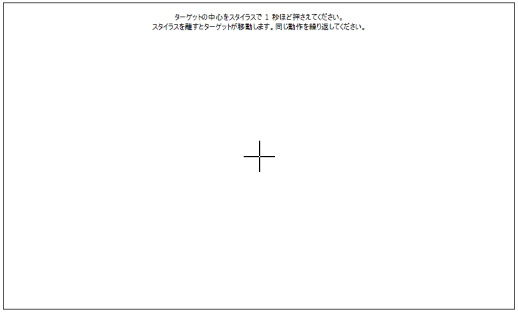
ScanFrontの修理を依頼するときは、保存されているユーザ情報の保護のためScanFrontを初期化してから修理を依頼してください。

使用環境の変更

ScanFrontの設置場所を変更して、使用者が変更になったときなど、ScanFront に登録されているユーザ情報をすべて消去します。

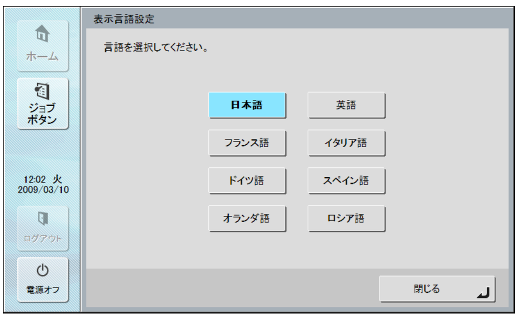
❑ タッチパネル調整

タッチパネルを押した位置と反応する位置がズレている場合、タッチパネルの調整を行います。詳細については、第8章「タッチパネルの調整」（→P.8-9）を参照してください。



❑ 表示言語設定

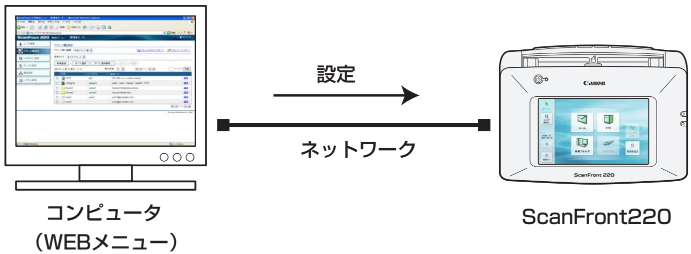
ScanFront本体に表示する言語を選択します。設定を変更した時は ScanFront を再起動してください。



第 4 章　Web メニュー（管理者モード）

1. Web メニューについて

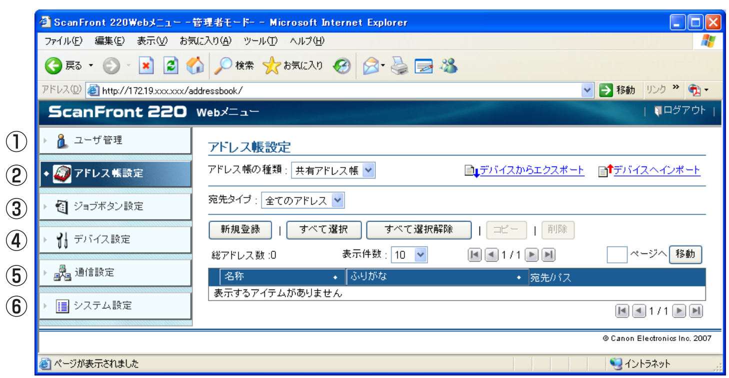
「Web メニュー」は、ScanFront から離れた場所にあるコンピュータの Web ブラウザから ScanFront にアクセスして設定を行うための機能です。「Web メニュー」では、ScanFront 本体で設定できる項目に加えて、ユーザの登録、ネットワークで通信するための基本設定やジョブボタンの登録などを行います。



重要
- Web ブラウザは、Microsoft Internet Exproler6.0 以上を使用します。
- 管理者またはユーザが ScanFront 本体にログインしていると、設定の変更ができません。
- Web メニューへログインするためのURLには、ScanFrontの「デバイス名」または「IPアドレス」を使用します。(→P.4-4「Webメニューへのログイン」)

Web メニューには、管理者が設定するための「管理者モード」と、ユーザが使用する「ユーザモード」があり、以下の設定を行うことができます。

管理者モード



① **ユーザ管理**（→ P.4-5「ユーザ管理」）
ScanFront を使用するユーザを登録・管理し、ScanFront を使用するユーザに合わせて使用できる機能を制限します。

② **アドレス帳設定**（→ P.4-10「アドレス帳設定」）
すべてのユーザが共有して使用するための「共有アドレス帳」の登録と管理を行います。

③ **ジョブボタン設定**（→ P.4-15「ジョブボタン設定」）
すべてのユーザが共有して使用するための「共有ジョブボタン」の登録と管理を行います。

④ **デバイス設定**（→ P.4-23「デバイス設定」）
ScanFront 本体の設定を行います。

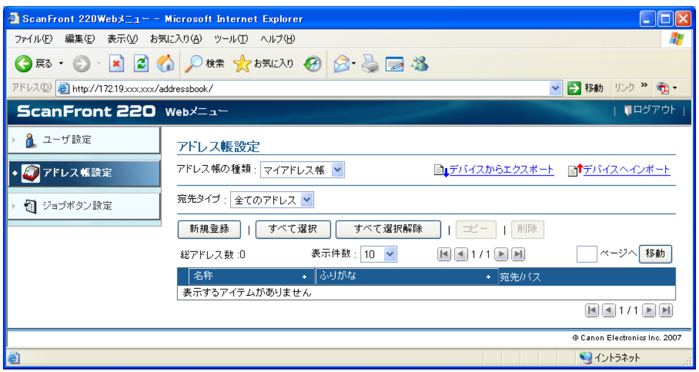
⑤ **通信設定**（→ P.4-27「通信設定」）
ScanFrontから電子メールを送信するためのメールサーバの設定と、ディレクトリサービスに対応した認証サーバ、LDAPに対応したアドレス帳サーバ、FTPサーバへの送信時にスキャン結果のログを送信する機能、NTPサーバを利用するための設定を行います。

⑥ **システム設定**（→ P.4-31「システム設定」）
ScanFront を管理するための以下の設定を行います。
・ScanFront 全設定のバックアップとリストア。
・ScanFrontのバージョン情報の確認と、モジュールのアップグレード。
・ScanFront のログの管理。

ユーザモード

ユーザモードの詳細については、「第５章 Web メニュー（ユーザモード）」を参照してください。

①
②
③



① **ユーザ設定**（→ 5-4「ユーザ設定」）
ユーザ設定を変更します。

② **アドレス帳設定**（→ P.5-6「アドレス帳設定」）
「共有アドレス帳」とユーザごとに使用する「マイアドレス帳」の登録と管理を行います。

③ **ジョブボタン設定**（→ P.5-12「ジョブボタン設定」）
「共有ジョブボタン」とユーザごとに使用する「マイジョブボタン」の登録と管理を行います。

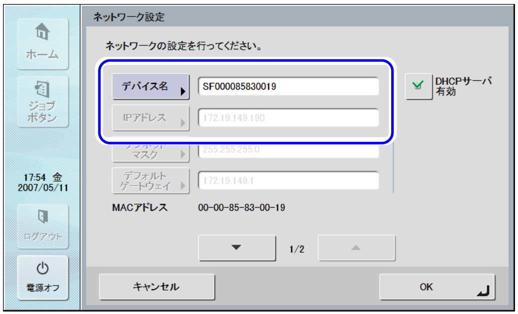
2. Web メニューへのログイン

Web メニューへのログインは以下の手順で行います。

重要 Web メニューへログインするための URL には［デバイス名］または、［IP アドレス］を使用します。［デバイス名］と［IP アドレス］については「管理者設定」（→ P.3-8）を参照してください。

1. ScanFront の電源をオンにします。

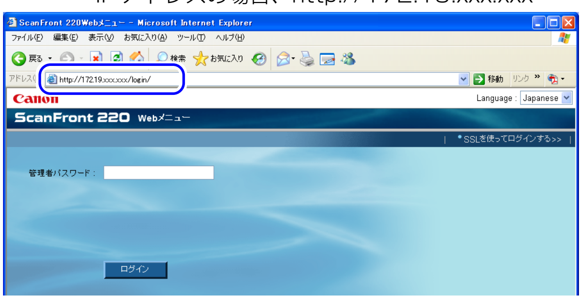
2. ScanFront 本体の「管理者設定」にログオンし、ネットワーク設定を開いて［デバイス名］または、［IP アドレス］を確認します。



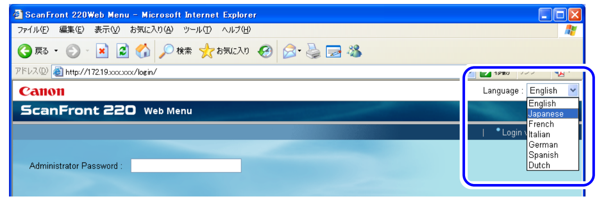
3. コンピュータで WWW ブラウザを起動します。

4. URL に［デバイス名］または、［IP アドレス］を入力して Web メニューを開きます。

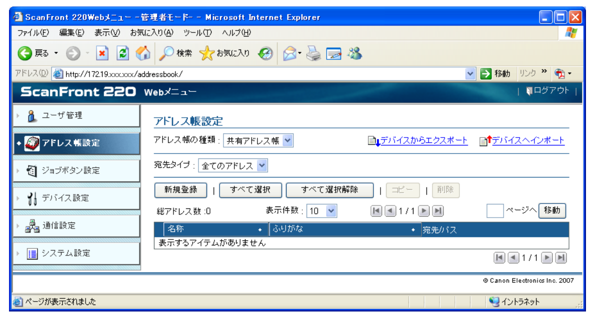
   例）デバイス名が「ScanFront220」の場合、
   http://scanfront220
   IP アドレスの場合、http://172.19.xxx.xxx



ヒント Web メニューの表示が日本語になっていないときは、Language で［Japanese］を選択し、Web メニューの表示を日本語にします。



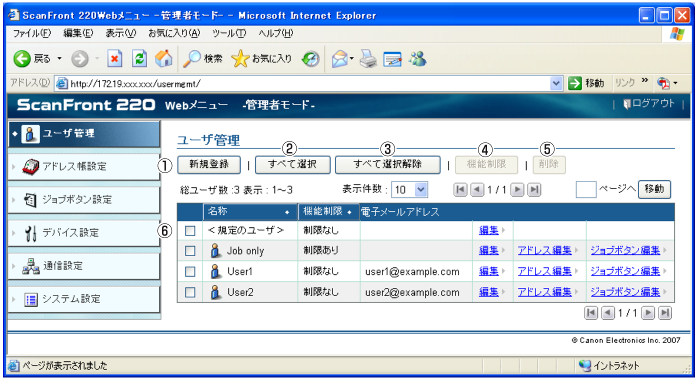
5. ［ログイン］をクリックして Web メニュー（管理者モード）にログインします。



重要
- ScanFront の管理者設定でパスワードを設定している場合、パスワードを入力してログインします。
- パスワードは、大文字、小文字を正確に入力しないとログインできません。

3. ユーザ管理

「ユーザ管理」では、ScanFront を使用するユーザを登録・管理し、ユーザに合わせて使用できる機能を制限することができます。



① ［新規登録］ボタン

新しいユーザを登録します。(→P.4-6「ユーザの新規登録」)

② ［すべて選択］ボタン

表示されているすべてのユーザを選択します。

③ ［すべて選択解除］ボタン

表示されているすべてのユーザの選択を解除します。

④ ［機能制限］ボタン

ユーザを選択すると有効になり、ユーザが使用できる機能を制限します。(→ P.4-8「ユーザの機能制限」)

⑤ ［削除］ボタン

ユーザを選択すると有効になり、選択したユーザを削除します。但し、<規定のユーザ>は削除できません。

⑥ ユーザ 一覧

- **チェックボックス**：ユーザを選択するときにチェックします。複数のユーザをまとめてチェックすると、機能制限や削除を一括して行うことができます。
- **名称**：登録されているユーザの名称を表示します。

  <規定のユーザ>は、ユーザを新規登録する場合の初期設定です。
- **機能制限**：ユーザの機能制限の有無を表示します。
- **電子メールアドレス**：電子メールで送信する際の送信元のメールアドレスです。

  電子メールアドレスが空欄の場合、管理者のメールアドレスが送信元のメールアドレスに使用されます。
- **編集**：ユーザ設定を修正します。<規定のユーザ>の場合、「デバイスログイン後の画面」の設定の規定値を変更します。
- **アドレス編集**：ユーザごとに使用する「マイアドレス帳」を登録・編集します。
- **ジョブボタン編集**：ユーザごとに使用する「マイジョブボタン」を登録・編集します。

❏ ユーザの新規登録

[新規登録] ボタンをクリックして新しいユーザを登録します。

重要
- 認証サーバ（→ P.4-28）を使用する場合、認証サーバのアカウントでログインしたユーザは自動登録されます。
- 認証サーバのアカウントにメールアドレスが登録されている場合は、メールアドレスも自動登録されます。
- 認証サーバのアカウントにメールアドレスが登録されていない場合は、メールアドレスが登録されていません。ユーザ編集（→ P.4-9）でメールアドレスを登録してください。



認証方式：デバイス認証
新規登録されるユーザはすべて「デバイス認証」になり、ScanFront（デバイス）でユーザ認証を行います。

ヒント
認証サーバのアカウントでログインして自動登録されたユーザは「サーバ認証」になります。

ユーザ名 / パスワード
ScanFront にログインするためのユーザ名とパスワードを入力します。

パスワード（確認用）
入力したパスワードと同じパスワードを入力します。

メールアドレス
ScanFront から送信した電子メールの送信元のアドレスです。

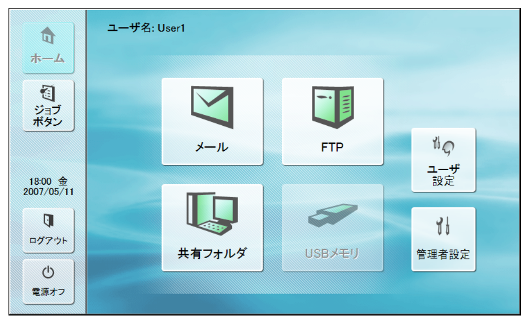
重要
- メールアドレスの登録、変更は、ユーザには許可されていません。必ず管理者がメールアドレスの登録、変更を行ってください。
- メールアドレスを登録しない場合、管理者のメールアドレスが送信元のアドレスになります。（→ P.4-22「デバイス設定」）

SMTP/POP Before SMTP 認証
メールサーバの設定（→ P.4-28）で「メールサーバ認証方法」を標準 SMTP 以外にしたときに表示され、メールサーバで認証を行うための「ユーザ名」と「パスワード」を入力します。

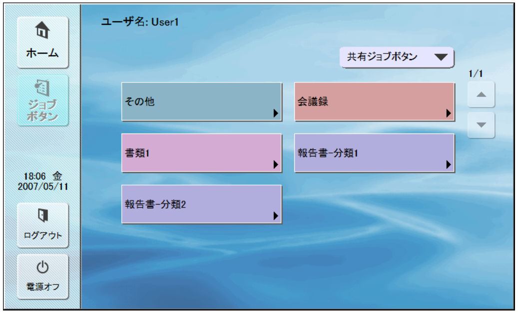
重要
「ユーザ名」と「パスワード」はユーザに確認して入力します。または、Web メニュー（ユーザーモード）の「ユーザ編集」（→ P.5-5）でユーザが直接入力します。

デバイスログオン後の画面
ユーザがログオンしたときに表示させる初期画面を「ホーム画面」、「ジョブボタンリスト画面」から選択します。

・ホーム画面



・ジョブボタン画面

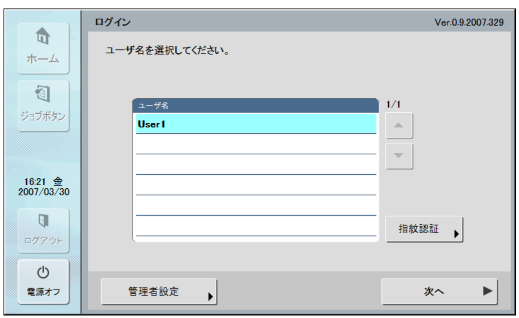


重要　ログイン後の初期画面の設定は、スキャンした画像を送信後の動作に反映します。（→ P.4-17「送信設定」）

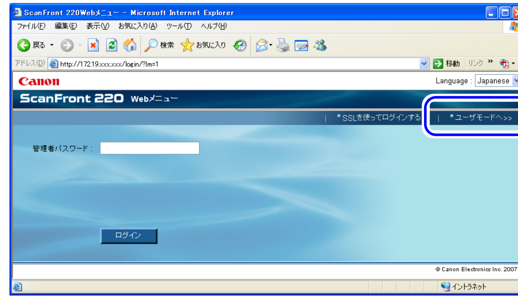
[OK] ボタン

設定した条件でユーザが登録され、ScanFront 本体の表示が更新されます。

ヒント　・ユーザを登録するとScanFront本体の表示が「ホーム」画面から「ログイン」画面になります。（→P.6-4「ログイン画面について」）



・ユーザを登録すると、Webメニューのログイン画面にユーザモードにログインするためのリンクが追加されます。



❏ ユーザの機能制限

ユーザを選択し、［機能制限］ボタンをクリックしてユーザの使用できる機能を制限します。

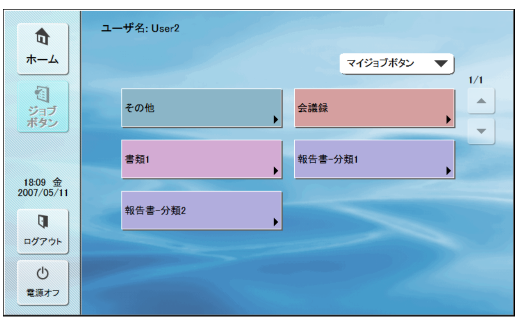
重要　＜規定のユーザ＞の機能を制限すると、新規に登録するユーザ、サーバ認証で自動登録されるユーザの機能制限に反映します。

ヒント　複数のユーザが選択されていると、選択されているすべてのユーザの機能制限が一括して設定されます。



ジョブボタンのみ使用する

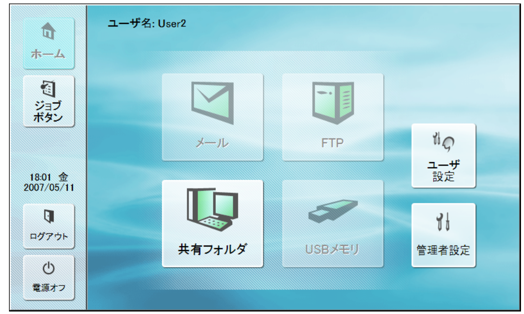
ホーム画面からのスキャンが無効になり、ログインしたときにジョブボタン画面になります。



送信制限

画像の送信先を制限し、チェックをはずした送信先は使用できなくなります。

例）送信先を「共有フォルダ」のみに制限した場合



編集制限

アドレス帳とジョブボタンの編集を制限し、チェックをはずしたアドレス帳とジョブボタンの編集はできなくなります。

ヒント　ユーザに既存のアドレスとジョブボタンのみを使用させる場合に設定します。

使用制限

通信設定（→ P.4-27）でアドレス帳サーバの使用が有効になっている時に、LDAP アドレス帳の使用を制限します。

［OK］ボタン

設定した条件でユーザの使用が制限されます。

❏ ユーザ編集

登録されているユーザの設定を変更します。

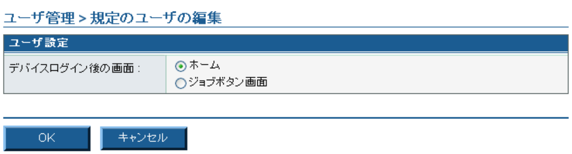


編集

ユーザの編集を行います。

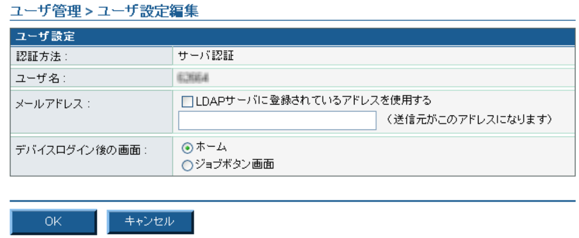


＜規定のユーザ＞では「デバイスログイン後の画面」の設定の規定値を変更します。



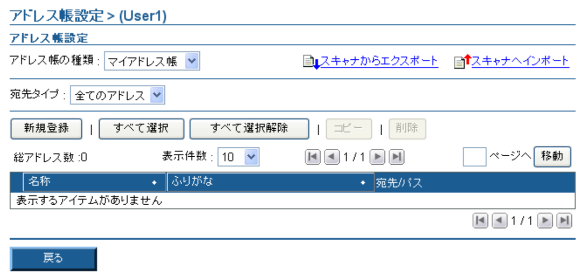
ヒント　機能制限で「ジョブボタンのみ使用する」が有効になっていると、デバイスログイン後の画面の設定は「ジョブボタンリスト」のみの表示になります。

サーバ認証で自動登録されたユーザの編集では、メールアドレスの設定を行います。



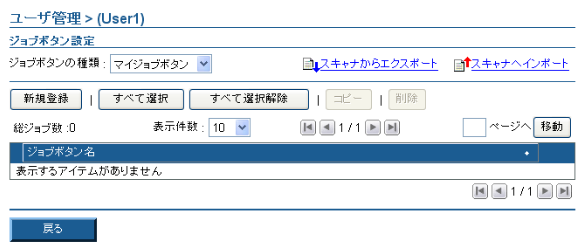
アドレス編集

ユーザの「マイアドレス帳」の登録と編集を行います。アドレス帳の設定についてはP.4-10「アドレス帳設定」を参照してください。



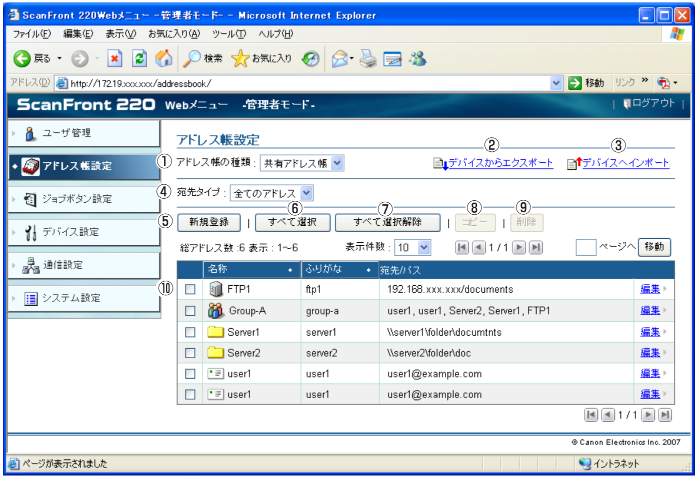
ジョブボタン編集

ユーザの「マイジョブボタン」の登録と編集を行います。ジョブボタンの設定についてはP.4-15「ジョブボタン設定」を参照してください。



4. アドレス帳設定

「アドレス帳設定」では、すべてのユーザが共有して使用するための「共有アドレス帳」の登録を行います。



① アドレス帳の種類

アドレス帳設定では「共有アドレス帳」を管理します。ユーザ別に使用する「マイアドレス帳」の管理はユーザ管理で行います。

アドレス帳サーバの設定が有効なときは「LDAPアドレス帳」がリストに追加され、「LDAPアドレス帳」を選択すると「宛先タイプ」が［メール］になります。

② デバイスからエクスポート

アドレス帳のデータをCSV形式のファイルに書き出します。（→ P.4-14「アドレス帳のエクスポート／インポート」）

③ デバイスへインポート

書き出したアドレス帳のデータをインポートします。

（→ P.4-14「アドレス帳のエクスポート／インポート」）

④ 宛先タイプ

表示する宛先のタイプ（メール、FTPサーバ、共有フォルダ、グループ、全て）を選択します。

⑤［新規登録］ボタン

新しい宛先を登録します。（→ P.4-11「宛先の新規登録」）

⑥［すべて選択］ボタン

表示されているすべての宛先を選択します。

⑦［すべて選択解除］ボタン

表示されているすべての宛先の選択を解除します。

⑧［コピー］ボタン

宛先を選択すると有効になり、選択した宛先をコピーします。（→ P.4-13「宛先のコピー」）

⑨［削除］ボタン

宛先を選択すると有効になり、選択した宛先を削除します。

⑩ 宛先一覧

登録されている宛先を表示します。

- **チェックボックス**：宛先を選択するときにチェックします。
- **宛先の種類（アイコン）**

：FTP　：共有フォルダ

：メール　：グループ

- **編集**：宛先を編集します。

❑ 宛先の新規登録

［新規登録］ボタンをクリックして宛先を新規登録します。

重要
- 共有アドレス帳に登録できる宛先の数は、共有ジョブボタンに含まれる宛先の総数と合わせて 1000 件以下です。
- 上記の件数に於いて、グループはグループに登録される件数（最大 99 件）＋グループ名でカウントされ、宛先が 99 件登録されているグループでは 1 つのグループで 100 件としてカウントされます。
- 宛先は、宛先のタイプ（メール、FTP サーバ、共有フォルダ、グループ、全て）によって設定項目が変化します。

宛先の共通項目

名称
ScanFront 本体に表示する名称を入力します。

ふりがな
ScanFront 本体に表示される宛先をソート（並び替え）するための、「ふりがな」を入力します。

ヒント
「ふりがな」は、ScanFront 本体に表示される宛先のソートと、ScanFront 本体のジャンプキーによる宛先の検索に使用します。

宛先タイプ：メール

電子メールのアドレスを登録します。



メールアドレス
送信先のメールアドレスを入力します。

［OK］ボタン
設定した条件でメールアドレスが新規登録されます。

宛先タイプ：FTP サーバ

ネットワーク内に設定されている FTP サーバー登録します。

重要
ファイアウォールの設定が必要な FTP サーバは登録できません。



FTP サーバ
FTP サーバの「IP アドレス」または「ホスト名」を入力します。

フォルダへのパス
FTPサーバのサブフォルダを指定するときにサブフォルダのパスを入力します。

ヒント
サブフォルダのパスが不明なときは以下の手順でサブフォルダを指定します。

1. 「サーバアドレス」と「ユーザ名」、「パスワード」を入力してから［参照］ボタンをクリックして FTP サーバにログインします。
2. 表示されたフォルダの階層から任意のサブフォルダを指定して［OK］をクリックします。

ユーザ名 / パスワード
FTP サーバにログインするためのユーザ名とパスワードを入力します。

重要
ユーザ名とパスワードは、FTP サーバーに書き込み権限のあるアカウントのユーザ名とパスワードを入力してください。

ポート番号

ポート番号を入力します。標準のポート番号は 21 です。

パスワード保存

入力したパスワードを保存します。

パッシブモード

FTP サーバへの送信をパッシブモードで行います。

重要　パッシブモードはFTPサーバとの通信が正常にできないときに使用します。但し、ネットワークの状態によっては通信できない場合もあります。

[OK］ボタン

設定した条件で FTP サーバーが新規登録されます。

宛先タイプ：共有フォルダ

ネットワーク上に公開されている共有フォルダを登録します。



コンピュータ名（ホスト名）

共有フォルダを公開しているコンピュータ名を入力します。

フォルダへのパス

共有フォルダの名称と登録するサブフォルダのパスを入力します。

[参照］ボタン

ネットワークに接続されているコンピュータを一覧表示して、共有フォルダを指定します。

ヒント　共有フォルダは以下の手順で表示させます。

1. 「コンピュータ名」と「ユーザ名」、「パスワード」、「ドメイン/ワークグループ」を入力してから［参照］ボタンをクリックし、共有フォルダを公開しているコンピュータにアクセスします。
2. 表示されたコンピュータから任意のサブフォルダを指定して［OK］をクリックします。

重要

- ユーザのアカウント情報を入力しないで［参照］ボタンをクリックすると、同一のネットワークアドレス内のワークグループおよびコンピュータが表示されます。
- ドメインに参加していないワークグループを表示させる場合、ネットワークアドレスが異なるコンピュータのワークグループを表示させることはできません。
- ScanFrontを起動させた直後では、ネットワーク内のワークグループ、コンピュータをすべて表示させることはできません。表示されないワークグループ、コンピュータがあるときは、数分経ってから［参照］ボタンを押してください。
- Webメニューでは指定したフォルダに新規フォルダを作成することはできません。フォルダを新規に作成する場合には、FTPサーバを設定しているコンピュータまたは、ScanFront本体の宛先編集機能で予めフォルダを作成してください。

ユーザ名 / パスワード

共有フォルダに書き込み権限のあるアカウントのユーザ名とパスワードを入力します。

ドメイン / ワークグループ

共有フォルダを公開しているコンピュータがドメインに参加している場合、ドメイン名を入力します。

重要

- 共有フォルダを公開しているコンピュータがドメインに参加している場合、ドメインに登録されているユーザ名とパスワード、ドメイン名を入力します。
- 共有フォルダを公開しているコンピュータがドメインに参加していない場合は、「ドメイン / ワークグループ」の入力は必要ありません。

パスワード保存

宛先にパスワードを保存するときにチェックします。

重要　パスワードを保存しない場合、送信時にパスワードの入力が必要になります。

［OK］ボタン
設定した条件で共有フォルダが新規登録されます。

宛先タイプ：グループ

登録した宛先をグループにまとめて登録します。

ヒント　グループには、メールアドレスや共有フォルダなど異なるタイプの宛先をグループとして登録することができ、１つのグループに最大 99 件の宛先を登録できます。



アドレス帳から追加
アドレス帳から宛先を選択してグループ追加し、リストに表示します。

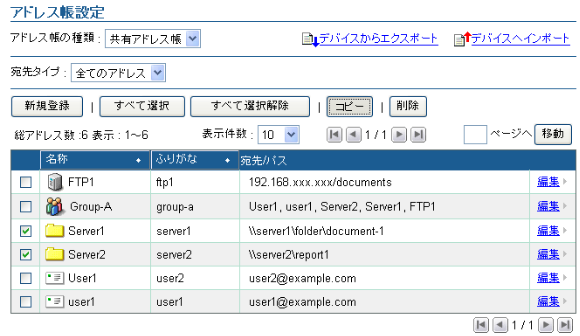
［OK］ボタン
設定した条件でグループが新規登録されます。

❑ 宛先のコピー

宛先をコピーして、新しい宛先として登録します。

ヒント
- 宛先のコピーは、共有アドレス帳に同じ宛先をコピーし、設定の一部を変更して別の宛先として登録するときに使用します。
- 「ユーザ管理」で行う宛先のコピーでは、「共有アドレス帳」と「マイアドレス帳」で相互に宛先をコピーすることができます。

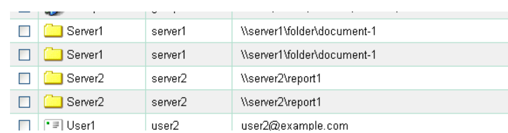
1. コピーする宛先のチェックボックスをチェックして宛先を選択し、［コピー］ボタンをクリックします。



2. ［OK］をクリックして宛先をコピーします。



ヒント　コピー元と同じ名称の宛先が複製されます。



3. コピーした宛先の名称と設定を変更し、新しい宛先として登録します。

❏ アドレス帳のエクスポート / インポート

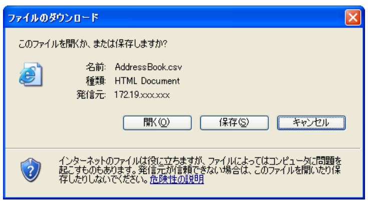
アドレス帳を CSV 形式のファイルにバックアップおよび、バックアップしたアドレス帳のデータを他のScanFrontにインポートして使用します。

ヒント　ScanFront を複数台購入した場合、1 台の ScanFront で登録したアドレス帳を他の ScanFront にインポートすることにより、同じアドレス帳を使用することができます。

デバイスからエクスポート

アドレス帳のデータを指定したフォルダに保存します。

1. [デバイスからエクスポート] をクリックします。



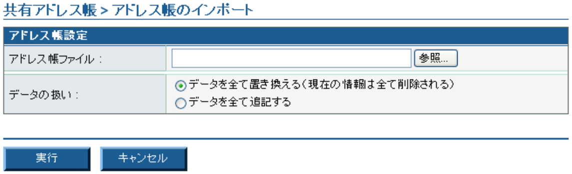
2. [保存] をクリックし、保存場所を指定してアドレス帳のデータを保存します。

ヒント
- 保存した CSV ファイルは、CSV ファイルに対応した表計算ソフトウェアなどで開くことによりファイルの構造を確認することができます。
- 他のメーラーで作成したCSVファイルの構造をScanFrontで保存したCSVファイルの構造に合わせることにより、他のメーラーのアドレス帳を ScanFront にインポートして使用することができます。

デバイスへインポート

エクスポートしたアドレス帳のデータをインポートします。

1. [デバイスへインポート] をクリックします。



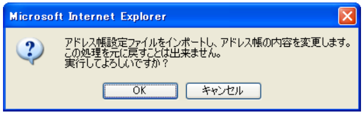
2. エクスポートしたアドレス帳の設定ファイルを指定します。

3. アドレス帳の設定ファイルをインポートした際の処理方法を選択します。

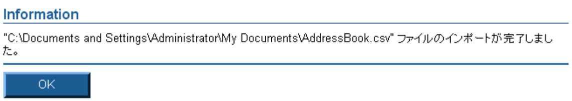
- **データを全て置き換える**：現在登録されているアドレス帳がすべて削除され、インポートするアドレス帳のデータに置き換えられます。
- **データを全て追記する**：現在登録されているアドレス帳に、インポートするアドレス帳のデータが追記されます。

4. [実行] をクリックします。

メッセージを確認してインポートを行います。

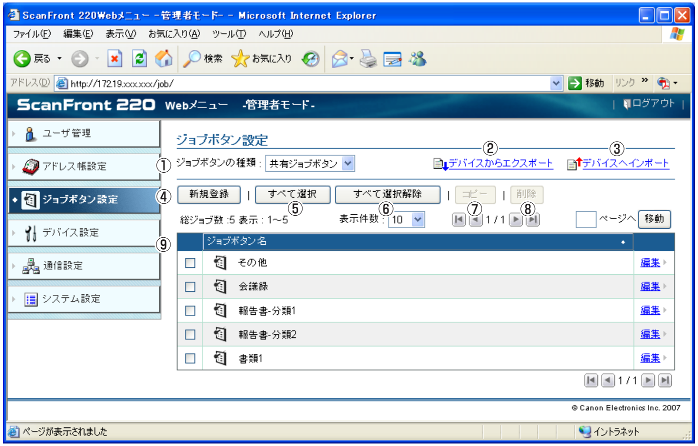


ヒント　インポートが終了すると以下のメッセージが表示されます。[OK] をクリックしてアドレス帳設定に戻り、インポートされた宛先を確認します。



5. ジョブボタン設定

ジョブボタン設定画面では、すべてのユーザが共通して使用するための「共有ジョブボタン」の登録を行います。



① **ジョブボタンの種類**

ジョブボタン設定では「共有ジョブボタン」を管理します。ユーザ別に使用する「マイジョブボタン」の管理はユーザ管理で行います。

② **デバイスからエクスポート**

ジョブボタンのデータをdat形式のファイルに書き出します。（→ P.4-21「ジョブボタンのエクスポート / インポート」）

③ **デバイスへインポート**

書き出したジョブボタンのデータをインポートします。（→ P.4-21「ジョブボタンのエクスポート / インポート」）

④ **［新規登録］ボタン**

新しいジョブボタンを登録します。（→ P.4-16「ジョブボタンの新規登録」）

⑤ **［すべて選択］ボタン**

ジョブボタンをすべて選択します。

⑥ **［すべて選択解除］ボタン**

ジョブボタンの選択をすべて解除します。

⑦ **［コピー］ボタン**

ジョブボタンを選択すると有効になり、選択したジョブボタンをコピーします。（→ P.4-21「ジョブボタンのコピー」）

⑧ **［削除］ボタン**

ジョブボタンを選択すると有効になり、選択したジョブボタンを削除します。

⑨ **ジョブボタン一覧**

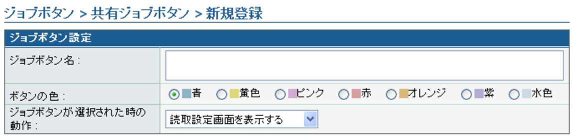
登録されているジョブボタンを表示します。

- **チェックボックス**：ジョブボタンを選択するときにチェックします。
- **編集**：ジョブボタンを編集します。

❑ ジョブボタンの新規登録

［新規登録］ボタンで新しいジョブボタンを登録します。

ジョブボタン設定



ジョブボタン名

本体のパネルに表示するジョブボタンの名称を入力します。

ヒント
- ジョブボタンはジョブボタン名でソートして表示します。ジョブボタンを任意の順番で表示させるためには名称の前に英字または数字を入れて登録します。　例）01_xxxx
- ジョブボタン名を２行にすると、ジョブボタンの表示も２行になります。

ボタンの色

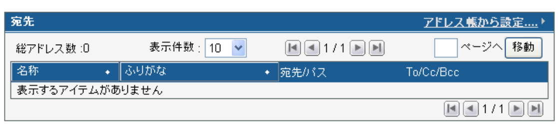
ジョブボタンの色を指定します。

ジョブボタンが選択された時の動作

- 読取設定画面を表示する
  ジョブボタンを押したときに「読取設定」画面を表示します。
- 読取設定画面をスキップする
  ジョブボタンを押したときに「読取設定」画面を表示しないでスキャンを開始します。

重要
［読取設定画面をスキップする］を選択した場合、ジョブボタンを押すと原稿の有無に関係なくスキャンを開始します。

宛先設定



「アドレス帳から設定....」をクリックして宛先設定ページを開き、送信するアドレスを選択します。

重要
- ジョブボタンに登録できる宛先は最大 100 件です。
- 上記の件数に於いて、グループはグループに登録される件数（最大 99 件）＋グループ名でカウントされ、宛先が 99 件登録されているグループでは 1 つのグループで 100 件としてカウントされます。

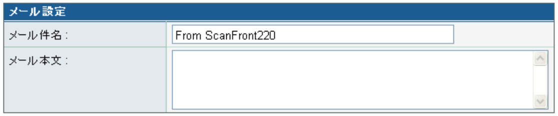
スキャン設定 / 詳細設定

スキャン設定/詳細設定については「スキャン設定について」（→P.4-18）を参照してください。





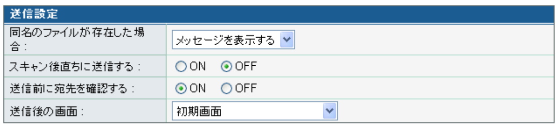
メール設定



メール件名
送信する電子メールの件名を入力します。

メール本文
電子メールの本文を入力します。

送信設定



同名のファイル名が存在した場合
送信先に同名のファイル名が存在したときの処理を選択します。

・メッセージを表示する
　上書きの確認のメッセージを表示します。
・処理を中断する
　送信を中止します。
・上書きする
　メッセージを表示しないで、同名のファイルに上書きします。

スキャン後直ちに送信する
・ON
　スキャンが終了したら 送信を開始します。
・OFF
　スキャンが終了したら画像の確認を行ってから送信を開始します。

送信前に宛先を確認する
・ON
　「宛先確認」画面を表示し、宛先を確認してから送信します。
・OFF
　宛先を確認しないで送信します。

送信後の画面
画像を送信したあとに表示させる画面を選択します。

・初期画面
　ユーザ設定の［デバイスログオン後の画面］で設定されているユーザの初期画面に戻ります。
・ログアウト
　画像を送信したらログアウトします。
・送信終了後の画面を選択する
　送信後、上記の動作を選択するメッセージ画面を表示します。

❏ スキャン設定について

スキャン設定には、スキャン条件の基本設定と詳細設定、ファイル形式別の個別の設定があります。

スキャン設定



用紙サイズ

スキャンする原稿のサイズをリストから選択します。

ヒント　[自動サイズ] は、スキャンした原稿のサイズを自動検知してスキャンします。

モード

スキャンするモード（白黒、誤差拡散、文字強調、グレー、カラー）を選択します。

重要　選択したモードによって保存できるファイル形式が限定され、設定できない組み合わせの場合、メッセージが表示されます。

	TIFF	JPEG	PDF
白黒	○	−	○
誤差拡散	○	−	○
文字強調	○	−	○
グレー	−	○	○
カラー	−	○	○

解像度

スキャンする解像度（100dpi、150dpi、200dpi、300dpi、400dpi、600dpi）を選択します。

読み取り面

原稿をスキャンする面（片面、両面、白紙スキップ）を選択します。

ヒント
- 白紙スキップは、原稿の両面をスキャンして白紙と判断した画像の保存をスキップします。
- 白紙スキップは、「白紙スキップの感度」で白紙をスキップする感度を調節します。
- 白紙スキップの初期値は、「90」に設定されています。　設定値を低くすると、白紙でない原稿もスキップされるようになり、設定値を高くすると、白紙の原稿もスキップされなくなります。

プレスキャン

１枚目の原稿で画像を確認してからスキャンを行います。

ヒント
- スキャンを開始すると原稿を１枚スキャンしてスキャンを中断し、１枚目の画像を表示します。
- 表示されている画像で明るさとコントラストを確認・調整します。「スキャン継続」を押すと調整した明るさとコントラストで１枚目の画像が確定してスキャンを続行します。

ファイル名

送信する画像ファイルのファイル名を半角英数字（A-Z, a-z, 0-9）で指定します。

ファイル名に日付と時間を付加する

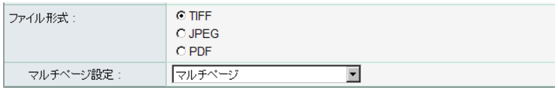
送信する画像ファイルに日付けと時間を表す17桁のファイル名を付加します。

例) 2007 年５月 14 日 15 時 40 分 30 秒の場合
yyyyMMdd：ファイル名 +20070514154030123
MMddyyyy：ファイル名 +05142007154030123
ddMMyyyy：ファイル名 +14052007154030123
＊末尾の３桁は、ミリ秒を表します。

ファイル形式

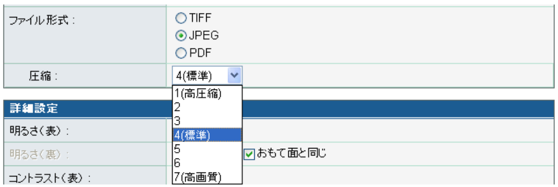
画像ファイルのファイル形式を選択し、ファイル形式に合わせて設定を行います。

TIFF 形式：マルチページ設定



複数ページスキャンした画像ファイルを［シングルページ（表裏別ファイル）］、［シングルページ（表裏同一ファイル）］、［マルチページ（複数ページ同一ファイル）］のどの形式で保存するか選択します。

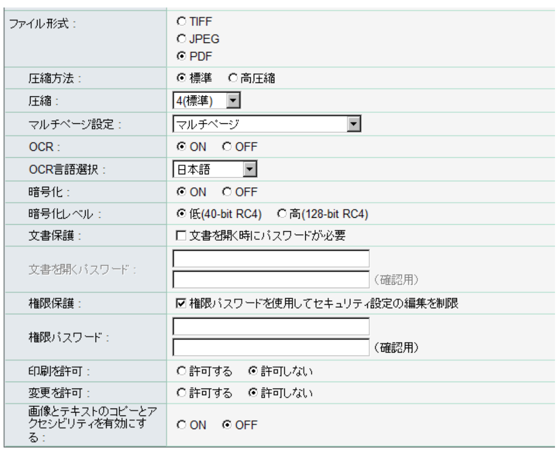
JPEG 形式：圧縮率



JPEG 形式で保存する場合の圧縮率を選択します。

PDF 形式：

圧縮率、マルチページ設定、OCR（文字認識）、暗号化によるセキュリティの設定を行います。



圧縮方法

圧縮方法を［標準］と［高圧縮］から選択し、圧縮レベルを指定します。

OCR（文字認識）

OCR を［ON］にすると原稿内の文字の部分が文字認識され、テキスト情報として PDF ファイルに埋め込まれます。

ヒント　OCR を［ON］にしたときは、原稿内の文字に合わせて OCR を行う言語を選択します。

暗号化（セキュリティ）

暗号化により PDF ファイルにセキュリティを施します。

重要　暗号化レベルは、高（128-bit RC4）レベルでの暗号化を推奨します。低（40-bit RC4）レベルではセキュリティレベルが低下します。

文書保護

文書の閲覧をパスワードで保護します。

重要　パスワードを忘れると文書が開けなくなります。パスワードを設定したときは、忘れないように注意してください。

権限保護

PDF ファイルの印刷と編集の権限をパスワードで保護します。

印刷を許可

プリンタによる PDF ファイルの印刷を許可します。

変更を許可

ページの追加や削除など、PDF ファイルの編集を許可します。

画像とテキストのコピーとアクセシビリティを有効にする

OCR により埋め込まれたテキスト情報のコピーや、音声ソフトによる PDF ファイルの読み上げを有効にします。

重要
- PDF ファイルの権限を制限した場合、パスワードで保護することを推奨します。
- パスワードで保護された PDF ファイルは、Adobe Acrobat などPDFファイルを編集することのできるアプリケーションで権限の変更やパスワードを解除することができます。

詳細設定



重要

「超音波重送検知」は、ScanFront 220Pを使用しているときに表示されます。

明るさ（表）

スキャンする画像の明るさを調整します。

明るさ（裏）

両面スキャンのときに有効で、原稿の表裏の濃淡に差があるときに使用します。[おもて面と同じ] チェックボックスをオフにすると、原稿の表裏で明るさの設定を変えることができます。

コントラスト（表）

スキャンする画像のコントラストを調整します。

コントラスト（裏）

両面スキャンのときに有効で、原稿の表裏の濃淡に差があるときに使用します。[おもて面と同じ] チェックボックスをオフにすると、原稿の表裏でコントラストの設定を変えることができます。

超音波重送検知（ScanFront 220P のみ）

重なって搬送された原稿の隙間を超音波によって検出し、重送と判断したときに搬送を停止します。

重要

原稿の重なりが 50mm 以上の重送に対して有効です。重なり量の短い重送に対しては、重送検知は機能しません。

長さによる重送検知

原稿の長さによって重送を判断し、重送と判断したときに搬送を停止します。

重要

- １枚目の原稿の長さを基準とし、35mm以上長い/短い原稿を検知したときに重送として判断します。
- 用紙の長さの異なる原稿が混在しているときは、[長さによる重送検知をオフにしてください。

画像回転

スキャンした画像を指定した角度に回転させます。

ヒント

［自動］を選択したときは、原稿内の文字の向きを検知して、文字の向きが正しくなるように画像を回転させます。

斜行補正

傾いた原稿の搬送をスキャンした画像で検知して、画像がまっすぐになるように補正します。

- 画質優先
  斜行補正で劣化した画像に画像処理を施して画質の劣化を抑えます。
- 速度優先
  斜行補正により画像が若干劣化します。

重要

［画質優先］を選択すると、補正後の画質が向上します。但し、処理速度が低下するため、大量にスキャンするときは［速度優先］をお使いください。

裏写り除去

裏面に文字などがある薄い原稿をスキャンするときなど、裏面の模様が画像に写り込むようなときに、写り込んだ裏面の模様の画像を除去します。

ヒント

裏写り除去を使用するときは、原稿の状態に合わせて裏写り除去のレベルを調整します。

カラードロップアウト

カラードロップアウトには、赤色、青色、緑色の指定した色を読み飛ばす「ドロップアウト」と、指定した色を強調する「色強調」の機能があります。

重要

カラードロップアウトの設定はモードの設定が［カラー］のときは無効です。

ヒント

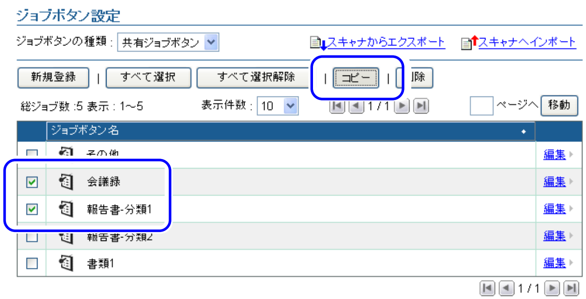
ドロップアウトで色の付いた罫線などを消去することにより、OCR の認識率が向上する場合があります。

❑ ジョブボタンのコピー

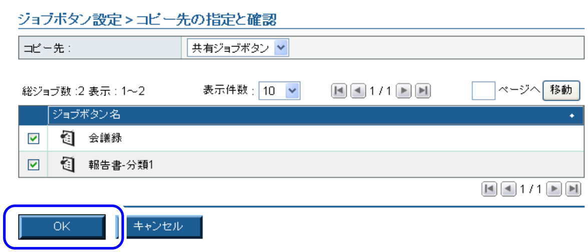
ジョブボタンをコピーして、新しいジョブボタンとして登録します。

ヒント
- ジョブボタンのコピーは、共有ジョブボタンに同じジョブボタンをコピーして、設定の一部を変更して別のジョブボタンとして登録するときに使用します。
- 「ユーザ管理」で行うジョブボタンのコピーでは、「共有ジョブボタン」と「マイジョブボタン」のジョブボタンを相互にコピーすることができます。

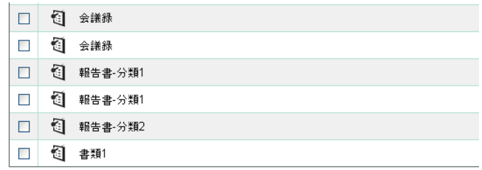
1. コピーするジョブボタンを選択し、［コピー］ボタンをクリックします。



2. ［OK］をクリックしてジョブボタンをコピーします。



ヒント
コピー元と同じ名称のジョブボタンが複製されます。



3. コピーしたジョブボタンの名称と設定を変更し、新しいジョブボタンとして登録します。

❑ ジョブボタンのエクスポート / インポート

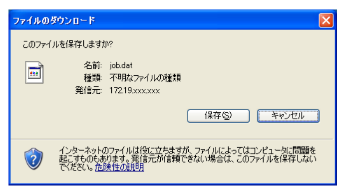
ジョブボタンのデータをdat形式の設定ファイルにバックアップおよび、バックアップしたジョブボタンの設定ファイルを他の ScanFront にインポートして使用します。

ヒント
ScanFront を複数台購入した場合、1 台の ScanFront で登録したジョブボタンの設定ファイルを他の ScanFront にインポートすることにより、同じジョブボタンを使用することができます。

デバイスからエクスポート

ジョブボタンの設定ファイルを指定したフォルダに保存します。

1. ［デバイスからエクスポート］をクリックします。

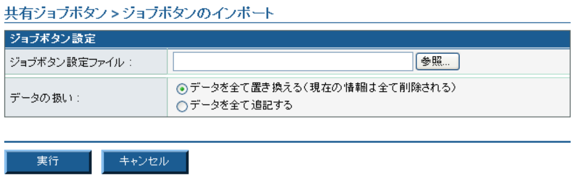


2. ［保存］をクリックし、保存場所を指定してジョブボタンの設定ファイルを保存します。

デバイスへインポート

エクスポートしたジョブボタンの設定ファイルをScanFrontにインポートします。

1. ［デバイスへインポート］をクリックします。



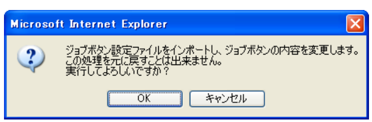
2. エクスポートしたジョブボタンの設定ファイルを指定します。

3. ジョブボタンの設定ファイルをインポートした際の処理方法を選択します。

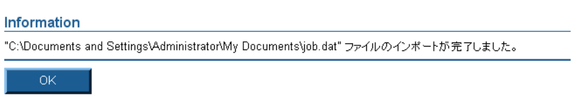
- **データを全て置き換える**:現在登録されているジョブボタンがすべて削除され、インポートするジョブボタンに置き換えられます。
- **データを全て追記する**：現在登録されているジョブボタンに、インポートするジョブボタンが追加されます。

4. ［実行］をクリックします。

メッセージを確認してインポートを行います。



ヒント　インポートが終了すると以下のメッセージが表示されます。［OK］をクリックしてジョブボタン設定に戻り、インポートされたジョブボタンを確認します。



6. デバイス設定

デバイス設定画面では、ScanFront 本体の設定を行います。



① **デバイスのネットワーク設定**

ScanFront本体で設定したネットワーク設定を確認/変更します。（→ P.4-24「デバイスのネットワーク設定」）

② **言語 / タイムゾーン**

ScanFrontのパネルに表示する言語と、使用している地域の設定を行います。（→ P.4-24「言語 / タイムゾーン」）

重要 タイムゾーンの設定は、メールの送信時間の設定に反映します。

③ **デバイス動作設定**

ディスプレイオフや自動ログオン、ローパワーモードの設定を行います。（→ P.4-25「デバイス動作設定」）

④ **ログイン設定**

ユーザがログインする際の画面のタイプを選択します。
（→ P.4-25「ログイン設定」）

⑤ **管理者設定**

管理者のパスワードと、メールアドレスを設定します。
（→ P.4-26「管理者設定」）

重要 管理者のメールアドレスは、メールアドレスを持たないユーザがメールを送信したときの送信元のアドレスになります。

❑ デバイスのネットワーク設定

ScanFront 本体の「管理者設定」で設定したネットワーク設定の確認を行います。



デバイスのネットワーク設定

ScanFront 本体の「管理者設定」で設定したネットワーク設定の確認と変更を行います。

重要
- デバイス名は、英数字とハイフン（-）の組み合わせで 15 文字以内で設定し、末尾にハイフン（-）は使用できません。
- デバイス名を変更したときは ScanFront を再起動させてください。

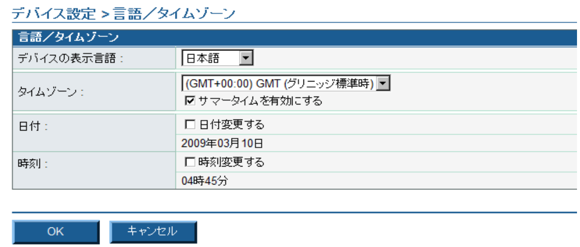
Web メニューのセキュリティ

Web メニューとの通信を常に SSL 通信で行う場合にチェックします。

ヒント
「SSL 通信を必ず行う」をチェックすると、Web メニューのログイン画面にある「SSL を使ってログインする」または「SSL 通信を使用しない」が表示されなくなります。

❑ 言語 / タイムゾーン

ScanFront 本体に表示する言語および地域の設定の確認と変更を行います。



デバイスの表示言語

ScanFront 本体に表示する言語を設定します。

重要
表示言語の設定を変更したときは ScanFront を再起動してください。

タイムゾーン

ScanFront を使用する地域を設定します。（日本の場合：東京時間）

サマータイムを有効にする

タイムゾーンで設定した地域のサマータイムを適用します。

重要
タイムゾーンが正しく設定されていないと、メールの送信時間や、保存された画像ファイルのタイムスタンプが正しく保存されません。

重要
サマータイムを有効にするをチェックした時に、正しい時刻が反映されない場合があります。この場合は、正しい時刻に再設定して下さい。

❑ デバイス動作設定

ScanFront の動作を設定します。



ディスプレイオフ

ScanFront を一定時間操作しなかったときにパネル表示をオフにします。

重要 ディスプレイオフでパネルの表示がオフになったときは、パネルを押すと復帰します。

自動ログアウト

ScanFront にログオンした後、一定時間操作しないときにログアウトする時間を設定します。

ローパワーモード

ScanFront を一定時間操作しなかったときにローパワーモードに移行します。

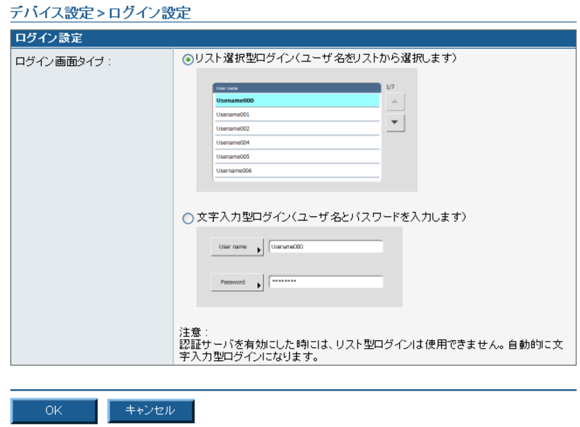
重要 ローパワーモードからの復帰時には、本体を再起動したときと同じ状態になります。

- ユーザがログイン中にローパワーモードに移行した場合はログアウトした状態で復帰します。
- ローパワーモードに移行するとパネルの表示がオフになり電源ランプが点滅します。ローパワーモードから復帰するときは、電源スイッチを押して復帰します。
- ネットワークに接続されていてネットワーク上にデータが流れている間は、ローパワーモードには移行できません。
- スキャンを開始してセットした原稿がなくなったときや、紙詰まりや重送でスキャンが中断しているときに ScanFront がローパワーモードに移行すると、中断する前にスキャンした送信前の原稿はすべて破棄されるので注意してください。

❑ ログイン設定

ユーザのログイン画面のタイプを設定します。

ヒント ログイン設定は、ScanFront本体の「管理者設定」でも変更できます。



リスト選択型ログイン

ユーザをリストから選択してログインします。

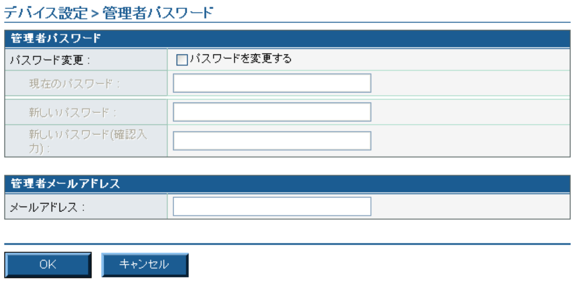
文字入力型ログイン

ユーザ名とパスワードを入力してログインします。

重要 認証サーバを使用する場合は、文字入力型ログインタイプになり、［デバイス認証］と［サーバ認証］を選択してログインします。（→ P.4-27「認証サーバ」）

❏ 管理者設定

管理者のパスワードとメールアドレスを設定します。



管理者パスワード

管理者パスワードを変更します。

管理者メールアドレス

管理者のメールアドレスを登録します。

重要

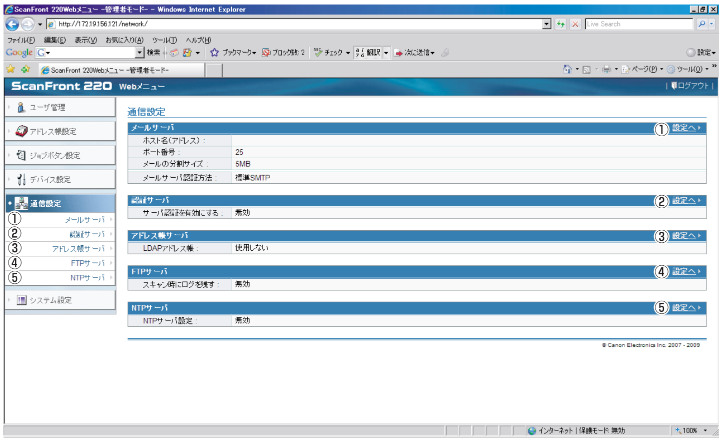
- 管理者のメールアドレスは、メールアドレスを登録していないユーザがメール送信したときの送信元のアドレスになります。
- 送信したメールがアドレスのミスなどによりエラーになった場合、メールサーバからのエラー通知は管理者のメールアドレスに配信されます。

7. 通信設定

通信設定画面では、電子メールで画像を送信するためのメールサーバーの設定、ディレクトリサービスに対応した認証サーバーが用意されているネットワーク環境において、認証サーバーにアクセスするための設定を行います。

重要

- ScanFront は、Active Directory や LDAP サーバーに対応し、ドメインサーバーに登録されたユーザアカウントでログインしたり、LDAP サーバーに登録された電子メールアドレスを利用することにより、ユーザ管理を簡略化することができます。
- 通信設定については、お使いのネットワーク環境の管理部門にご相談の上、設定してください。



① メールサーバ

電子メールの送信に使用しているメールサーバを設定します。詳細については、メールシステムの管理者にお問い合わせください。（→ P.4-28「メールサーバ」）

② 認証サーバ

Active Directory でユーザアカウントが登録されているドメインサーバー（認証サーバー）を設定します。

（→ P.4-28「認証サーバ」）

③ アドレス帳サーバ

LDAP サーバーを使用する場合に設定します。

（→ P.4-29「アドレス帳サーバ」）

④ FTP サーバ

FTPサーバへの送信時に画像ファイルと共にスキャン結果のログを送信する機能を設定します。（→ P.4-29「FTP サーバ」）

⑤ NTP サーバ

ScanFrontを正しい時刻へ同期させるためのNTPサーバを設定します。（→ P.4-30「NTP サーバ」）

❏ メールサーバ

メール送信を行うためのメールサーバの設定を行います。

ヒント　ScanFrontは、大量のデータを電子メールで送信します。メールサーバの設定を行う時は必ずお使いのメールシステムの管理者の方に確認の上、設定を行ってください。



ホスト名（アドレス）
SMTP サーバ(送信用)の名称またはアドレスを入力します。

ポート番号
ポート番号を変更するときに入力します。標準は 25 です。

メールの分割サイズ
メールに添付する画像ファイルが大きくなったときに、画像ファイルを指定したサイズに分割して送信します。

重要　送信先のメーラーが添付ファイルの分割に対応していない場合、分割して送信した画像ファイルが結合できない場合があります。このようなときは、添付ファイルの分割を [なし] にし、スキャンを分割して送信してください。

メールサーバ認証方法
お使いのメールサーバの認証方法に合わせて設定します。メールサーバの認証方法についてはメールシステムの管理者にお問い合わせください。

重要
- メールサーバ認証方法で [標準SMTP] 以外を選択した場合、ユーザ毎にメールサーバで認証を行うための設定を行います(→ P.4-6)。
- [標準 SMTP] 以外を使用する場合は、必ずユーザーを登録して使用してください。

❏ 認証サーバ

Active Directory に対応したドメインサーバを使用している場合、ドメインサーバに登録されているユーザアカウントで ScanFront にログインすることができます。
認証サーバの設定では、認証サーバとして使用するドメインサーバの登録と、アカウント情報にメールアドレスが含まれている場合に、メールアドレスを参照して登録するための設定を行います。

重要
- 認証サーバを設定した場合、ScanFront を再起動して ScanFront の表示を更新してください。
- 認証サーバの利用および設定については、サーバの管理者に必ず相談してください。



サーバでの認証をする
認証サーバのユーザでのログオンを許可する場合にチェックします。

サーチベース
認証サーバに登録されているメールアドレスを参照するためのサーチベースを入力します。

重要　サーチベースの入力文字列については、システムの管理部門にお問い合わせください。

ホスト名
認証サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。

ドメイン
Active Directory に対応したドメインネームを入力します。

ポート番号
LDAPプロトコルが使用するポート番号を入力します。標準のポート番号は 389 です。

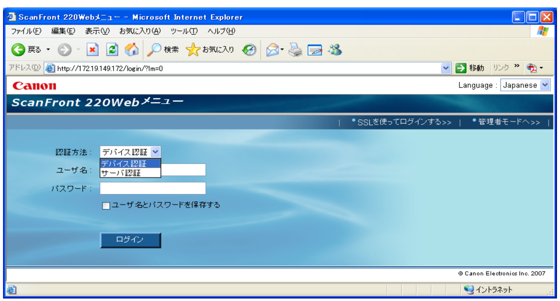
ユーザ名
認証サーバをアドレス帳サーバとして使用する場合に、メールアドレスを参照するためのユーザ名を入力します。

パスワード変更
上記ユーザのパスワードを入力する時にチェックして、パスワードを入力します。

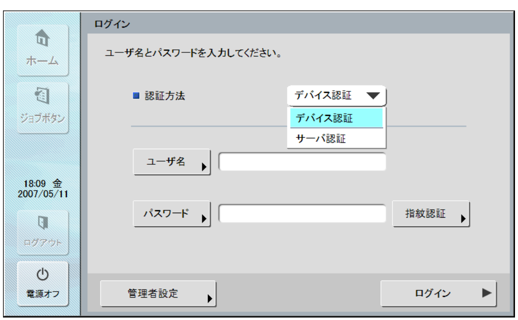
ヒント　パスワード変更は、ScanFrontに保存されるパスワードの情報を更新し、サーバに登録されているパスワードは変更されません。

サーバ認証を設定すると、ScanFront 本体と Web メニュー（ユーザモード）のログイン画面に［デバイス認証］と［サーバ認証］を選択するためのリストボックスが追加されます。

・Web メニュー（ユーザモード）ログイン画面



・ScanFront ログイン画面



❏ アドレス帳サーバ

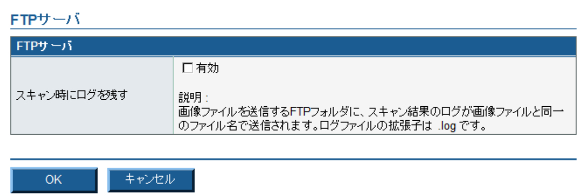
アドレス帳サーバ（LDAPサーバ）を利用する場合に設定します。



アドレス帳サーバ設定
アドレス帳サーバ（LDAPサーバ）を利用する場合に選択し、認証サーバーとアドレス帳サーバが異なる場合にすべての設定を入力します。設定項目については「認証サーバ」の設定を参照してください。

❏ FTP サーバ

FTPサーバへの送信時に画像ファイルと共にスキャン結果のログを送信する機能を使用することができます。この機能を有効にすると、画像ファイルを送信する FTP フォルダに、スキャン結果のログが画像ファイルと同一のファイル名で送信されます。ログファイルの拡張子は .log となります。



❏ NTP サーバ

ScanFrontを正しい時刻へ同期させるためのNTPサーバを設定します。



NTP サーバ設定

NTP サーバとの同期を行う場合にチェックします。

NTP サーバ（プライマリ）

メインで利用するNTPサーバのホスト名またはIPアドレスを入力します。

NTP サーバ（セカンダリ）

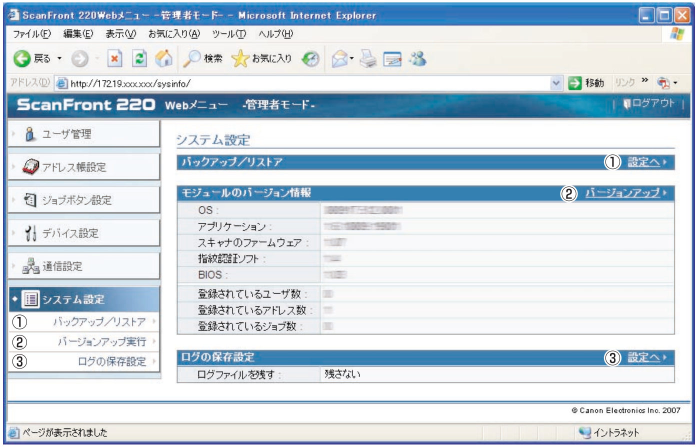
サブで利用するNTPサーバのホスト名またはIPアドレスを入力します。

重要

NTPサーバとScanFrontが同期するタイミングは本設定画面にて［OK］ボタンをクリックして設定を終了させた時及びScanFront の毎回の起動時となります。

8. システム設定

システム設定画面では、ScanFrontの設定情報のバックアップとリストア、モジュールのバージョンアップ、ScanFrontを使用したログの設定を行います。



① 全設定のバックアップ / リストア

ScanFront の設定をバックアップ / リストアします。

（→ P.4-32「バックアップ / リストア」）

但し、以下の設定についてはバックアップされません。

- IP アドレス
- デバイス名
- タッチパネル調整値

② モジュールのバージョン情報 / バージョンアップ

ScanFrontのOSおよびモジュールのバージョン情報を表示します。また、ScanFrontのバージョンアップファイルを入手して ScanFront をバージョンアップします。

（→ P.4-33「モジュールのバージョン情報 / バージョンアップ」）

重要 バージョンアップファイルの入手方法についてはキヤノンホームページをご覧ください。(→P.9-6「キヤノンホームページ」)

③ ログ設定

ScanFront の使用状況をログファイルに記録します。

（→ P.4-34「ログ設定」）

❏ バックアップ / リストア

ScanFront の設定を以下の手順でバックアップ / リストアします。

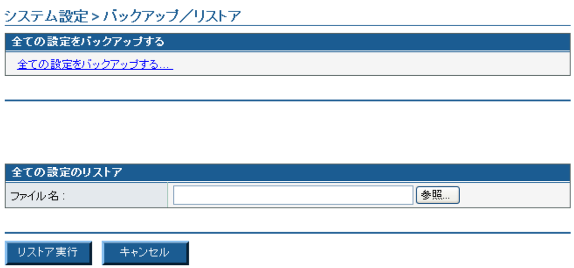
全ての設定をバックアップする

ScanFront の設定をバックアップします。

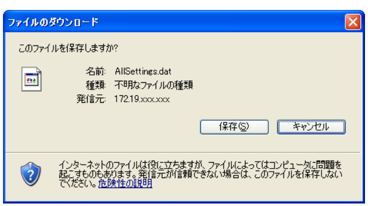
重要 以下の設定は、ScanFront固有の設定になるためバックアップデータには含まれません。

- IP アドレス
- デバイス名
- タッチパネル調整値

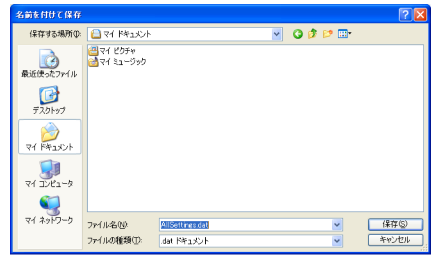
1. ［全ての設定をバックアップする］をクリックします。



2. ［保存］をクリックします。



3. バックアップデータの保存場所を指定して、バックアップデータを保存します。



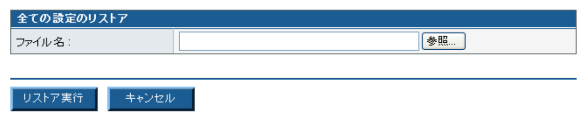
全ての設定のリストア

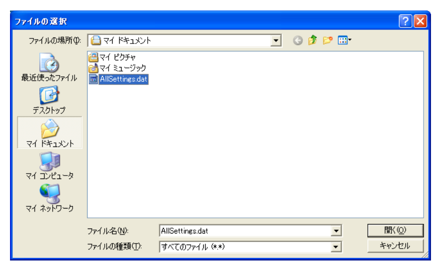
バックアップしたデータを ScanFront にリストアします。

1. ScanFront 本体に管理者、ユーザがログインしていないことを確認します。

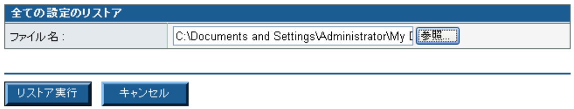
ヒント ScanFrontにユーザや管理者がログインしていると、リストアを実行した時にエラーになります。

2. ［参照］ボタンをクリックして、バックアップデータを指定します。

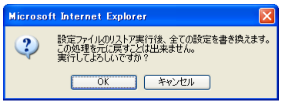




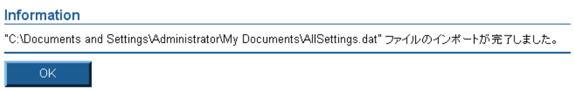
3. [リストア実行] をクリックします。



4. メッセージを確認し、[OK] をクリックしてリストアを実行します。



5. [OK] をクリックしてリストアを終了します。



6. リストアされた設定を確認します。

❑ モジュールのバージョン情報 / バージョンアップ

ScanFrontに使用しているモジュールのバージョン情報を表示と、バージョンアップを行います。

重要　バージョン情報は、ScanFrontに不具合が発生し、サポート窓口に問い合わせを行う際に必要になります。

アップデートファイルの入手

ScanFront をバージョンアップするためのアップデートファイルについては、キヤノンホームページをご覧ください。(→ P.9-6「キヤノンホームページ」)

ScanFront のアップデート

入手したアップデートファイルでScanFront をバージョンアップします。

重要
- バージョンアップを行う前に、ScanFrontのデータのバックアップを必ず行ってください。
- バージョンアップは、以下の手順で行われます。バージョンアップを開始したら、ScanFrontが再起動するまで本体には手を触れないでください。

  1. アップデートファイルの ScanFront への転送
  2. ScanFront 本体のバージョンアップ
  3. ScanFront 本体の再起動（自動）

1. ScanFront を使用していないことを確認します。

2. 「全ての設定のバックアップ」を行います。(→ P.4-32「バックアップ / リストア」)

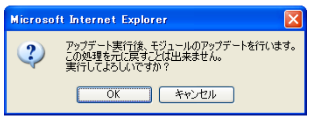
3. [参照] ボタンをクリックして、アップデートファイルを指定します。



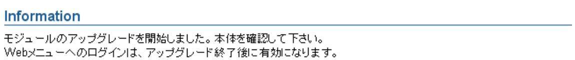
4. ［バージョンアップ実行］をクリックします。



5. メッセージを確認し、［OK］をクリックしてバージョンアップを実行します。

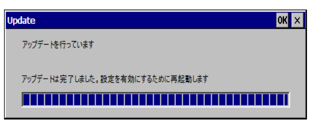


重要　アップデートファイルの ScanFront への転送に数分掛かります。Web メニューが以下の表示になるまで、Web メニュー、ScanFront 本体の操作は行わないでください。



6. Web メニューを終了します。

重要　アップデートファイルの転送が終了すると、ScanFront本体でのバージョンアップが開始されます。バージョンアップが完了し、再起動するまでScanFrontの操作は行わないでください。



7. IP アドレスを設定し、Web メニューからバックアップファイルをリストアします。

❏ ログ設定

ScanFront のログファイルを設定します。

ヒント　ログファイルは、CSV形式のテキストファイルです。ログファイルの内容は CSV 形式に対応したアプリケーションで参照できます。



ログファイルを残す

ログファイルを残す時にチェックします。

コンピュータ名（ホスト名）

ログファイルを保存する共有フォルダを公開しているコンピュータ名を入力します。

保存先

共有フォルダの名称を入力します。または、［参照］を押して保存するフォルダを選択します。

ユーザ名 / パスワード

共有フォルダに書き込み権限のあるユーザ名とパスワードを入力します。

ドメイン / ワークグループ

共有フォルダを公開しているコンピュータがドメインに参加している場合、ドメイン名を入力します。

重要　共有フォルダを公開しているコンピュータがドメインに参加している場合、ドメインに登録されているユーザ名とパスワード、ドメイン名を入力します。

ファイル名

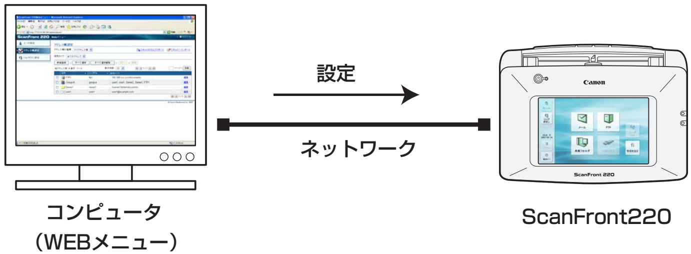
ログファイルのファイル名を入力します。

ヒント　ファイル名には、入力したファイル名にログファイルを作成した日時が付加されます。

第５章　Web メニュー（ユーザモード）

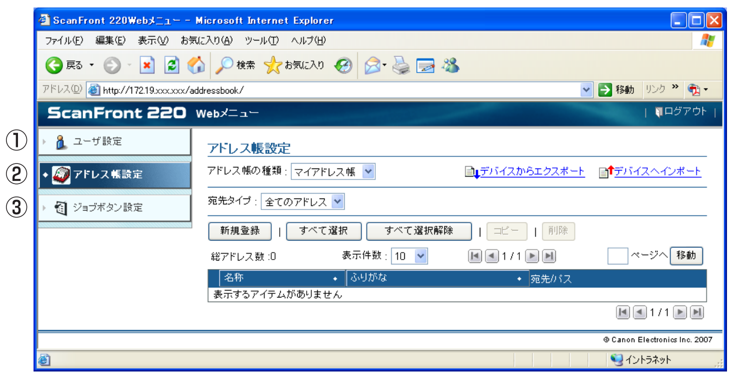
1. Web メニューについて

「Web メニュー」は、ScanFront から離れた場所にあるコンピュータの Web ブラウザから ScanFront にアクセスして設定を行うための機能です。「Web メニュー」では、アドレス帳の登録とジョブボタンの登録を行います。



重要
- Web ブラウザは、Microsoft Internet Exproler6.0 以上を使用します。
- 管理者またはユーザが ScanFront 本体にログインしていると、設定の変更ができません。
- Web メニューへログインするための URL には、ScanFront の「デバイス名」または「IP アドレス」を使用します。（→ P.5-3）

Web メニュー（ユーザモード）



① ユーザ設定（→ 5-4「ユーザ設定」）
ユーザ設定を変更します。

② アドレス帳設定（→ P.5-6「アドレス帳設定」）
すべてのユーザが共有して使用する「共有アドレス帳」とユーザごとに使用する「マイアドレス帳」の登録と管理を行います。

③ ジョブボタン設定（→ P.5-12「ジョブボタン設定」）
すべてのユーザが共有して使用する「共有ジョブボタン」とユーザごとに使用する「マイジョブボタン」の登録と管理を行います。

2. Web メニューへのログイン

Web メニューへのログインは以下の手順で行います。

重要　Web メニューへログインするための URL には［デバイス名］または、［IP アドレス］を使用します。［デバイス名］と［IP アドレス］については管理者にお問い合わせください。

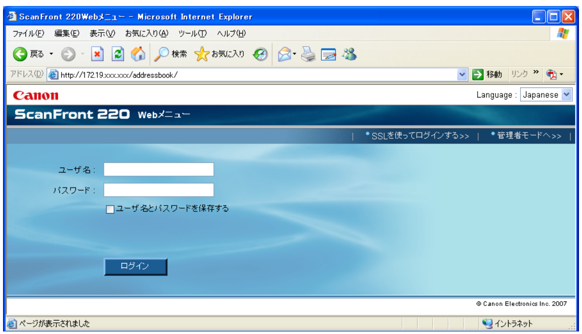
1. ScanFront の電源をオンにします。

2. 管理者に［デバイス名］または、［IP アドレス］を確認します。

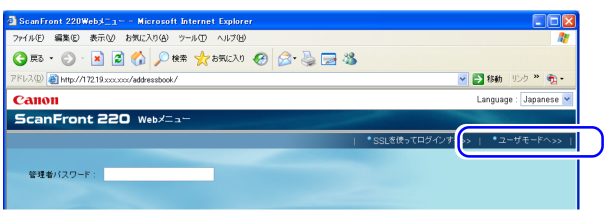
3. コンピュータで Web ブラウザを起動します。

4. URL に［デバイス名］または、［IP アドレス］を入力して Web メニューを開きます。

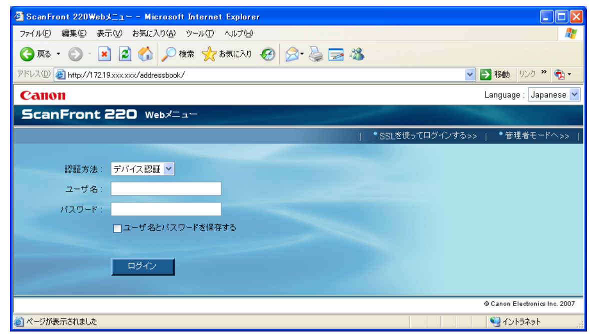
例）デバイス名が「ScanFront220」の場合、
http://scanfront220
IP アドレスの場合、http://172.19.xxx.xxx



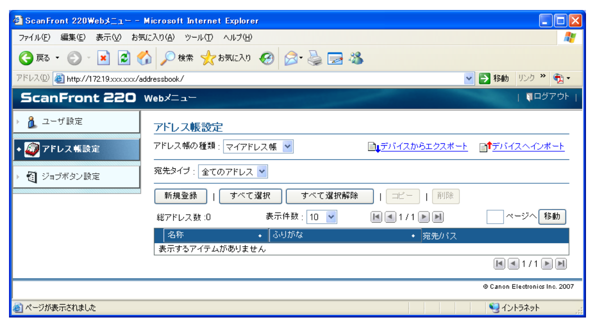
ヒント　Web メニューが管理者モードになっているときは、［ユーザモードへ］をクリックします。



重要　ログイン画面でユーザ名の上に「認証方法」が表示されているときは、ScanFront に登録されているユーザでのログイン（デバイス認証）の代わりに、ドメインサーバに登録されているアカウントでログインができます（サーバ認証）。詳細については、ScanFront の管理者にお問い合わせください。



5. ユーザ名とパスワードを入力して Web メニューにログインします。



重要　ユーザ名とパスワードは、大文字、小文字を正確に入力しないとログインできません。

3. ユーザ設定

「ユーザ設定」では、デバイス認証でログインしたユーザの情報を変更します。



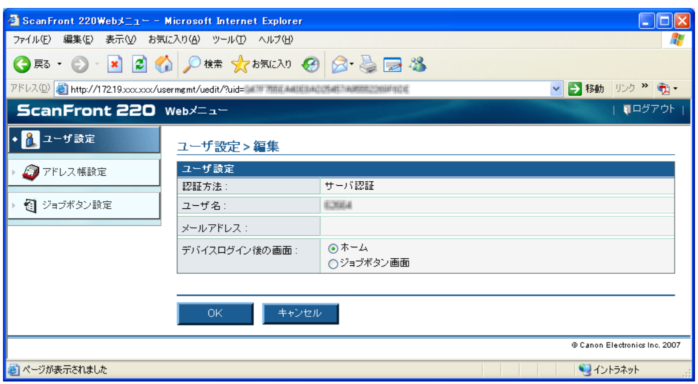
① 設定へ（→5-5「ユーザ編集」）

ユーザの編集を行います。

重要

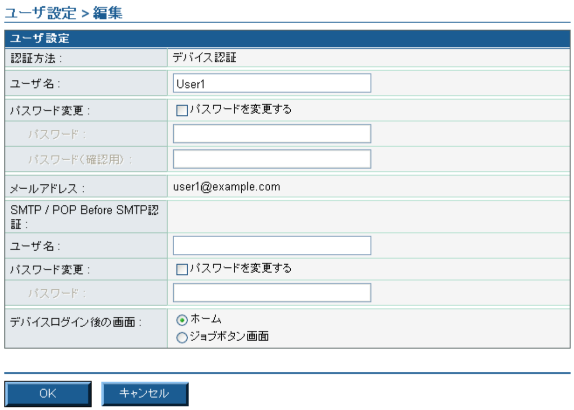
・サーバ認証でログインしたユーザの場合、「デバイスログイン後の画面」の選択のみ行います。

・サーバ認証でログインしたユーザの場合、メールアドレスが登録されない場合があります。メールアドレスの設定については管理者にお問い合わせください。



❏ ユーザ編集

［設定へ］をクリックしてユーザ情報の編集を行います。



ユーザ名
新しいユーザ名を入力します。

パスワード変更
［パスワードを変更する］チェックボックスをチェックし、新しいパスワードと確認用のパスワードを入力します。

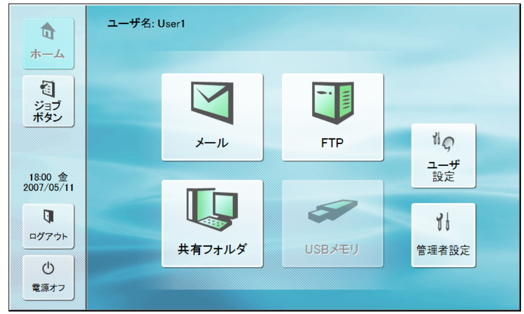
メールアドレス（変更不可）
メールアドレスを変更する場合は、管理者に連絡してください。

SMTP/POP Before SMTP 認証
管理者が設定するメールサーバの設定 （→ P.4-28）で「メールサーバ認証方法」が標準 SMTP 以外に設定されているときに表示され、メールサーバで認証を行うための「ユーザ名」と「パスワード」を入力します。

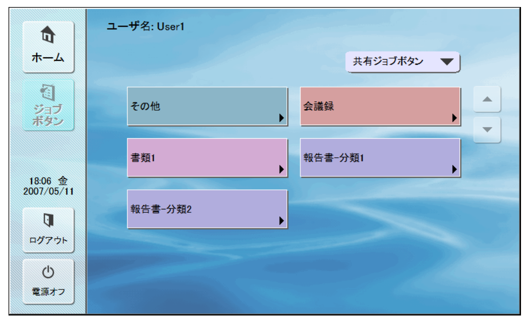
重要
- 「パスワード」を入力するときは、［パスワードを変更する］をチェックしてパスワードを入力します。
- ［パスワードを変更する］は、ScanFront に保存されているパスワード情報の更新を行い、サーバに登録されているパスワードは変更しません。

デバイスログイン後の画面
ユーザがログインしたときに表示させる初期画面を「ホーム画面」、「ジョブボタン画面」から選択します。

・ホーム画面



・ジョブボタン画面

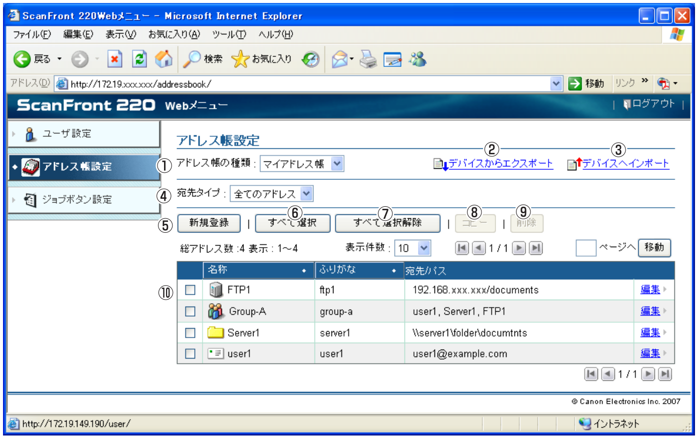


重要
- ログイン後の初期画面の設定は、スキャンした画像を送信後の動作に反映します。（→ P.5-15「送信設定」）
- 管理者によりホーム画面の使用が制限されている場合、「デバイスログイン後の画面」の設定は［ジョブボタン画面］のみの表示になります。詳細については、管理者にお問い合わせください。

［OK］ボタン
変更した内容でユーザ情報が更新されます。

4. アドレス帳設定

「アドレス帳設定」では、すべてのユーザが共有して使用する「共有アドレス帳」とユーザごとに使用する「マイアドレス帳」の登録を行います。



① **アドレス帳の種類**

編集するアドレス帳（共有アドレス帳、マイアドレス帳）を選択します。

② **デバイスからエクスポート**

アドレス帳のデータをCSV形式のファイルに書き出します。
（→ P.5-11「アドレス帳のエクスポート / インポート」）

③ **デバイスへインポート**

書き出したアドレス帳のデータをインポートします。
（→ P.5-11「アドレス帳のエクスポート / インポート」）

④ **宛先タイプ**

表示する宛先のタイプ（メール、FTPサーバ、共有フォルダ、グループ、全て）を選択します。

⑤ **［新規登録］ボタン**

新しい宛先を登録します。（→ P.5-8「 宛先の新規登録」）

⑥ **［すべて選択］ボタン**

表示されているすべての宛先を選択します。

⑦ **［すべて選択解除］ボタン**

表示されているすべての宛先の選択を解除します。

⑧ **［コピー］ボタン**

宛先を選択すると有効になり、選択した宛先をコピーします。
（→ P.5-10「宛先のコピー」）

⑨ **［削除］ボタン**

宛先を選択すると有効になり、選択した宛先を削除します。

⑩ **宛先一覧**

登録されている宛先を表示します。

- **チェックボックス**：宛先を選択します。
- **宛先の種類（アイコン）**

  ：FTP　　：共有フォルダ

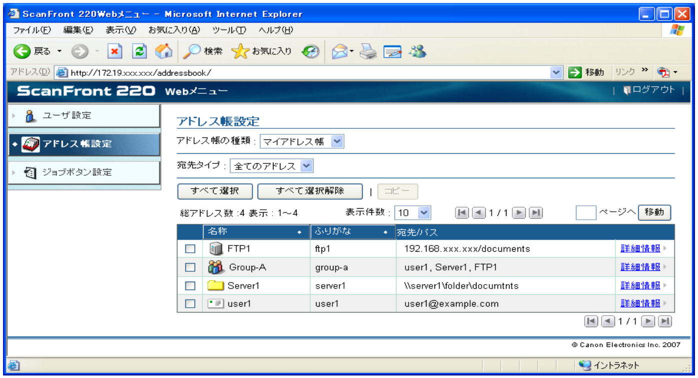
  ：メール　　：グループ

- **編集**：宛先を編集します。

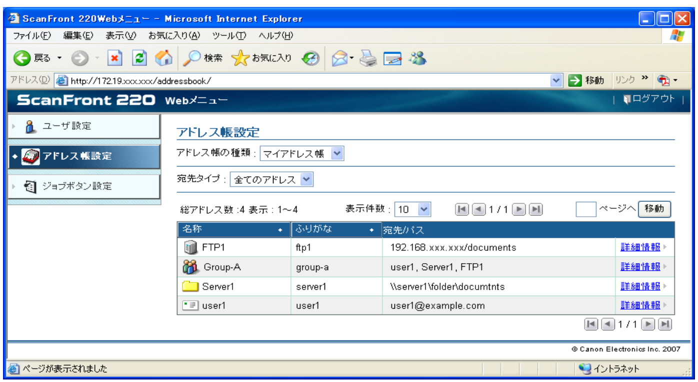
重要

管理者により、アドレス帳の編集が制限されている場合、アドレス帳設定は以下のようになります。詳細については、管理者にお問い合わせください。

・「マイアドレス帳」と「共有アドレス帳」で片方のアドレス帳の編集が制限されている場合、編集が制限されたアドレス帳は宛先のコピーのみ可能で、編集が制限されていないアドレス帳に貼り付けることができます。



・「マイアドレス帳」と「共有アドレス帳」の両方の編集が制限されている場合、宛先の詳細情報の表示のみになります。



❑ 宛先の新規登録

アドレス帳の種類（共有アドレス帳、マイアドレス帳）を選択し、［新規登録］ボタンをクリックして新しい宛先を登録します。

重要
- 共有アドレス帳（マイアドレス帳）に登録できる宛先の数は、共有ジョブボタン（マイジョブボタン）に含まれる宛先の総数と合わせて 1000 件以下です。
- 上記の件数に於いて、グループはグループに登録される件数（最大 99 件）＋グループ名でカウントされ、宛先が 99 件登録されているグループでは 1 つのグループで 100 件としてカウントされます。
- 宛先は、宛先のタイプ（メール、FTP サーバ、共有フォルダ、グループ、全て）によって設定項目が変化します。

宛先の共通項目

名称
ScanFront 本体に表示する名称を入力します。

ふりがな
ScanFront 本体に表示される宛先をソート（並び替え）するための、「ふりがな」を入力します。

ヒント
「ふりがな」は、ScanFront 本体に表示される宛先のソートと、ScanFront 本体のジャンプキーによる宛先の検索に使用します。

宛先タイプ：メール

電子メールのアドレスを登録します。



メールアドレス
送信先のメールアドレスを入力します。

［OK］ボタン
設定した条件でメールアドレスが新規登録されます。

宛先タイプ：FTP サーバ

ネットワーク内に設定されている FTP サーバを登録します。

重要
ファイアウォールの設定が必要な FTP サーバは登録できません。



FTP サーバ
FTP サーバの「IP アドレス」または「ホスト名」を入力します。

フォルダへのパス
FTPサーバのサブフォルダを指定するときにサブフォルダのパスを入力します。

ヒント
サブフォルダのパスが不明なときは以下の手順でサブフォルダを指定します。

1.「サーバアドレス」と「ユーザ名」、「パスワード」を入力してから［参照］ボタンをクリックして FTP サーバにログインします。
2.表示されたフォルダの階層から任意のサブフォルダを指定して［OK］をクリックします。

ユーザ名 / パスワード

FTP サーバにログインするためのユーザ名とパスワードを入力します。

重要　ユーザ名とパスワードは、FTP サーバに書き込み権限のあるアカウントのユーザ名とパスワードを入力してください。

ポート番号

ポート番号を入力します。標準のポート番号は 21 です。

パスワード保存

入力したパスワードを保存します。

パッシブモード

FTP サーバへの送信をパッシブモードで行います。

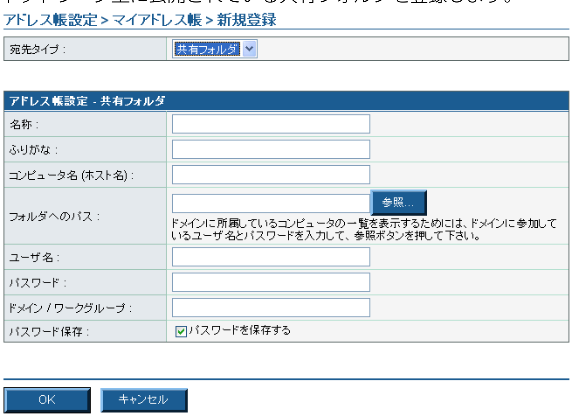
重要　パッシブモードはFTPサーバとの通信が正常できないときに使用します。但し、ネットワークの状態によっては通信できない場合もあります。

[OK］ボタン

設定した条件で FTP サーバが新規登録されます。

宛先タイプ：共有フォルダ

ネットワーク上に公開されている共有フォルダを登録します。



コンピュータ名（ホスト名）

共有フォルダを公開しているコンピュータ名を入力します。

フォルダへのパス

共有フォルダの名称と登録するサブフォルダのパスを入力します。

[参照］ボタン

ネットワークに接続されているコンピュータを一覧表示して、共有フォルダを指定します。

ヒント　共有フォルダは以下の手順で表示させます。

1. 「コンピュータ名」と「ユーザ名」、「パスワード」、「ドメイン/ワークグループ」を入力してから [参照] ボタンをクリックし、共有フォルダを公開しているコンピュータにアクセスします。
2. 表示されたコンピュータから任意のサブフォルダを指定して［OK］をクリックします。

重要

- ユーザのアカウント情報を入力しないで［参照］ボタンをクリックすると、同一のネットワークアドレス内のワークグループおよびコンピュータが表示されます。
- ドメインに参加していないワークグループを表示させる場合、ネットワークアドレスが異なるコンピュータのワークグループを表示させることはできません。
- ScanFrontを起動させた直後では、ネットワーク内のワークグループ、コンピュータをすべて表示させることはできません。表示されないワークグループ、コンピュータがあるときは、数分経ってから［参照］ボタンを押してください。
- Webメニューでは指定したフォルダに新規フォルダを作成することはできません。フォルダを新規に作成する場合には、FTPサーバを設定しているコンピュータまたは、ScanFront本体の宛先編集機能で予めフォルダを作成してください。

ユーザ名 / パスワード

共有フォルダに書き込み権限のあるアカウントのユーザ名とパスワードを入力します。

ドメイン / ワークグループ

共有フォルダを公開しているコンピュータがドメインに参加している場合、ドメイン名を入力します。

重要

- 共有フォルダを公開しているコンピュータがドメインに参加している場合、ドメインに登録されているユーザ名とパスワード、ドメイン名を入力します。
- 共有フォルダを公開しているコンピュータがドメインに参加していない場合は、「ドメイン / ワークグループ」の入力は必要ありません。

パスワード保存

宛先にパスワードを保存するときにチェックします。

重要　パスワードを保存しない場合、送信時にパスワードの入力が必要になります。

［OK］ボタン

設定した条件で共有フォルダが新規登録されます。

宛先タイプ：グループ

登録した宛先をグループにまとめて登録します。

ヒント　グループには、メールアドレスや共有フォルダなど異なるタイプの宛先をグループとして登録することができ、１つのグループに最大 99 件の宛先を登録できます。



アドレス帳から追加

アドレス帳から宛先を選択してグループ追加し、リストに表示します。

［OK］ボタン

設定した条件でグループが新規登録されます。

❑ 宛先のコピー

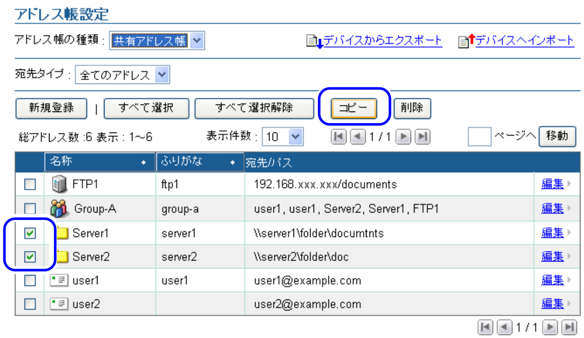
宛先をコピーして、新しい宛先として登録します。

ここでは、「共有アドレス帳」から「マイアドレス帳」へのコピーを例として説明します。

ヒント　宛先のコピーは、「共有アドレス帳」と「マイアドレス帳」で相互に宛先をコピーしたり、設定の一部を変更して別の宛先として登録するときに使用します。

1. **アドレス帳の種類を「共有アドレス帳」にします。**

2. **コピーする宛先を選択し、[コピー] ボタンをクリックします。**



3. **コピー先を「マイアドレス帳」にして [OK] をクリックします。**



4. **コピーされた宛先を確認します。**



❑ アドレス帳のエクスポート / インポート

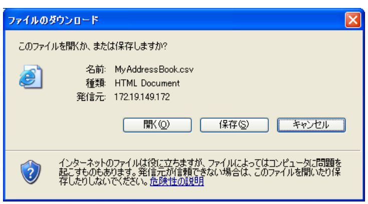
アドレス帳を CSV 形式のファイルにバックアップおよび、バックアップしたアドレス帳のデータを他のScanFrontにインポートして使用します。

ヒント　ScanFront が複数台ある場合、1 台の ScanFront で登録したアドレス帳を他の ScanFront にインポートすることにより、同じアドレス帳を使用することができます。

デバイスからエクスポート

アドレス帳のデータを指定したフォルダに保存します。

1. **［デバイスからエクスポート］をクリックします。**

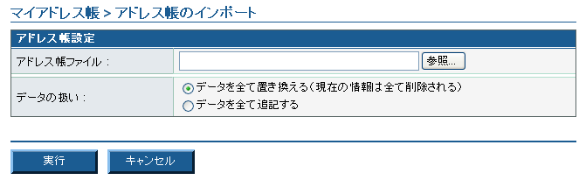


2. **［保存］をクリックし、保存場所を指定してアドレス帳のデータを保存します。**

デバイスへインポート

エクスポートしたアドレス帳のデータをインポートします。

1. **［デバイスへインポート］をクリックします。**



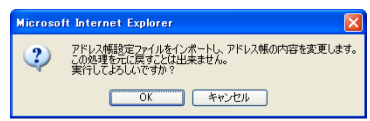
2. **［参照］をクリックし、エクスポートしたアドレス帳の設定ファイルを指定します。**

3. **アドレス帳の設定ファイルをインポートした際の処理方法を選択します。**

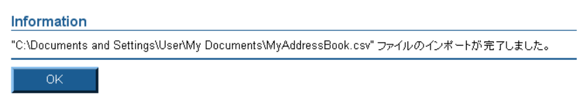
- データを全て置き換える：現在登録されているアドレス帳がすべて削除され、インポートするアドレス帳のデータに置き換えられます。
- データを全て追記する：現在登録されているアドレス帳に、インポートするアドレス帳のデータが追記されます。

4. **［実行］をクリックします。**

メッセージを確認してインポートを行います。

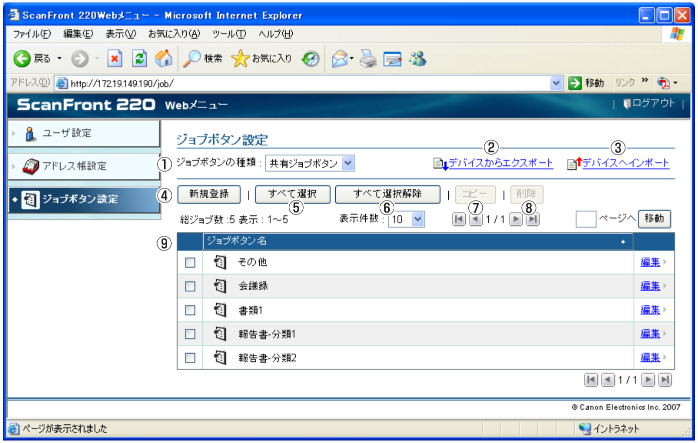


ヒント　インポートが終了すると以下のメッセージが表示されます。［OK］をクリックしてアドレス帳設定に戻り、インポートされた宛先を確認します。



5. ジョブボタン設定

「ジョブボタン設定」では、すべてのユーザが共有して使用する「共有ジョブボタン」とユーザごとに使用する「マイジョブボタン」の登録を行います。



① ジョブボタンの種類

編集するジョブボタン（共有ジョブボタン、マイジョブボタン）を選択します。

② デバイスからエクスポート

ジョブボタンのデータをdat形式のファイルに書き出します。
（→ P.5-19「ジョブボタンのエクスポート／インポート」）

③ デバイスへインポート

書き出したジョブボタンのデータをインポートします。
（→ P.5-19「ジョブボタンのエクスポート／インポート」）

④ ［新規登録］ボタン

新しいジョブボタンを登録します。
（→ P.5-14「ジョブボタンの新規登録」）

⑤ ［すべて選択］ボタン

表示されているすべてのジョブボタンを選択します。

⑥ ［すべて選択解除］ボタン

表示されているすべてのジョブボタンの選択を解除します。

⑦ ［コピー］ボタン

ジョブボタンを選択すると有効になり、選択したジョブボタンをコピーします。（→ P.5-19「ジョブボタンのコピー」）

⑧ ［削除］ボタン

ジョブボタンを選択すると有効になり、選択したジョブボタンを削除します。

⑨ ジョブボタン一覧

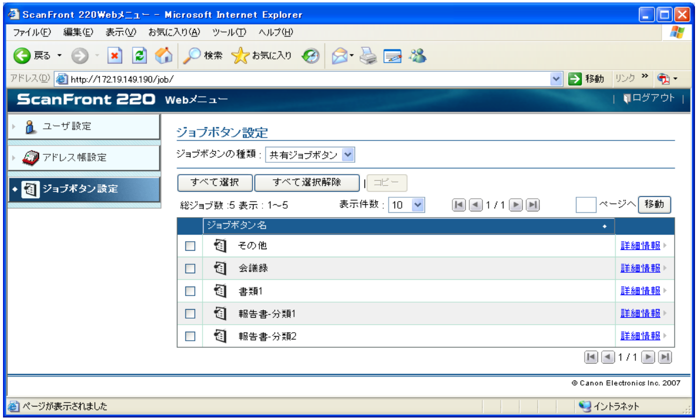
登録されているジョブボタンを表示します。

- **チェックボックス**：ジョブボタンを選択するときにチェックします。
- **編集**：ジョブボタンを編集します。

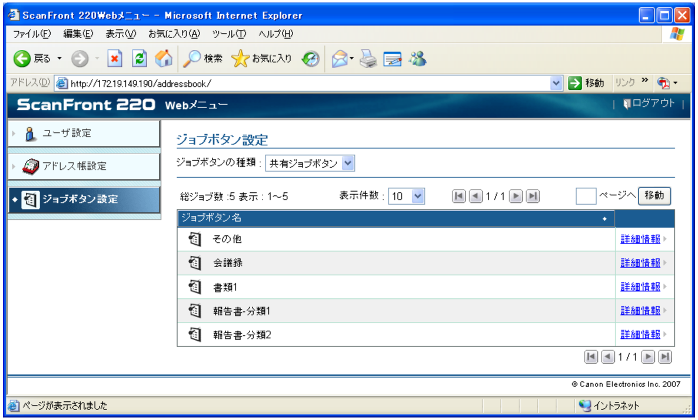
重要

管理者により、ジョブボタンの編集が制限されている場合、ジョブボタン設定は以下のようになります。詳細については、管理者にお問い合わせください。

・「マイジョブボタン」と「共有ジョブボタン」で片方のジョブボタンの編集が制限されている場合、編集が制限されたジョブボタンはコピーのみ可能で、編集が制限されていないジョブボタンに貼り付けることができます。



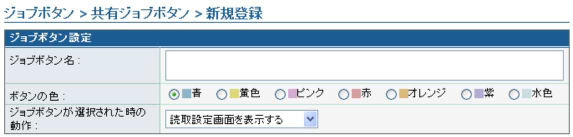
・「マイジョブボタン」と「共有ジョブボタン」の両方の編集が制限されている場合、ジョブボタンの詳細情報の表示のみになります。



❏ ジョブボタンの新規登録

［新規登録］ボタンで新しいジョブボタンを登録します。

ジョブボタン設定



ジョブボタン名

本体のパネルに表示するジョブボタンの名称を入力します。

ヒント
- ジョブボタンはジョブボタン名でソートして表示します。ジョブボタンを任意の順番で表示させるためには名称の前に英字または数字を入れて登録します。　例）01_xxxx
- ジョブボタン名を２行にすると、ジョブボタンの表示も２行になります。

ボタンの色

ジョブボタンの色を指定します。

ジョブボタンが選択された時の動作

- 読取設定画面を表示する
  ジョブボタンを押したときに「読取設定」画面を表示します。
- 読取設定画面をスキップする
  ジョブボタンを押したときに「読取設定」画面を表示しないでスキャンを開始します。

重要
［読取設定画面をスキップする］を選択した場合、ジョブボタンを押すと原稿の有無に関係なくスキャンを開始します。

宛先設定



「アドレス帳から設定....」をクリックして宛先設定ページを開き、送信するアドレスを選択します。

重要
- ジョブボタンに登録できる宛先は最大 100 件です。
- 上記の件数に於いて、グループはグループに登録される件数（最大 99 件）＋グループ名でカウントされ、宛先が 99 件登録されているグループでは１つのグループで 100 件としてカウントされます。

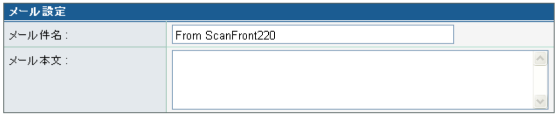
スキャン設定 / 詳細設定

スキャン設定/詳細設定については「スキャン設定について」（→P.5-16）を参照してください。





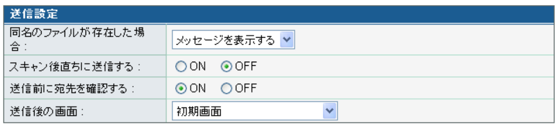
メール設定



メール件名
送信する電子メールの件名を入力します。

メール本文
電子メールの本文を入力します。

送信設定



同名のファイル名が存在した場合
送信先に同名のファイル名が存在したときの処理を選択します。
- メッセージを表示する
  上書きの確認のメッセージを表示します。
- 処理を中断する
  送信を中止します。
- 上書きする
  メッセージを表示しないで、同名のファイルに上書きします。

スキャン後直ちに送信する
- ON
  スキャンが終了したら 送信を開始します。
- OFF
  スキャンが終了したら画像の確認を行ってから送信を開始します。

送信前に宛先を確認する
- ON
  「宛先確認」画面を表示し、宛先を確認してから送信します。
- OFF
  宛先を確認しないで送信します。

送信後の画面
画像を送信したあとに表示させる画面を選択します。
- 初期画面
  ユーザ設定の［デバイスログオン後の画面］で設定されているユーザの初期画面に戻ります。
- ログアウト
  画像を送信したらログアウトします。
- 送信終了後の画面を選択する
  送信後、上記の動作を選択するメッセージ画面を表示します。

❏ スキャン設定について

スキャン設定には、スキャン条件の基本設定と詳細設定、ファイル形式別の個別の設定があります。

スキャン設定



用紙サイズ

スキャンする原稿のサイズをリストから選択します。

ヒント　[自動サイズ] は、スキャンした原稿のサイズを自動検知してスキャンします。

モード

スキャンするモード（白黒、誤差拡散、文字強調、グレー、カラー）を選択します。

重要　選択したモードによって保存できるファイル形式が限定され、設定できない組み合わせの場合、メッセージが表示されます。

	TIFF	JPEG	PDF
白黒	○	–	○
誤差拡散	○	–	○
文字強調	○	–	○
グレー	–	○	○
カラー	–	○	○

解像度

スキャンする解像度（100dpi、150dpi、200dpi、300dpi、400dpi、600dpi）を選択します。

読み取り面

原稿をスキャンする面（片面、両面、白紙スキップ）を選択します。

ヒント
- 白紙スキップは、原稿の両面をスキャンして白紙と判断した画像の保存をスキップします。
- 白紙スキップは、「白紙スキップの感度」で白紙をスキップする感度を調節します。
- 白紙スキップの初期値は、「90」に設定されています。　設定値を低くすると、白紙でない原稿もスキップされるようになり、設定値を高くすると、白紙の原稿もスキップされなくなります。

プレスキャン

１枚目の原稿で画像を確認してからスキャンを行います。

ヒント
- スキャンを開始すると原稿を１枚スキャンしてスキャンを中断し、１枚目の画像を表示します。
- 表示されている画像で明るさとコントラストを確認・調整します。「スキャン継続」を押すと調整した明るさとコントラストで１枚目の画像が確定してスキャンを続行します。

ファイル名

送信する画像ファイルのファイル名を半角英数字（A-Z, a-z, 0-9）で指定します。

ファイル名に日付と時間を付加する

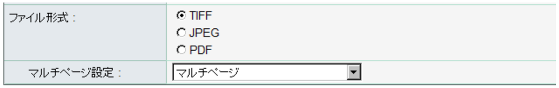
送信する画像ファイルに日付けと時間を表す17桁のファイル名を付加します。

例）2007 年５月 14 日 15 時 40 分 30 秒の場合
　yyyyMMdd：ファイル名 +20070514154030123
　MMddyyyy：ファイル名 +05142007154030123
　ddMMyyyy：ファイル名 +14052007154030123
　＊末尾の３桁は、ミリ秒を表します。

ファイル形式

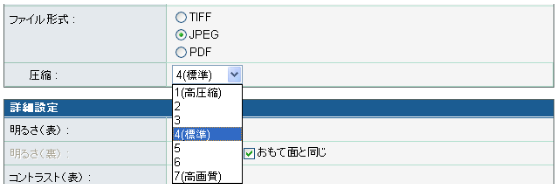
画像ファイルのファイル形式を選択し、ファイル形式に合わせて設定を行います。

TIFF 形式：マルチページ設定



複数ページスキャンした画像ファイルを［シングルページ（表裏別ファイル）］、［シングルページ（表裏同一ファイル）］、［マルチページ（複数ページ同一ファイル）］のどの形式で保存するか選択します。

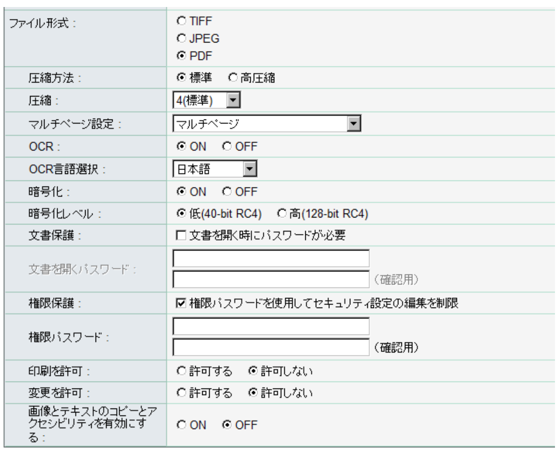
JPEG 形式：圧縮率



JPEG 形式で保存する場合の圧縮率を選択します。

PDF 形式：

圧縮率、マルチページ設定、OCR（文字認識）、暗号化によるセキュリティの設定を行います。



圧縮方法

圧縮方法を［標準］と［高圧縮］から選択し、圧縮レベルを指定します。

OCR（文字認識）

OCR を［ON］にすると原稿内の文字の部分が文字認識され、テキスト情報として PDF ファイルに埋め込まれます。

ヒント　OCR を［ON］にしたときは、原稿内の文字に合わせて OCR を行う言語を選択します。

暗号化（セキュリティ）

暗号化により PDF ファイルにセキュリティを施します。

重要　暗号化レベルは、高（128-bit RC4）レベルでの暗号化を推奨します。低（40-bit RC4）レベルではセキュリティレベルが低下します。

文書保護

文書の閲覧をパスワードで保護します。

重要　パスワードを忘れると文書が開けなくなります。パスワードを設定したときは、忘れないように注意してください。

権限保護

PDF ファイルの印刷と編集の権限をパスワードで保護します。

印刷を許可

プリンタによる PDF ファイルの印刷を許可します。

変更を許可

ページの追加や削除など、PDF ファイルの編集を許可します。

画像とテキストのコピーとアクセシビリティを有効にする

OCR により埋め込まれたテキスト情報のコピーや、音声ソフトによる PDF ファイルの読み上げを有効にします。

重要
- PDF ファイルの権限を制限した場合、パスワードで保護することを推奨します。
- パスワードで保護された PDF ファイルは、Adobe Acrobat などPDFファイルを編集することのできるアプリケーションで権限の変更やパスワードを解除することができます。

詳細設定



重要　「超音波重送検知」は、ScanFront 220Pを使用しているときに表示されます。

明るさ（表）

スキャンする画像の明るさを調整します。

明るさ（裏）

両面スキャンのときに有効で、原稿の表裏の濃淡に差があるときに使用します。[おもて面と同じ] チェックボックスをオフにすると、原稿の表裏で明るさの設定を変えることができます。

コントラスト（表）

スキャンする画像のコントラストを調整します。

コントラスト（裏）

両面スキャンのときに有効で、原稿の表裏の濃淡に差があるときに使用します。[おもて面と同じ] チェックボックスをオフにすると、原稿の表裏でコントラストの設定を変えることができます。

超音波重送検知（ScanFront 220P のみ）

重なって搬送された原稿の隙間を超音波によって検出し、重送と判断したときに搬送を停止します。

重要　原稿の重なりが 50mm 以上の重送に対して有効です。重なり量の短い重送に対しては、重送検知は機能しません。

長さによる重送検知

原稿の長さによって重送を判断し、重送と判断したときに搬送を停止します。

重要
- １枚目の原稿の長さを基準とし、35mm以上長い/短い原稿を検知したときに重送として判断します。
- 用紙の長さの異なる原稿が混在しているときは、[長さによる重送検知をオフにしてください。

画像回転

スキャンした画像を指定した角度に回転させます。

ヒント　[自動] を選択したときは、原稿内の文字の向きを検知して、文字の向きが正しくなるように画像を回転させます。

斜行補正

傾いた原稿の搬送をスキャンした画像で検知して、画像がまっすぐになるように補正します。

- 画質優先
  斜行補正で劣化した画像に画像処理を施して画質の劣化を抑えます。
- 速度優先
  斜行補正により画像が若干劣化します。

重要　[画質優先] を選択すると、補正後の画質が向上します。但し、処理速度が低下するため、大量にスキャンするときは [速度優先] をお使いください。

裏写り除去

裏面に文字などがある薄い原稿をスキャンするときなど、裏面の模様が画像に写り込むようなときに、写り込んだ裏面の模様の画像を除去します。

ヒント　裏写り除去を使用するときは、原稿の状態に合わせて裏写り除去のレベルを調整します。

カラードロップアウト

カラードロップアウトには、赤色、青色、緑色の指定した色を読み飛ばす「ドロップアウト」と、指定した色を強調する「色強調」の機能があります。

重要　カラードロップアウトの設定はモードの設定が [カラー] のときは無効です。

ヒント　ドロップアウトで色の付いた罫線などを消去することにより、OCR の認識率が向上する場合があります。

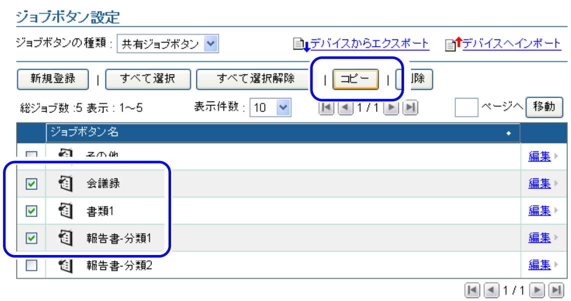
❑ ジョブボタンのコピー

ジョブボタンをコピーして、新しいジョブボタンとして登録します。
ここでは、「共有アドレス帳」から「マイアドレス帳」へのコピーを例として説明します。

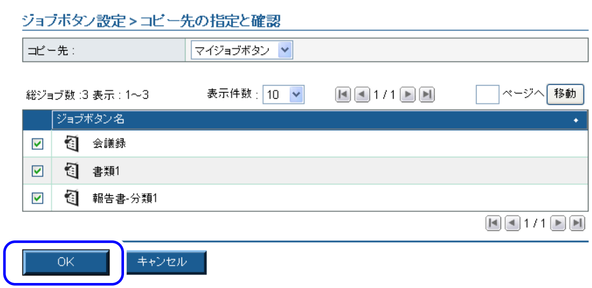
ヒント　ジョブボタンのコピーは、ジョブボタンを共有ジョブボタンからマイジョブボタンにコピーしたり、設定の一部を変更して別のジョブボタンとして登録するときに使用します。

1. ジョブボタンの種類を「共有ジョブボタン」にします。

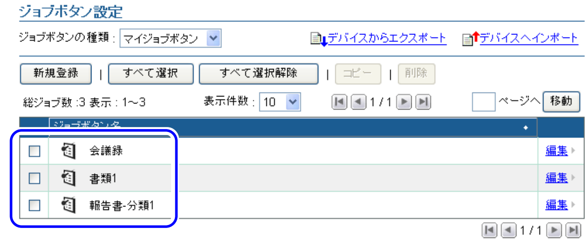
2. コピーするジョブボタンを選択し、［コピー］ボタンをクリックします。



2. コピー先を「マイジョブボタン」にして［OK］をクリックします。



3. コピーされたジョブボタンを確認します。



❑ ジョブボタンのエクスポート / インポート

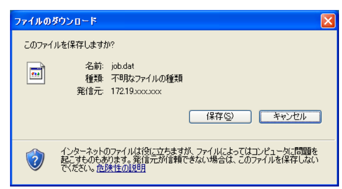
ジョブボタンのデータをdat形式の設定ファイルにバックアップおよび、バックアップしたジョブボタンの設定ファイルを他の ScanFront にインポートして使用します。

ヒント　ScanFrontが複数台あるときに、1 台のScanFrontで登録したジョブボタンの設定ファイルを他のScanFront にインポートすることにより、同じジョブボタンを使用することができます。

デバイスからエクスポート

ジョブボタンの設定ファイルを指定したフォルダに保存します。

1. ［デバイスからエクスポート］をクリックします。

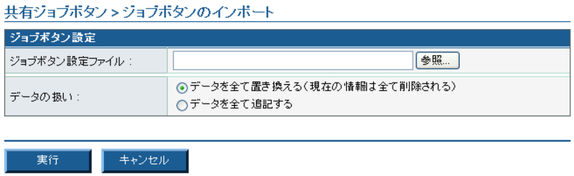


2. ［保存］をクリックし、保存場所を指定してジョブボタンの設定ファイルを保存します。

デバイスへインポート

エクスポートしたジョブボタンの設定ファイルをScanFrontにインポートします。

1.［デバイスへインポート］をクリックします。



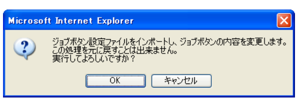
2. エクスポートしたジョブボタンの設定ファイルを指定します。

3. ジョブボタンの設定ファイルをインポートした際の処理方法を選択します。

- **データを全て置き換える**:現在登録されているジョブボタンがすべて削除され、インポートするジョブボタンに置き換えられます。
- **データを全て追記する**：現在登録されているジョブボタンに、インポートするジョブボタンが追加されます。

4.［実行］をクリックします。

メッセージを確認してインポートを行います。



ヒント

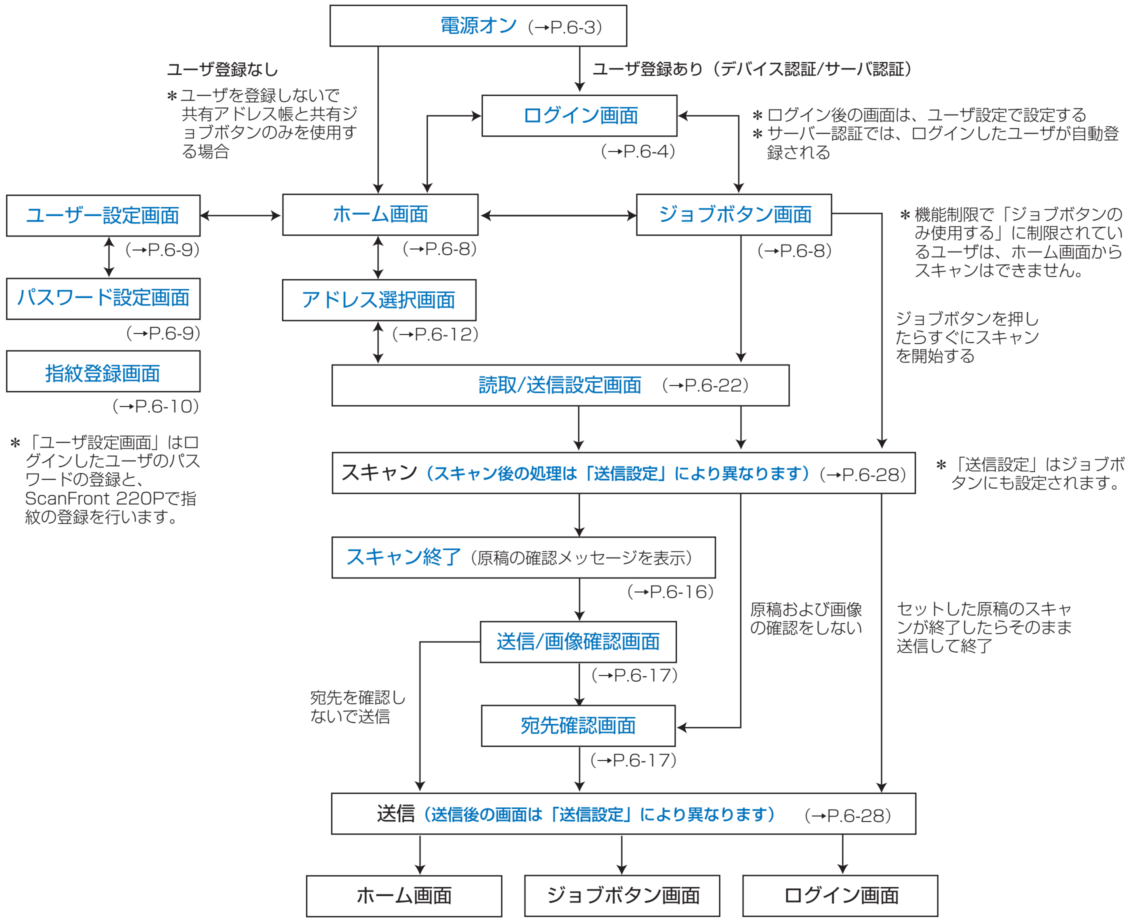
インポートが終了すると以下のメッセージが表示されます。［OK］をクリックしてジョブボタン設定に戻り、インポートされたジョブボタンを確認します。



第 6 章　ScanFront の使用方法

1. 送信までの流れ

ScanFrontの電源をオンにしてから画像ファイルを送信するまでの手順および画面の推移は、ユーザーやジョブボタンの設定によって以下のようになります。詳細についてはそれぞれの参照ページを参照してください。

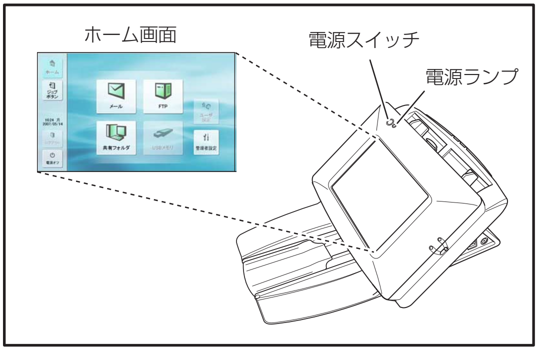


2. 電源のオン / オフ

ScanFront の電源は、ScanFront 本体の「電源スイッチ」でオンにし、操作パネルに表示されている「電源オフ」ボタンで電源をオフにします。

❏ 電源のオン

電源スイッチを押して、ScanFront の電源をオンにします。電源ランプが点灯し、ホーム画面またはログイン画面が表示されます。



ヒント

- 電源スイッチをオンにしてからホーム画面が表示されるまで約 40 秒かかります。
- ユーザが登録されているときは、ログイン画面が表示されます。(→ P.6-4「ログイン画面について」)
- 電源ランプが点灯した状態でパネルが表示されていないときは、ディスプレイオフモードによりパネルの表示がオフになっています。このようなときは、パネルを押すことによりディスプレイオフモードから復帰します。(→ P.4-25「デバイス動作設定－ディスプレイオフ」)
- 電源ランプが点滅した状態でパネルが表示されていないときは、ローパワーモードにより ScanFront の動作が停止しています。ローパワーモードから復帰するときは、電源スイッチを押してローパワーモードから復帰します。(→ P.4-25「デバイス動作設定－ローパワーモード」)

❏ 電源のオフ

パネル左下にある［電源オフ］ボタンを押して電源をオフにします。



重要

- ScanFrontの電源を入れ直すときは、電源をオフした後、約 5 秒間待ってから電源をオンにしてください。
- ScanFrontが動作しなくなったときは、電源スイッチを長押しすることにより、システムがシャットダウンされます。この場合、直前に設定していた内容が破棄されます。

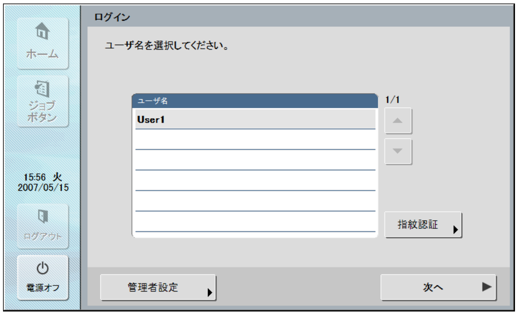
3. ログイン画面について

ScanFront の電源をオンにするとログイン画面で起動します。

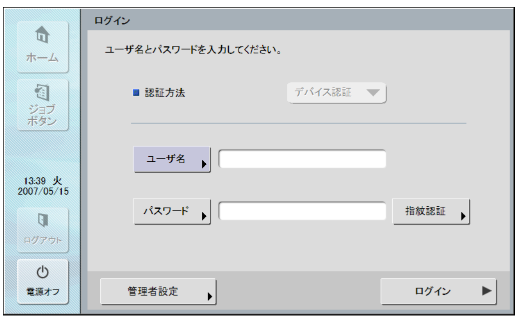
❑ ログイン画面のタイプ

ログイン画面には、登録されているユーザを一覧から選択する「リスト選択型」と、ユーザ名とパスワードを入力する「文字入力型」の２種類のログイン画面があります。

「リスト選択型」ログイン画面



「文字入力型」ログイン画面

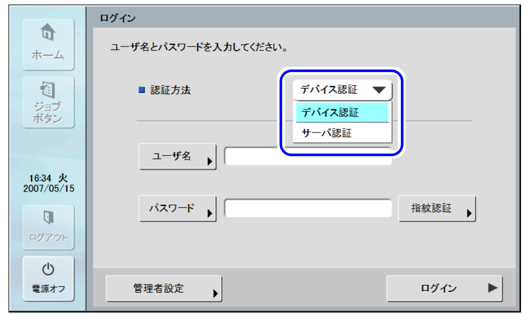


ヒント

- ログイン画面のタイプは、Web メニューの「デバイスの動作設定」（→ P.4-25）または、ScanFront 本体の管理者設定「ログインタイプ選択」（→ P.3-10）で設定します。
- 指紋認証は、ScanFront220P を使用している場合に有効になります。（→ P.6-7「指紋認証」）

❑ サーバ認証を使用する場合

サーバ認証を使用する場合のログイン画面は「文字入力型」で「デバイス認証」と「サーバ認証」を選択するためのリストボックスが有効になります。



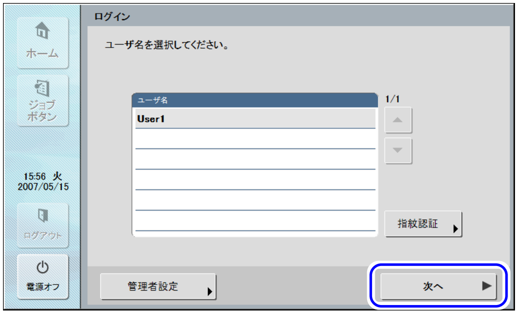
重要

- サーバ認証でログインすると、サーバ認証のユーザとして新規登録されます。
- サーバ認証では指紋認証を使用できません。

❑「リスト選択型」ログイン画面

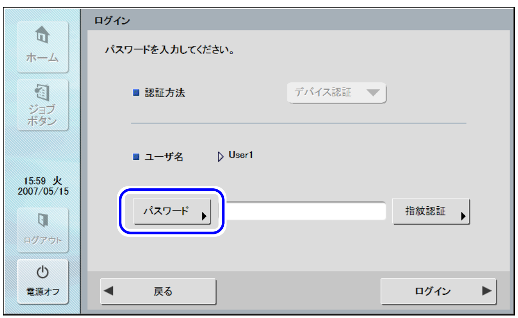
「リスト選択型」ログイン画面では以下の手順でログインします。

1. ログインするユーザを選択して［次へ］を押します。



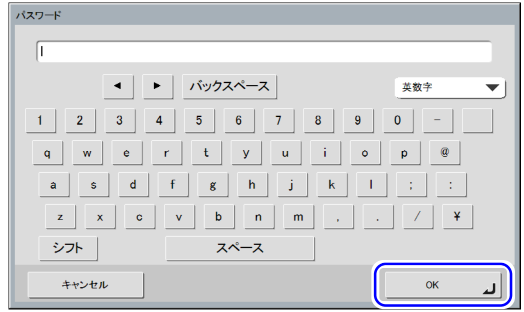
パスワード入力画面になります。

2. ［パスワード］を押します。



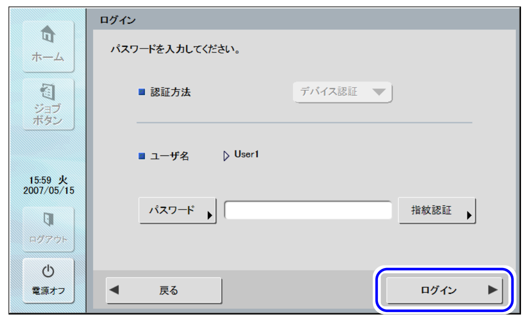
キーボード画面になります。

3. ［パスワード］を入力して［OK］を押します。



重要　「パスワード」は登録されている大文字、小文字を正確に入力しないとログインできません。

4. ［ログイン］を押して ScanFront にログインします。

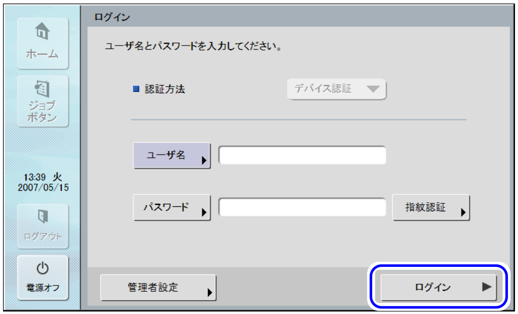


5. ホーム画面（またはジョブボタン画面）になります。

❑「文字入力型」ログイン画面

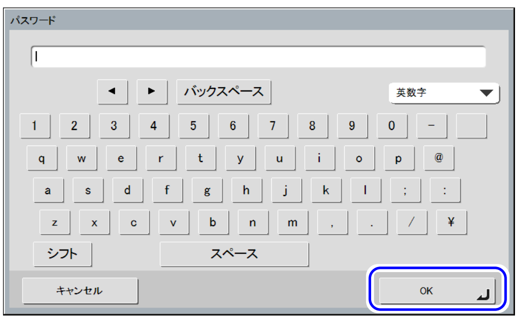
「文字入力型」ログイン画面では「ユーザ名」と「パスワード」を入力してログインします。

1.「ユーザ名」(「パスワード」) を押します。



キーボード画面になります。

2.「ユーザ名」(「パスワード」) を入力して［OK］を押します。

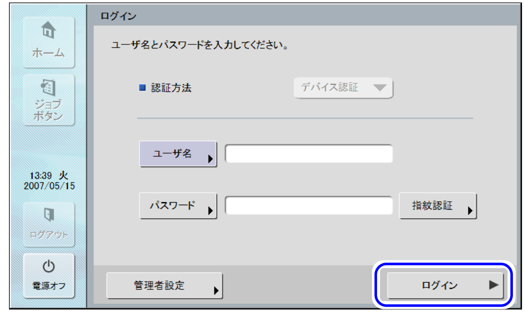


重要

・デバイス認証で入力する「ユーザ名」と「パスワード」は登録されている大文字、小文字を正確に入力しないとログインできません。

・サーバ認証で入力する「ユーザ名」と「パスワード」についてはドメインサーバの管理者にお問い合わせください。

3.［ログイン］を押して ScanFront にログインします。

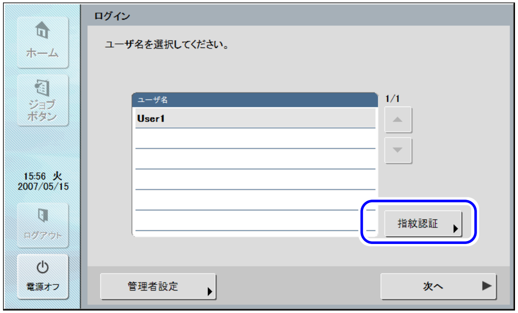


4. ホーム画面（またはジョブボタン画面）になります。

❏「指紋認証」（ScanFront 220P のみ）

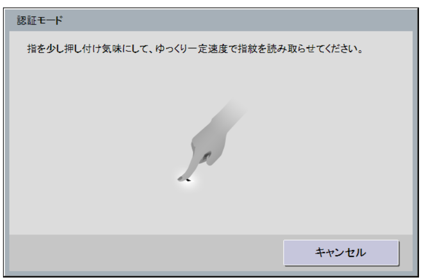
指紋認証によるログインは以下の手順で行います。指紋の登録については「指紋の登録」（→ P.6-10）を参照してください。

1.［指紋認証］を押します。



認証モード画面になります。

2. 指紋を登録した指で指紋認証を行います。



重要　指紋認証は、指を押し付け気味にして、ゆっくり一定速度で指紋を読み取らせてください。

3. 指紋が正しく認証されると、ホーム画面（またはジョブボタン画面）になります。

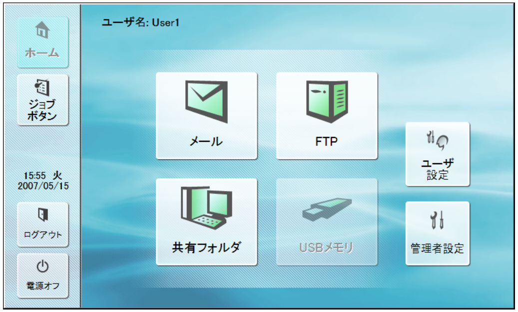
ヒント　指紋認証に失敗した場合はそのまま指紋認証をやり直してください。



4. ログイン後の画面について

ユーザがログインしたあとに表示される画面（「ホーム画面」または「ジョブボタン画面」）は、ユーザ設定の「デバイスのログイン後の画面」で設定した画面になります。（→ P.4-6、P.5-4）

❏ ホーム画面



宛先選択ボタン（メール、FTP、共有フォルダ、USB メモリ）

「アドレス選択」画面を開きます。（→ P.6-12「スキャンの手順について」）

ヒント　「USB メモリ」は、USB ポートに USB メモリを挿入すると有効になります。

「ユーザー設定」ボタン

ユーザパスワードの設定と指紋登録（ScanFront220Pのみ）を行います。（→ P.6-9「ユーザー設定画面」）

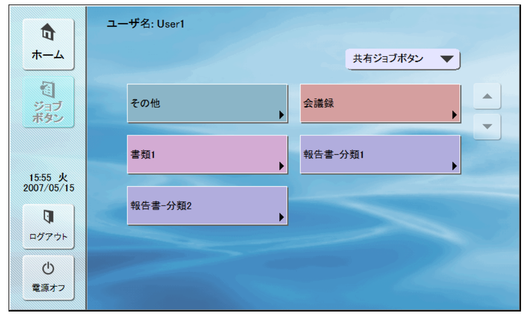
「管理者設定」ボタン

「管理者設定」画面を開きます。詳細については「管理者設定画面」（→ P.3-8）を参照してください。

重要　ホーム画面の使用が制限されているユーザーがログインしたときは、ホーム画面が使用できません。詳細については管理者にお問い合わせください。

❏ ジョブボタン画面

ジョブボタンを選択し、ジョブボタンに登録されている条件でスキャン、送信を実行します。（→ P.6-12「スキャンの手順について」）

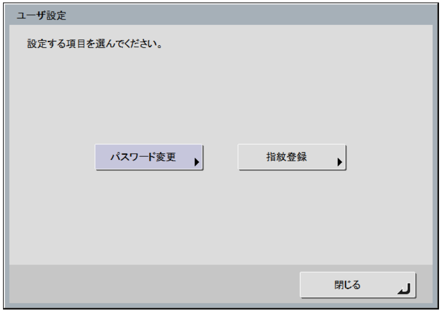


重要

- ジョブボタンでスキャンするときは、ジョブボタンを押す前に原稿をセットしてください。（→ P.2-5「原稿のセット」）
- ジョブボタンの登録、編集は、Web メニューで行います。
- ジョブボタンの編集ができないときは、管理者によりジョブボタンの編集が制限されています。詳細については管理者にお問い合わせください。

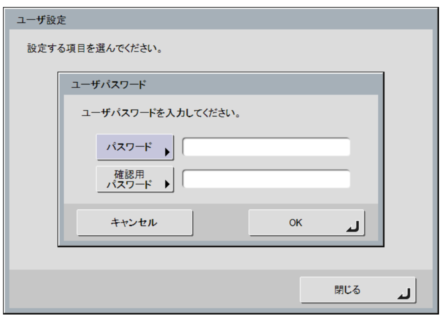
5. ユーザ設定画面

ユーザ設定画面では、ユーザパスワードの変更と、指紋の登録（ScanFront 220P のみ）を行います。



❑ パスワード変更

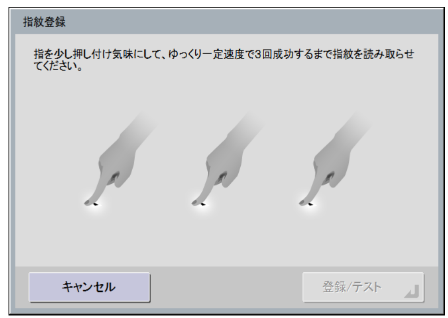
パスワード変更は、ユーザパスワードの新規登録または、Webメニューで登録したユーザパスワードの変更を行うためのものです。



ヒント　パスワードの変更に旧パスワードの入力は必要ありません。入力した新しいパスワードが登録されます。

❑ 指紋登録

指紋登録はScanFront 220Pをお使いの場合に有効です、指紋登録の詳細については次項「指紋の登録」を参照してください。

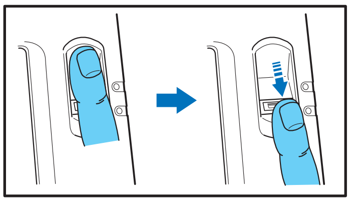


6. 指紋の登録（ScanFront 220P）

指紋認証は、デバイス認証でログインするユーザの指紋を登録し、ログイン時に指紋認証のみでログインするための機能です。指紋認証を使用する場合、「リスト型ログイン」画面のユーザの選択や「文字入力型」ログイン画面でのユーザ名とパスワードの入力が不要になります。指紋センサーの取り扱いについては第 2 章「指紋センサーについて」（→ P.2-9）を参照してください。

❑ 指紋の登録・認証について

- 指紋登録および認証は、以下の手順で行います。
  1. 指の第 1 関節をセンサーの位置に合わせ、指を指紋センサに押し付けます。
  2. 指を押し付け気味にして、ゆっくり一定速度で指紋を読み取らせてください。



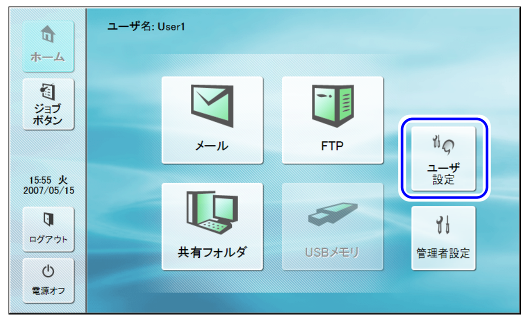
- 指紋認証は、指紋の固有情報を認証に利用するものです。指紋が磨耗している場合など指紋の特長が少ない指の場合、指紋認証機能が正常に機能しないことがあります。
- 指紋の登録には同じ指で 3 回の読み取りが必要です。
- 指紋の認証は、登録時と認証時の指紋の状態によって認証性能が異なり、以下のようなときは認証性能が低下します。
  - 指が濡れている / 汗をかいている
  - 指が汚れている
  - 汗や油で指紋の溝が埋まっている
  - 指が乾燥している（乾燥肌）
  - 傷や火傷などで指紋の一部が欠けている
  - 指紋が磨耗して薄くなっている
- 手を洗ったり、クリームを塗るなどして指紋の状態を変更することによって、認証性能が改善されることがあります。
- スライドの早さによっては正常に認証できないことがあります。メッセージに従ってスライドの早さを調整してください。
- 指紋認証は本人の認証、照合を保証するものではありません。

❑ 指紋の登録

指紋の登録はホーム画面にある「ユーザ設定」画面で行います。

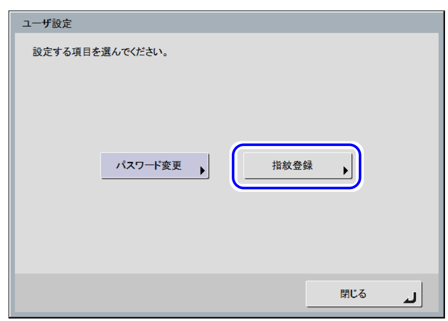
重要　ホーム画面が表示されないユーザは、管理者によってホーム画面の使用が制限されています。管理者に確認してください。

1.［ユーザ設定］を押します。



ユーザ設定画面になります。

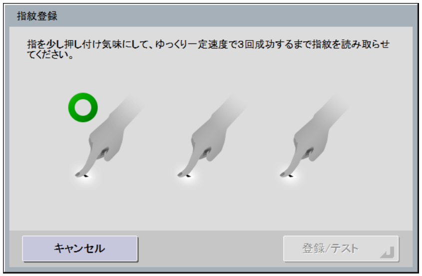
2.［指紋登録］を押します。



指紋登録画面になります。

3. **指紋の読み取りを行います。**

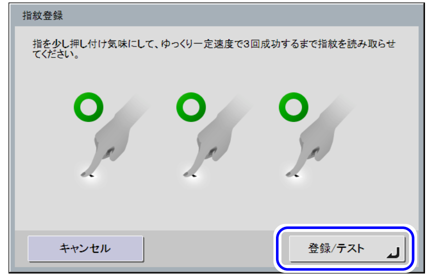
指紋の読み取りは同じ指で 3 回成功するまで行います。



重要

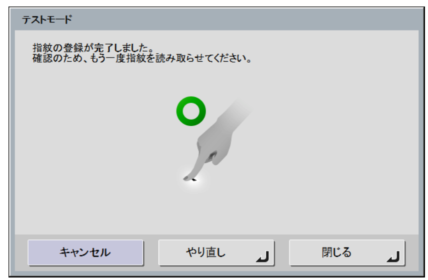
- 以下のメッセージが表示されたときは、指紋の読み取りエラーです。そのまま指紋の登録を続けてください。
  - 正しく読み取られませんでした。もう一度指紋を読みとらせてください。
  - 速度が速いようです。もう少しゆっくり指紋を読みとらせてください。
  - 速度が遅いようです。もう少し素早く指紋を読みとらせてください。
- 以下のメッセージが表示されたときは、指紋の登録を最初からやり直してください。
  - 指紋データが一致しませんでした。はじめから登録しなおしてください。
  - タイムアウトエラーです。はじめから登録しなおしてください。

4. **指紋の読み取りが 3 回成功したら［登録 / テスト］を押して登録した指紋の認証テストを行います。**



テストモード画面になります。

5. **登録した指紋の確認テストを行います。**



6. **［閉じる］を押して指紋登録を終了します。**

重要

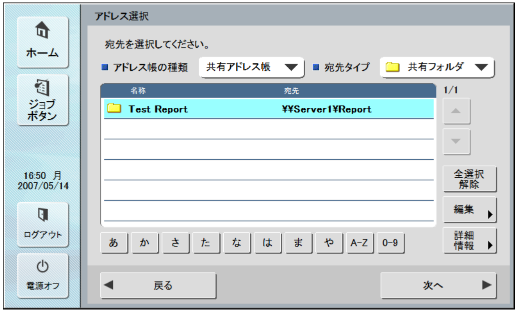
登録した指紋を変更するときは、指紋登録を最初からやり直します。

7. スキャンの手順について

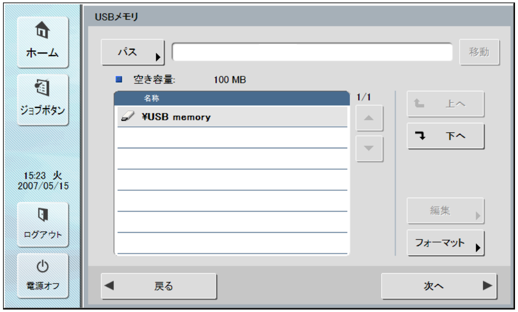
ScanFront のスキャンは、「ホーム画面」または「ジョブボタン画面」から行います。（→ P.6-8「ログイン後の画面について」）

❏ ホーム画面からのスキャン

宛先選択ボタン（メール、FTP、共有フォルダ）を押すとアドレス選択画面が表示され、送信する宛先を選択します。



宛先選択ボタンで **「USB メモリ」** を押したときは、［下へ］を押して USB メモリに保存するフォルダを指定します。

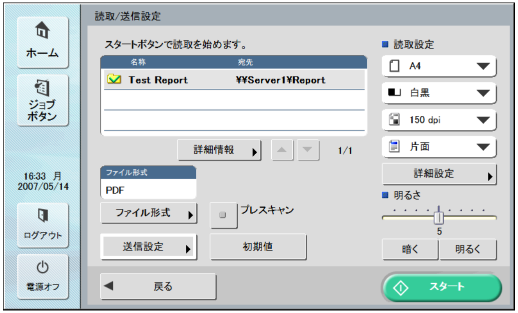


宛先を選択し、［次へ］を押すと「読取 / 送信設定」画面が表示され、読取条件を設定してからスキャンを行います。

❏ ジョブボタン画面からのスキャン

ジョブボタンを押すと、「読取/送信設定」画面が表示され、ジョブボタンに登録されている宛先と読取設定を確認してからスキャンを行います。

スキャンの手順については**手順 5** のスキャン条件の設定からお読みください。

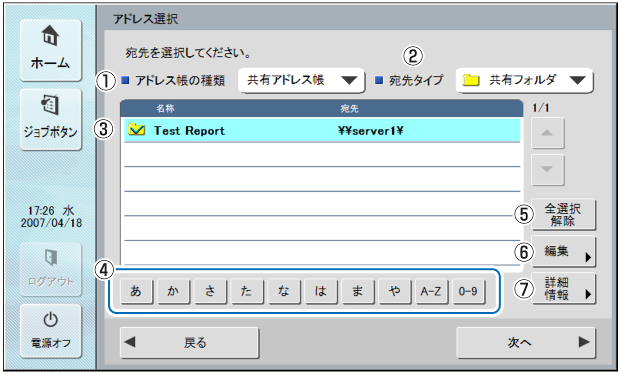


重 要

- 設定画面の表示やスキャン後に表示される画面についてはジョブボタンの設定によって変わります。設定から送信までの全体の流れについては「送信までの流れ」（→ P.6-2）を参照してください。
- ジョブボタンから USB メモリには保存できません。

❑ アドレス選択画面について

アドレス選択画面では、送信する宛先の選択と、宛先の登録を行います。



① **アドレス帳の種類**

アドレス帳の種類（共有アドレス帳、マイアドレス帳）を選択します。アドレス帳サーバの設定が有効になっているときは、［LDAP アドレス帳］が追加されます。

② **宛先タイプ**

宛先一覧に表示させる宛先のタイプ（メール、共有フォルダ、FTP、グループ）の選択と、選択されている宛先の表示を行います。

③ **宛先一覧**

登録されている宛先の表示と、送信する宛先の選択を行います。

ヒント

・宛先は、宛先のタイプによって以下のアイコンで表示されます。

: メール　: 共有フォルダ
: FTP　: グループ

・宛先を押すとアイコンにチェックマーク（ ）が付いて選択されます。選択されている宛先を再度押すと選択が解除されます。

・宛先の背景に色が付いて選択されていても、アイコンにチェックマークがなければ宛先として選択されません。

・メールとグループのアイコンは、押すごとに送信条件（To. CC. Bcc）が変わります。

: To　: CC.　: Bcc.　: 選択解除

④ **ジャンプキー**



宛先の件数が多く、宛先一覧に表示されていないアドレスを表示させるときに使用し、指定したキーワードで宛先を検索して表示します。

ヒント

ジャンプキーによる検索は、宛先の「ふりがな」で検索されます。

⑤ **［全選択解除］ボタン**

宛先の選択をすべて解除します。

⑥ **［編集］ボタン**

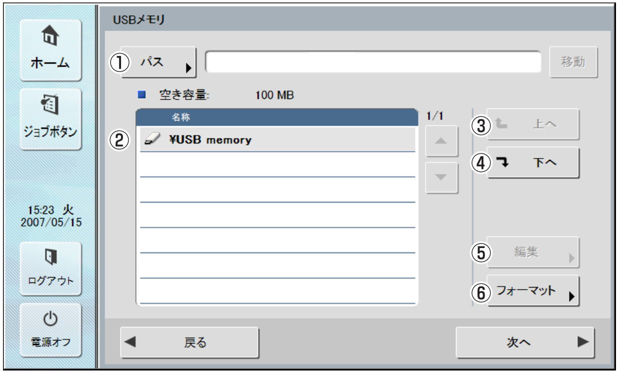
宛先の新規登録と編集を行います。

⑦ **［詳細情報］ボタン**

宛先の詳細情報を表示します。

❏ USB メモリ画面について

USB メモリ画面では、USB メモリに保存するフォルダを指定します。



① パス

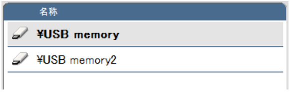
USB メモリのフォルダのパスを入力します。または、［下へ］を押してフォルダを選択します。

② USB メモリ表示

挿入されている USB メモリを表示します。

ヒント

・USB メモリを２本挿入したときは、最初に挿入した USB メモリを「USB memory」、後から挿入した USB メモリを「USB memory2」として認識します。



・USB メモリを差し換えたときは、［戻る］を押してホーム画面に戻り、USB メモリの情報を更新してください。

③［上へ］ボタン

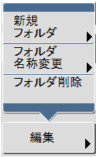
USB メモリの下位フォルダが選択されているとき、上位フォルダに移動します。

④［下へ］ボタン

USB メモリの下位フォルダに移動します。

⑤［編集］ボタン

フォルダの新規登録、編集を行います。



⑥［フォーマット］ボタン

USB メモリをフォーマットします。

❏ スキャン

スキャンの手順について説明します。

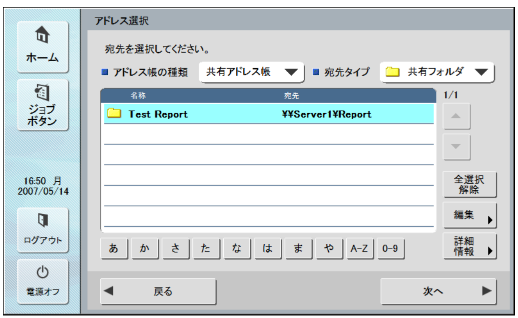
USB メモリに保存する場合、手順２～手順４では USB メモリに保存するフォルダの指定を行います。（→ P.6-14「USB メモリ画面について」）

1. **宛先を選択します。**

宛先ボタンを押して宛先を選択します。



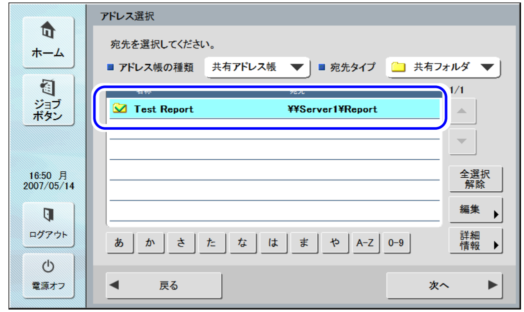
「アドレス選択」画面が表示されます。



2. **「アドレス帳の種類」と「宛先タイプ」で送信する宛先を表示します。**

3. **表示されている宛先を押して選択します。**

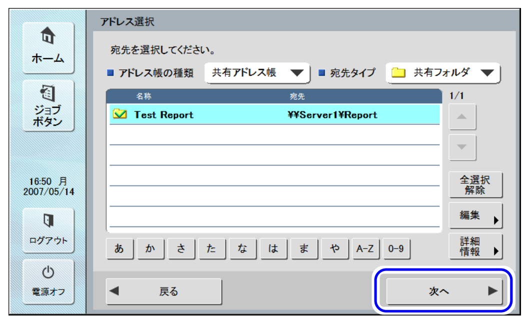
選択した宛先のアイコンにチェックマーク（ ）が付きます。選択されている宛先を押すと選択が解除されます。



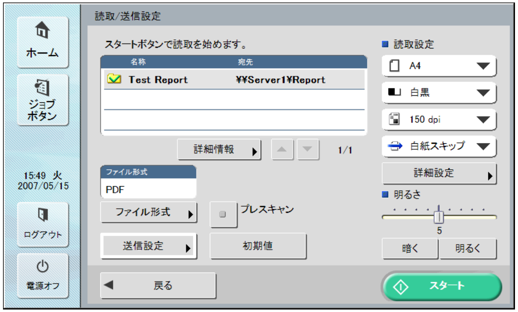
重要　宛先の背景に色が付いて選択されていても、チェックマークがなければ宛先として選択されていません。

4. **選択したアドレスにチェックマークがついていることを確認し、［次へ］を押します。**

ヒント　タイプの異なる宛先を選択しているときは、「宛先タイプ」の［選択中の宛先］で選択した宛先が確認できます。



「読取 / 送信設定」画面が表示されます。



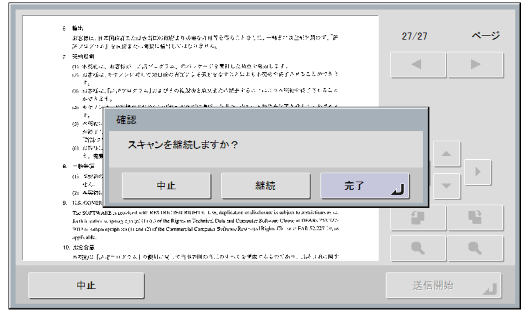
5. **スキャン条件を設定します。**（→ P.6-22「読取 / 送信設定」）

重要 ジョブボタンでスキャンする場合、以降の手順は、ジョブボタンの設定によって以下のようになります。詳細については「ジョブボタンの新規登録」（→ P.5-14）を参照してください。

- **「ジョブボタンが選択された時の動作」が［読取設定画面をスキップする］**に設定されている場合、ジョブボタンを押すと手順４の「読取 / 送信設定」画面を表示しないでスキャンが開始されます。
- **「スキャン後直ちに送信する」が［ON］**に設定されている場合、手順７のスキャン継続の確認画面を表示しないでスキャンを終了し、手順 10 の宛先の確認画面になります。
- **「送信前にの宛先を確認する」が［OFF］**に設定されている場合、手順10の宛先の確認画面を表示しないで画像を送信、終了します。

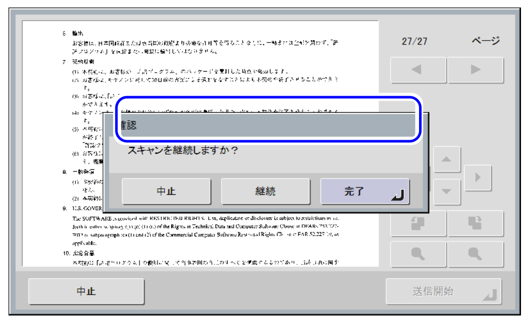
6. **［スタート］を押してスキャンを開始します。**

原稿がなくなるとスキャンを終了します。



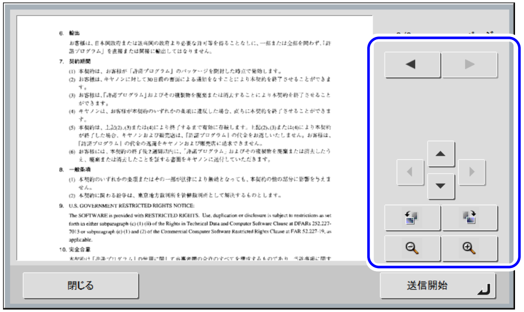
重要
- 読取 / 送信設定画面の「送信設定」の設定で、「スキャン後直ちに送信する」が［ON］に設定されている場合、スキャン継続の確認画面を表示しないでスキャンを終了し、手順 10 の宛先の確認画面に進みます。
- 確認画面を表示させたまま放置して ScanFront が「ローパワーモード」に移行すると、それまでにスキャンしたデータがすべて破棄されます。（→ P.6-3）

7. **原稿を確認して次へ進みます。**



- ［完了］を押すと、送信画面に移ります。
- ［継続］を押すと、スキャンを再開します。
- ［中止］を押すと、スキャンした画像を破棄して「読取 / 送信設定」画面に戻ります。

8. スキャンした画像を確認します。



：次ページの画像を表示します。

：前ページの画像を表示します。

：拡大表示させた表示画像を移動します。

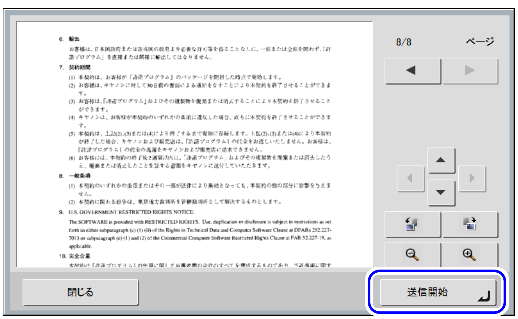
：画像を反時計方向に 90 度回転します。

：画像を時計方向に 90 度回転します。

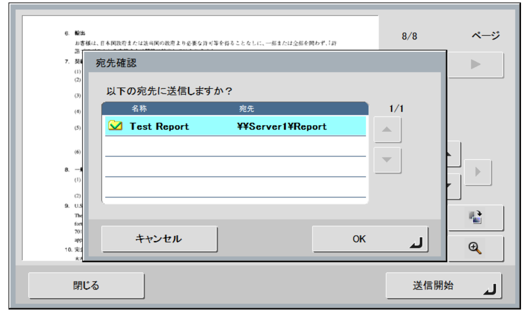
：画像を拡大します。

：画像を縮小します。

9. ［送信開始］を押します。

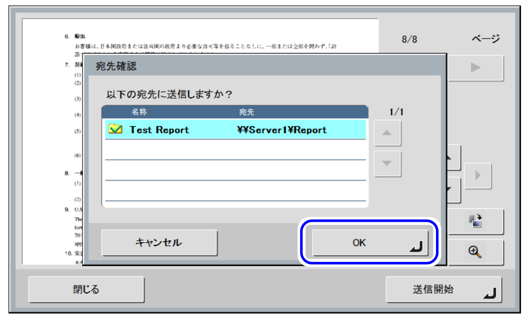


アドレスの確認メッセージが表示されます。



重要　読取 / 送信設定画面の「送信設定」の設定で、「送信前に宛先を確認する」が［オフ］に設定されている場合、宛先の確認画面を表示しないで画像を送信し、終了します。

10. ［OK］を押してスキャンした画像を送信します。



重要　送信エラーが表示されたときは、宛先の設定および送信先を確認してからやり直してください。

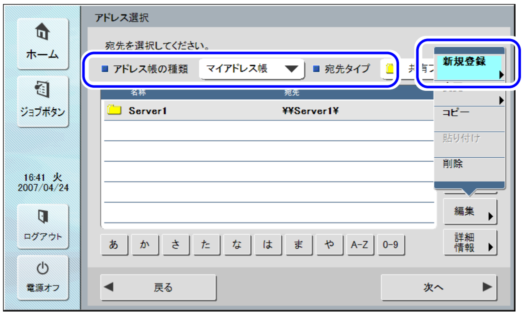
11. 読取 / 送信設定画面の「送信設定」の設定で、「送信後の画面」で設定された画面に戻ります。

8. 宛先の登録と編集

送信する宛先がアドレス帳に登録されていないときや、登録されている宛先の情報が更新されていないときは、下の手順でアドレス帳の宛先の新規登録、変更を行います。

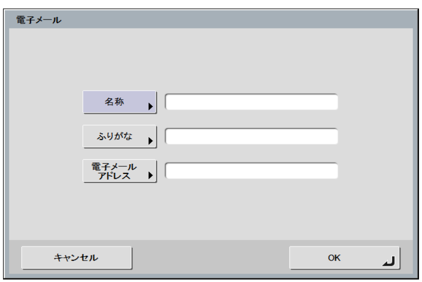
❑ 宛先の新規登録

1. 「アドレス帳の種類」と「宛先タイプ」を選択し、[編集] - [新規登録] を押します。



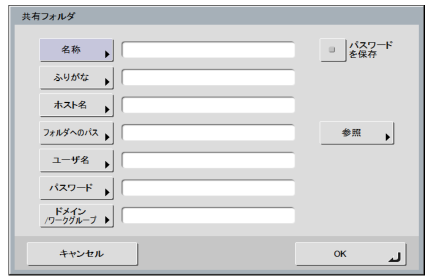
2. 宛先タイプの設定条件に合わせて登録を行います。

「メール」登録画面



- **名称**
  アドレス帳に表示する名称を入力します。
- **ふりがな**
  アドレス帳の表示をソートおよびジャンプキーで検索するためのふりがなを入力します。
- **電子メールアドレス**
  電子メールで送信するときの送信元のアドレスを入力します。

「共有フォルダ」登録画面



- **名称**
  アドレス帳に表示する名称を入力します。
- **ふりがな**
  アドレス帳の表示をソートおよびジャンプキーで検索するためのふりがなを入力します。
- **ホスト名**
  共有フォルダを公開しているコンピュータ名を入力します。
- **フォルダへのパス**
  共有フォルダの名称と登録するサブフォルダのパスを入力します。

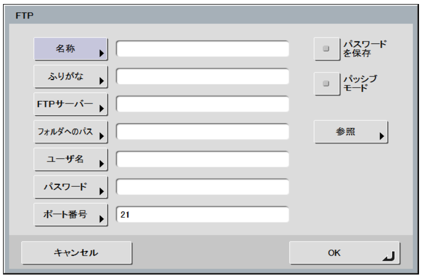
ヒント

サブフォルダのパスが不明なときは以下の手順でサブフォルダを指定します。

1. 「ホスト名」と「ユーザ名」、「パスワード」、「ドメイン」を入力してから [参照] ボタンをクリックし、共有フォルダを公開しているコンピュータにアクセスします。
2. 表示されたフォルダから任意のサブフォルダを指定します。
3. 選択したフォルダの直下の階層に移動するときは [下へ] を押してフォルダを移動します。新しいフォルダを作成するときは、[編集] - [新規フォルダ] で新しいフォルダを作成します。

- **ユーザ名、パスワード**
  共有フォルダに書き込み権限のあるアカウントのユーザ名とパスワードを入力します。
- **ドメイン / ワークグループ**
  共有フォルダを公開しているコンピュータがドメインに参加している場合、ドメインを入力します。
- **パスワード保存**
  入力したパスワードを保存します。

「FTP」登録画面



- **名称**
  アドレス帳に表示する名称を入力します。
- **ふりがな**
  アドレス帳の表示をソートおよびジャンプキーで検索するためのふりがなを入力します。
- **FTP サーバ**
  FTP サーバのアドレスを入力します。
- **フォルダへのパス**
  FTPサーバのサブフォルダを指定するときにサブフォルダのパスを入力します。

ヒント　サブフォルダのパスが不明なときは以下の手順でサブフォルダを指定します。

1. 「FTP サーバ」と「ユーザ名」、「パスワード」を入力してから［参照］ボタンをクリックして FTP サーバにログインします。
2. 表示されたフォルダの階層から任意のサブフォルダを指定して［OK］をクリックします。

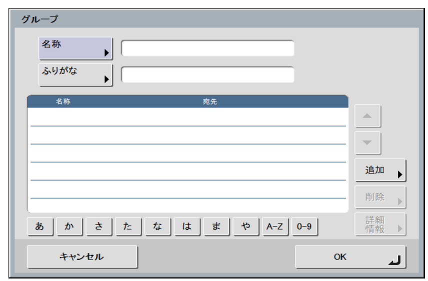
- **ユーザ名 / パスワード**
  FTPサーバにログインするためのユーザ名とパスワードを入力します。

重要　ユーザ名とパスワードは、FTP サーバに書き込み権限のあるアカウントのユーザ名とパスワードを入力してください。

- **ポート番号**
  ポート番号を入力します。標準のポート番号は 21 です。
- **パスワード保存**
  入力したパスワードを保存します。
- **パッシブモード**
  FTP サーバへの送信をパッシブモードで行います。

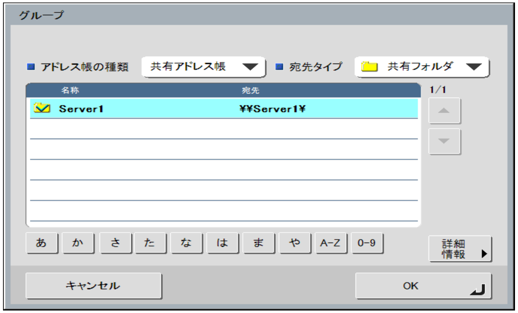
重要　パッシブモードはFTPサーバとの通信が正常できないときに使用します。但し、ネットワークの状態によっては通信できない場合もあります。

「グループ」登録画面



- **名称**
  アドレス帳に表示する名称を入力します。
- **ふりがな**
  アドレス帳の表示をソートおよびジャンプキーで検索するためのふりがなを入力します。

- ［追加］ボタン
  「アドレス帳の種類」と「宛先タイプ」からグループに登録する宛先を選択します。選択した宛先がリストに表示されます。

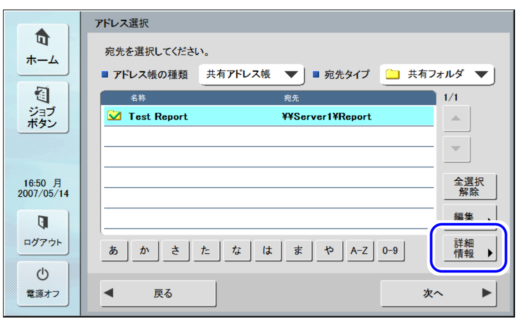


重要
- 共有フォルダをグループに追加する際、アクセス権の異なる共有フォルダを 1 つのグループに複数追加しないでください。
- 共有サーバなど、アクセス権の異なる複数の共有フォルダにグループで同時に送信した場合、送信エラーになることがあります。

❏ 宛先の変更

宛先に登録されている送信先の情報が間違っている / 変更されていることによって送信エラーになるときは、宛先の変更を行います。

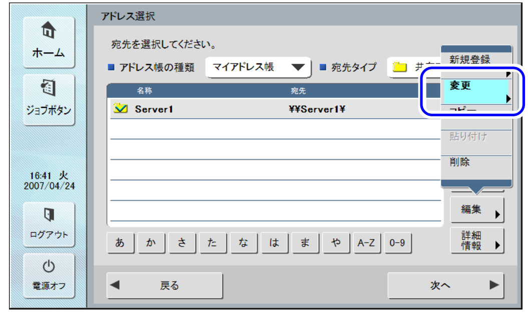
1. 変更する宛先を選択して［詳細情報］を押します。



宛先の詳細情報が表示されます。

2. 選択した宛先の［詳細情報］を確認します。

3. ［編集］-［変更］を押します。



宛先の編集画面が表示されます。

4. 宛先を編集します。

ヒント
編集項目については「宛先の新規登録」（→ P.6-18）を参照してください。

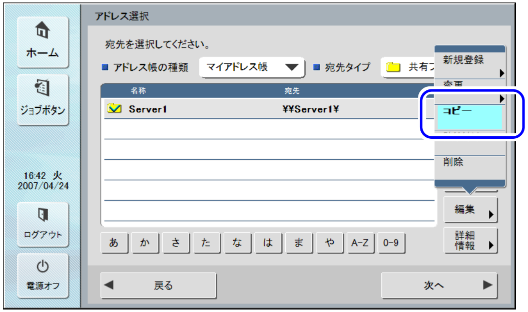
❏ 宛先のコピー

登録されている宛先を、コピーして使用します。

宛先のコピーは、「マイアドレス帳」と「共有アドレス帳」で交互にコピーすることができます。

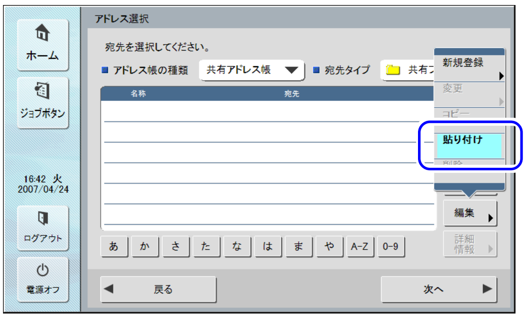
1. コピーする宛先を選択します。

2. 宛先を選択し、［編集］-［コピー］を押します。

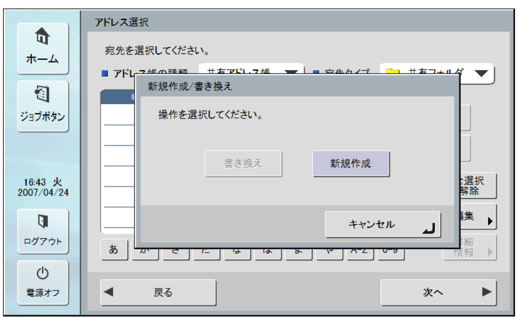


選択した宛先がメモリーにコピーされます。

3. コピー先のアドレス帳の種類を選択し、[編集] - [貼り付け] を押します。



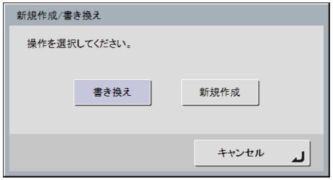
確認のメッセージが表示されます。



4. [新規作成] を押して、宛先を貼り付けます。

ヒント

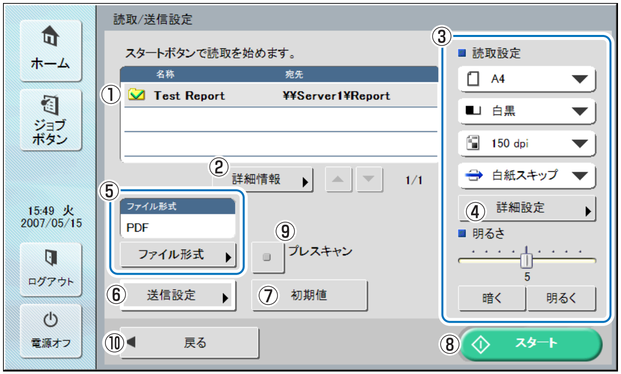
貼り付けるアドレス帳に同名の宛先がある場合、以下のメッセージが表示されます。



・「新規作成」を選択すると、同名の宛先がアドレス帳に作成されます。
・「書き換え」を選択すると、同名の宛先を書き換えます。

9. 読取 / 送信設定

ScanFront のスキャン設定および送信設定について説明します。



① **宛先表示**
アドレス選択画面で選択または、ジョブボタンに登録されている宛先を表示します。

② **詳細情報**
背景に色の付いている宛先の詳細情報を表示します。

③ **スキャン設定**
スキャン条件を設定します。（→ P.6-23「スキャン設定」）

④ **詳細設定**
スキャン条件の詳細設定を行います。（→ P.6-23「詳細設定」）

⑤ **ファイル形式**
表示されているファイル形式を確認し、［ファイル形式］ボタンを押して設定を行います。（→ P.6-26「ファイル形式」）

⑥ **送信設定**
送信条件を設定します。（→ P.6-28「送信設定」）

⑦ **［初期値］ボタン**
変更した内容を ScanFront の初期値に戻します。

重要
ジョブボタンから開いた「読取/送信設定」画面で［初期値］ボタンを押した場合、設定値は ScanFront の初期値になりジョブボタンに登録されている設定値には戻りません。

⑧ **［スタート］ボタン**
スキャンを開始します。

⑨ **［プレスキャン］ボタン**
スキャンを開始したとき、原稿を1枚スキャンして中断します。表示された 1 ページの画像で明るさとコントラストを確認 / 調整してからスキャンを続行します。

ヒント
- スキャンを開始すると原稿を 1 枚スキャンしてスキャンを中断し、1 枚目の画像を表示します。
- 表示されている画像で明るさとコントラストを確認・調整します。「スキャン継続」を押すと調整した明るさとコントラストで 1 枚目の画像が確定してスキャンを続行します。

⑩ **［戻る］ボタン**
前画面に戻ります。

❑ スキャン設定

スキャン設定にはスキャンの基本条件（用紙サイズ、モード、解像度、読み取り面、明るさ）の設定と、詳細設定があります。

基本条件設定

用紙サイズ　モード　解像度　読み取り面



用紙サイズ

スキャンする原稿のサイズを選択します。

ヒント　［自動サイズ］は、スキャンした原稿のサイズを自動検知してスキャンします。

モード

スキャンするモードを選択します。

重要　モードは、⑤ファイル形式の設定（→ P.6-26）の設定によって選択できるモードが限定されます。

TIFF形式　JPEG形式　PDF形式



解像度

スキャンする解像度を選択します。

読み取り面

原稿をスキャンする面を選択します。

ヒント
- ［白紙スキップ］は、原稿の両面をスキャンして白紙と判断した画像の保存をスキップします。
- ［白紙スキップ］を選択すると詳細設定の「白紙スキップ設定」が有効になります。（→ P.6-24「白紙スキップの感度」）

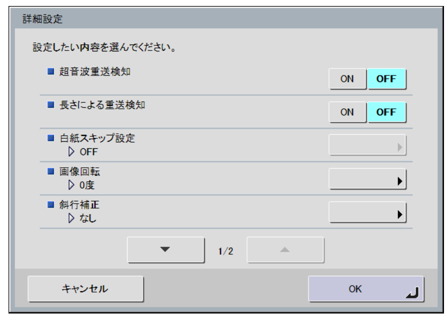
明るさ

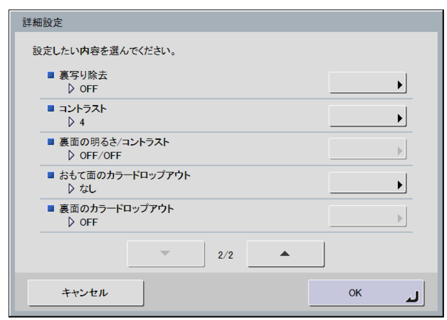
原稿の濃度に合わせて明るさを調整します。

ヒント　原稿の表裏の濃淡に差がある原稿を両面スキャンする場合、詳細設定により、表面と裏面の明るさの設定を変えてスキャンすることができます。

詳細設定

［詳細設定］ボタンを押すと詳細設定画面が開きます。





超音波重送検知（ScanFront 220P のみ）

重なって搬送された原稿の隙間を超音波によって検出し、重送と判断したときに搬送を停止します。

重要

- 原稿の重なりが 50mm 以上の重送に対して有効です。重なり量の短い重送に対しては、重送検知は機能しません。
- ScanFront 220 の場合、超音波重送検知の設定は［OFF］になります。

長さによる重送検知

原稿の長さによって重送を判断し、重送と判断したときに搬送を停止します。

重要

- 1 枚目の原稿の長さを基準とし、35mm 以上長い / 短い原稿を検知したときに重送として判断します。
- 用紙の長さの異なる原稿が混在しているときは、[長さによる重送検知をオフにしてください。

白紙スキップの感度



読み取り面の設定で［白紙スキップ］を選択すると有効になり白紙をスキップする感度を調節します。

ヒント

- 白紙スキップの初期値は［90］に設定されています。
- ［スキップしやすい］を押して設定値を低くすると、文字のある原稿もスキップされるようになります。
- ［スキップしにくい］を押して設定値を高くすると、白紙原稿もスキップされなくなります。

画像回転

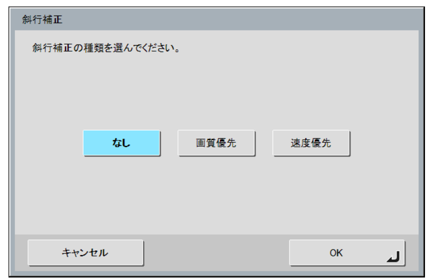


スキャンした画像を指定した角度に回転させます。

ヒント

［自動］を選択したときは、原稿内の文字の向きを検知して、文字の向きが正しくなるように画像を回転させます。

斜行補正



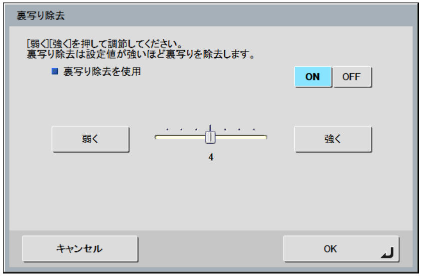
傾いた原稿の搬送をスキャンした画像で検知して、画像がまっすぐになるように補正します。

- 画質優先
  斜行補正で劣化した画像に画像処理を施して画質の劣化を抑えます。
- 速度優先
  斜行補正により画像が若干劣化します。

重要

［画質優先］を選択すると、補正後の画質が向上します。但し、処理速度が低下するため、大量にスキャンするときは［速度優先］をお使いください。

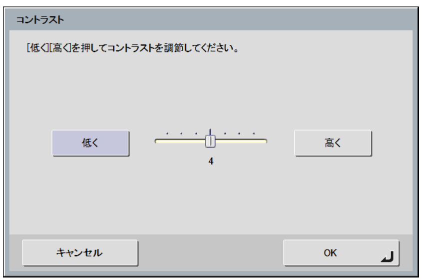
裏写り除去



裏面に文字などがある薄い原稿をスキャンするときなど、裏面の模様が画像に写り込むようなときに、写り込んだ裏面の模様の画像を除去します。

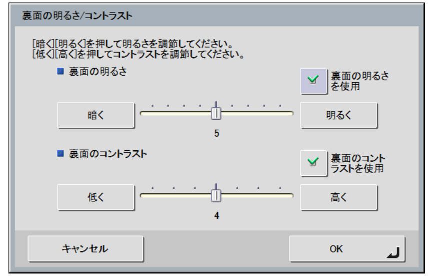
ヒント　裏写り除去を使用するときは、原稿の状態に合わせて裏写り除去のレベルを調整します。

コントラスト



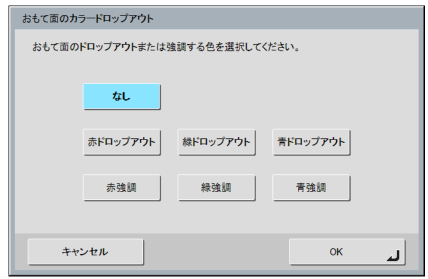
スキャンする画像のコントラストを調整します。

裏面の明るさ / コントラスト



両面スキャンのときに有効になり、原稿の表裏の濃淡に差があるときに使用します。[裏面の明るさ（コントラスト）を使用］をチェックすると、原稿の表裏で明るさとコントラストの設定を変えることができます。

おもて面（裏面）のカラードロップアウト



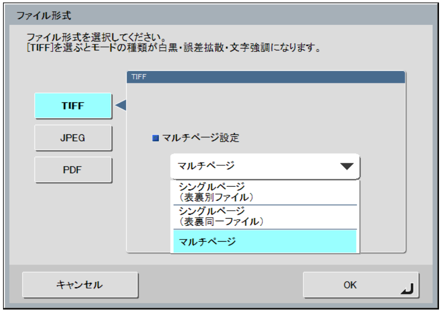
カラードロップアウトには、赤色、青色、緑色の指定した色を読み飛ばす「ドロップアウト」と、指定した色を強調する「色強調」の機能があり、おもて面と裏面でそれぞれ設定を行います。

重要　カラードロップアウトの設定はモードの設定が［カラー］のときは無効です。

❏ ファイル形式

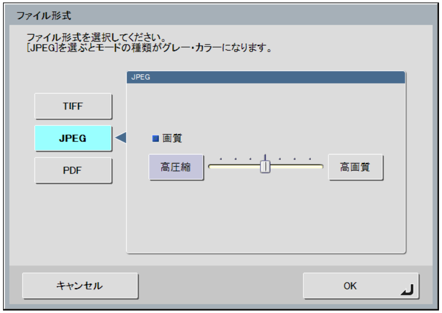
ファイル形式は、TIFF、JPEG、PDF の３種類のファイル形式から選択でき、ファイル形式の設定によってスキャンできるモードが限定されます。（→ P.6-23「モード」）

TIFF 形式



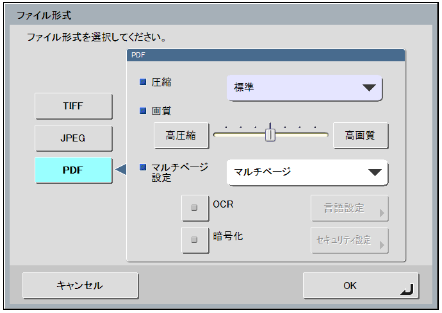
複数ページスキャンした画像ファイルを［シングルページ（表裏別ファイル)］、[シングルページ（表裏同一ファイル)］、[マルチページ（複数ページ同一ファイル)］のどの形式で保存するか選択します。

JPEG 形式



JPEG 圧縮の圧縮率を選択します。

PDF 形式



PDF 形式で保存するための以下の設定を行います。

・**圧縮**
　圧縮の方法を選択します。

・**画質**
　指定した圧縮方法に対する画質を調整します。

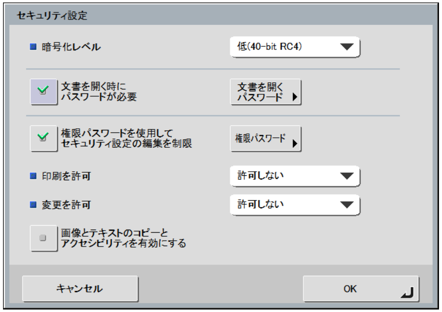
・**マルチページ設定**
　複数ページスキャンした画像ファイルを［シングルページ（表裏別ファイル)］、[シングルページ（表裏同一ファイル)］、[マルチページ（複数ページ同一ファイル)］のどの形式で保存するか選択します。

・**OCR（文字認識）**
　OCRをチェックすると、スキャンした原稿内の文字の部分が文字認識され、テキスト情報として PDF ファイルに埋め込まれます。
　［言語設定］ボタンは、文字認識を行う言語を選択します。

・**暗号化（セキュリティ）**
　暗号化をチェックして［セキュリティ設定］ボタンを押すと、「セキュリティ設定」画面になり、PDF ファイルにセキュリティを設定できます。詳細については「PDF ファイルのセキュリティ設定」(→ P.6-27)を参照してください。

❑ PDF ファイルのセキュリティ設定

セキュリティ設定では、暗号化とパスワードにより PDF ファイルにセキュリティを施します。



暗号化レベル

暗号化レベルには、高（128-bit RC4）レベルと低（40-bit RC4）レベルの設定があります。

重要 暗号化は、高（128-bit RC4）レベルでの設定を推奨します。低（40-bit RC4）レベルではセキュリティレベルが低下します。

文書を開く時にパスワードが必要

文書の閲覧をパスワードで制限します。

重要 パスワードを忘れると文書が開けなくなります。パスワードを設定したときは、忘れないように注意してください。

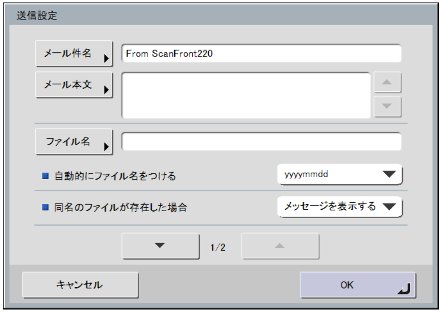
権限パスワードを使用してセキュリティ設定の編集を制限

以下の設定を権限パスワードで制限します。

- **印刷を許可**
  プリンタによる PDF ファイルの印刷を許可します。
- **変更を許可**
  ページの追加や削除など、PDF ファイルの編集を許可します。
- **画像とテキストのコピーとアクセシビリティを有効にする**
  OCRにより埋め込まれたテキスト情報のコピーや、音声ソフトによる PDF ファイルの読み上げを有効にします。

重要
- PDF ファイルの権限を制限した場合、パスワードで保護することを推奨します。
- パスワードで保護された PDF ファイルは、Adobe Acrobat などPDFファイルを編集することのできるアプリケーションで権限の変更やパスワードを解除することができます。

❏ 送信設定



メール設定（メール件名、メール本文）

メールで送信する場合の件名と、メールの本文を設定します。

ファイル名

送信する画像ファイルのファイル名を英数字（A-Z, a-z, 0-9）で設定します。

自動的にファイル名をつける

指定したファイル名の後に日付けと時間を表す17桁のファイル名を付加します。

例) 2007 年 5 月 14 日 15 時 40 分 30 秒の場合
yyyyMMdd：ファイル名+20070514154030123
MMddyyyy：ファイル名+05142007154030123
ddMMyyyy：ファイル名+14052007154030123

＊末尾の 3 桁は、ミリ秒を表します。

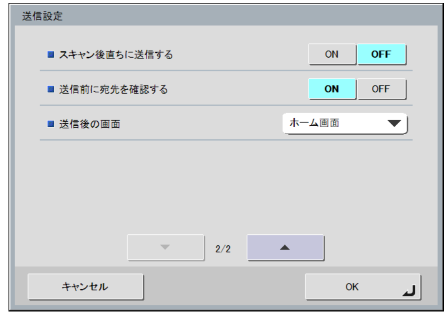
重要

- 「ファイル名」と「自動的にファイル名をつける」は必ずどちらかを設定してください。ファイル名を入力しないで「自動的にファイル名をつける」を [なし] に設定した場合メッセージが表示されます。
- TIFF形式の「シングルページ」およびJPEG形式を選択した場合、ファイル名の末尾に「0000」から始まる４桁の連番が自動で付加されます。

同名のファイル名が存在した場合

送信先に同名のファイルが存在したときの処理方法を設定します。

・メッセージを表示する
　ファイルの上書きを確認するメッセージを表示します。
・処理を中断する
　送信を中止します。
・上書きする
　送信先にあるファイルに上書きします。



スキャン後直ちに送信する

スキャンが終了したら画像の確認を行わないで画像を送信します。

送信前に宛先を確認する

スキャンが終了し、画像を送信する前に宛先の確認を行います。

送信後の画面

画像を送信後に表示する画面を選択します。

・ホーム画面（ジョブボタン画面）
　画像を送信後、ホーム画面（ジョブボタン画面）に戻ります。

重要

- ホーム画面（ジョブボタン画面）の設定は、Web メニューによるユーザ設定の「デバイスログイン後の画面」の設定が適用されます。
- 管理者によりホーム画面の使用が制限されているユーザは、「ジョブボタン画面」になります。

・ログアウト
　画像を送信後、ログアウトします。
・送信終了後の画面を選択する
　画像を送信後、画面を選択するダイアログボックスを表示します。

ヒント

ユーザを登録しないで使用する場合、[ログアウト] は表示されません。

第７章　メンテナンス

1. 日常のお手入れ

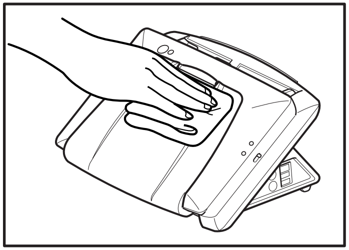
読み取り性能を維持するために、以下のような日常の清掃を行ってください。

注意

- **本機を清掃する際は、水や中性洗剤を直接スプレーしないでください。光源などの精密機器が破損する恐れがあります。**
- **指紋センサーは、乾いた布で汚れを拭きとってください。水などを含ませた布を使用した場合、水分が本機内に浸透して本機の故障の原因になることがあります。**
- **タッチパネルの清掃には、シンナーやアルコールなどの有機溶剤はけっして使用しないでください。タッチパネルが変形、変色したり溶解する恐れがあり、故障の原因になります。**

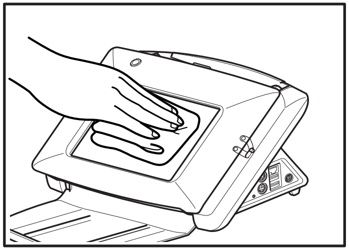
❏ 本体の清掃

本体表面は、水を染み込ませ固くしぼった布で汚れを落としたあと、きれいな乾いた布で拭きます。



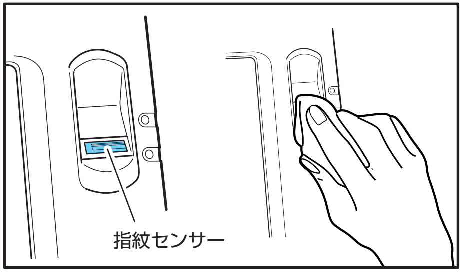
❏ タッチパネルの清掃

タッチパネルの清掃は、柔らかい乾いた布でパネルの表面に圧力を加えないように軽く拭いてください。



❏ 指紋センサーの清掃（ScanFront 220P）

指紋センサーは、柔らかい乾いた布で汚れを拭きとってください。



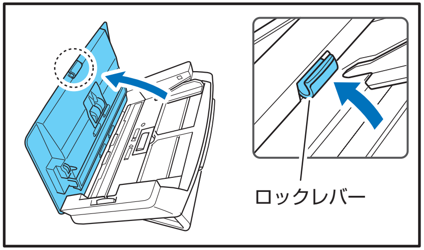
重要

指紋認証によって指で触れる部分が特に汚れやすくなります。また、指紋センサーの汚れが指紋認証のエラーの原因になります。指紋センサーおよびセンサーの周辺は、汚れの程度に関わらず、定期的に清掃するようにしてください。

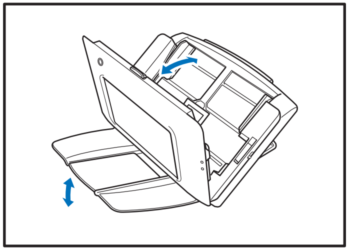
❑ 読み取りガラスとローラーの清掃

スキャンした画像にすじが入ったり、スキャンした原稿が汚れていたりする場合には、本体内部にある読み取りガラスやローラーが汚れている可能性があります。以下の手順にしたがって定期的に清掃をおこなってください。

1. ロックレバーを手前に引いて、パネルユニットを止まるところまで開きます。

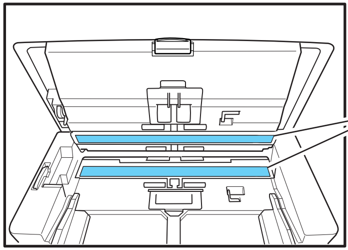


注意　パネルユニットの開閉に連動して排紙トレイが上下します。パネルユニットを開くときは、排紙トレイを押さえないでください。



2. ブロアなどを使って、本体内部にたまったほこりや 紙粉を取り除きます。

3. きれいな乾いた布で読み取りガラスの汚れを拭き取ります。

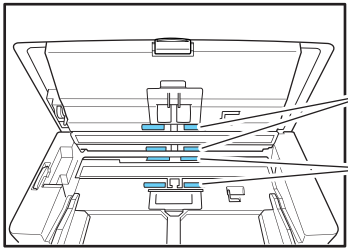


ヒント　読み取りガラスは表面用と裏面用に二つあります、両方ともきれいに拭いてください。

注意　水や中性洗剤を直接スプレーしないでください。光源などの精密機器が破損する恐れがあります。

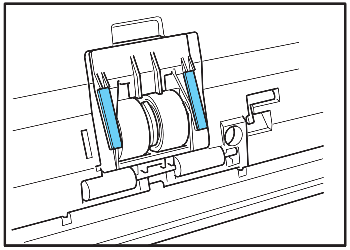
重要　読み取りガラスにキズがあるとスキャンした画像にすじが入ったり、搬送エラーの原因になります。読み取りガラスにキズがあるようなときは、お買い求めの販売店にご相談ください。

4. 水を含ませて固くしぼった布で搬送ローラーの汚れを拭き取ります。



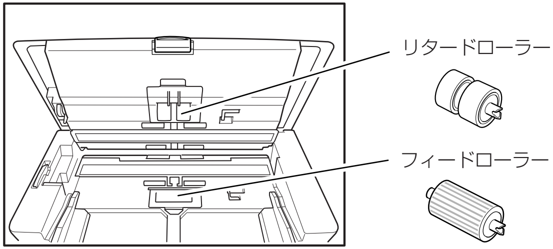
重要　パネルユニット側のローラーは回転させながら汚れを拭き取り、反対側のローラーは無理に回転させないで見えている部分の汚れを拭き取ってください。ローラーを無理に回転させると搬送エラーの原因になることがあります。

5. 水を含ませて固くしぼった布で原稿押えガイドの汚れを拭き取ります。



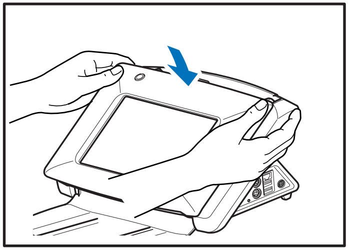
5. リタードローラーとフィードローラー を取り外して汚れを拭き取ります。

→ P.7-5「リタードローラーの清掃」
→ P.7-6「フィードローラーの清掃」

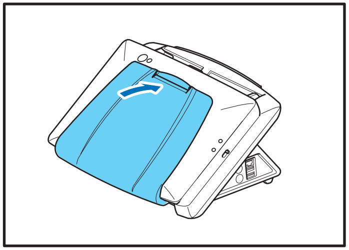


重要　リタードローラとフィードローラは、本体から取り外して清掃し、清掃が終わったら本体に戻してください。

6. パネルユニットをゆっくり閉じます。そして、ユニットの両側を押し、カチッと音がしてロックされたことを確認します。



7. 排紙トレイを静かに閉じます。

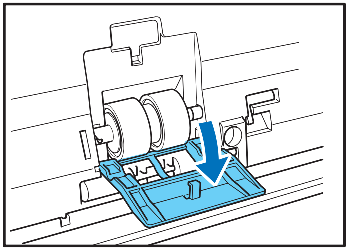


❑ リタードローラーの清掃

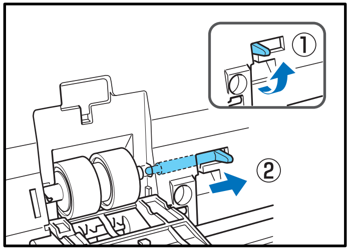
リタードローラーの清掃および交換の際は、以降の手順にしたがってローラーの取り外し、取り付けを行ってください。

注意　リタードローラーの取り外し、取り付けを行うときはには、ローラーに無理な力を加えないでください。ローラーの変型による搬送エラーの原因になります。

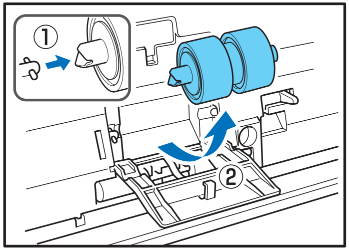
1. ローラーカバーを開きます。



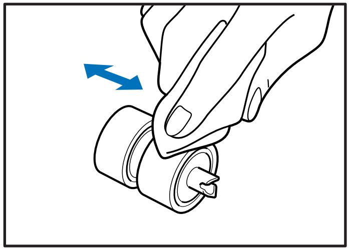
2. ローラー固定レバーを起こし（①）、矢印方向へスライドさせます（②）。



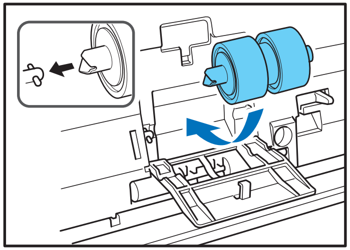
3. リタードローラーを矢印方向に寄せて軸から離し（①）、取り出します（②）。



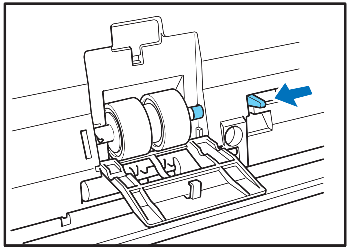
4. 水を含ませて固くしぼった布で、取り外したローラーの汚れを拭きとります。



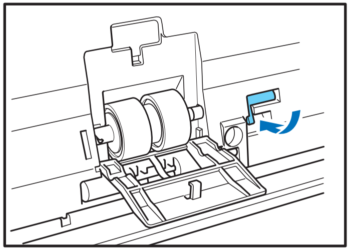
5. ローラーカバー内部のくぼみにリタードローラーをセットし、ローラの切り欠き部を本体側の軸に合わせます。



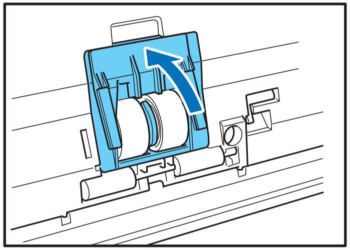
6. ローラー固定レバーを矢印方向にスライドさせ、リタードローラーの穴に、はめ込みます。



7. レバーを倒してリタードローラーの軸を固定します。



8. ローラーカバーを閉めます。カチッと音がして確実に元の位置に戻ったことを確認します。

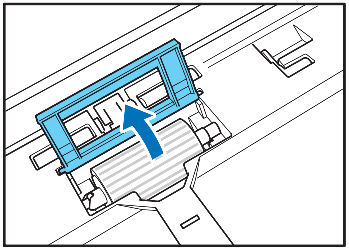


❑ フィードローラーの清掃

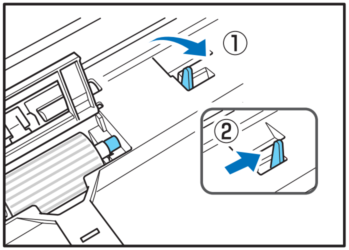
フィードローラーの清掃および交換の際は、以降の手順にしたがってローラーの取り外し、取り付けを行ってください。

注意　フィードローラーの取り外し、取り付けを行うときはには、ローラーに無理な力を加えないでください。ローラーの変型による搬送エラーの原因になります。

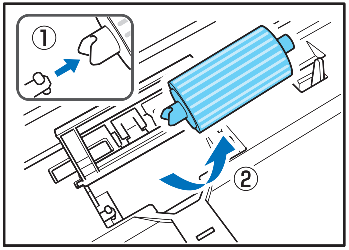
1. ローラーカバーを開きます。



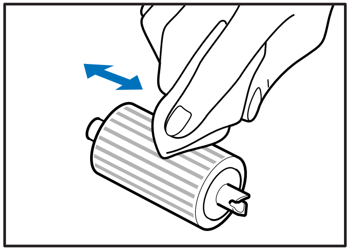
2. ローラー固定レバーを起こし（①)、矢印方向にスライドさせます（②)。



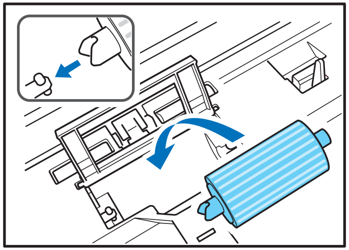
3. フィードローラーを矢印方向に寄せて軸から離し（①）、取り出します（②）。



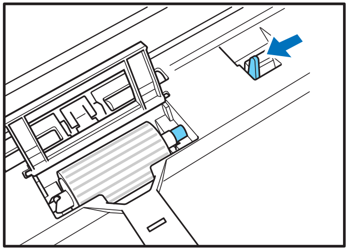
4. 水を含ませて固くしぼった布で、取り外したローラーの汚れを拭きとります。



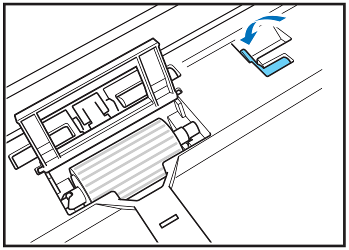
5. ローラーの軸の切り欠き部を本体の軸に合わせて、フィードローラーをセットします。



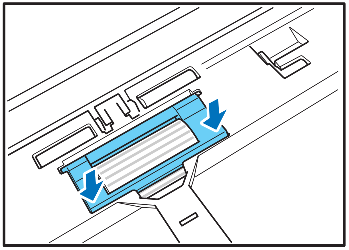
6. ローラー固定レバーを矢印方向に動かし、フィードローラーの軸の穴に、はめ込みます。



7. ローラー固定レバーを倒してフィードローラーを固定します。



8. ローラーカバーを閉めます。カチッと音がしてカバーが元の位置に戻ったことを確認します。



2. 搬送ローラーと原稿押えガイドの交換

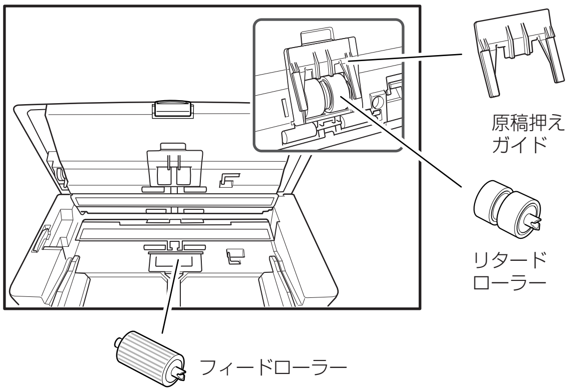
搬送ローラーが磨耗してくると、紙詰まりなど原稿の搬送エラーが起きやすくなります。
ローラーの清掃を行っても原稿の搬送エラーの発生が改善されないようなときは、交換ローラーキットをお買い求めになり搬送ローラー（フィードローラー、リタードローラー）と原稿押えガイドを交換してください。

❏ 交換ローラーキットについて

交換ローラーキットは、フィードローラーとリタードローラー、原稿押えガイドの交換用キットです。詳細についてはお買い求めの販売店または担当サービスにお問い合わせください。

商品名：交換ローラーキット ScanFront 220/220P

商品コード：2445B001



重要

・フィードローラーとリタードローラー、原稿押えガイドは消耗品です。ローラーのスキャン枚数が３万枚を越えたら交換ローラキットをお買い求めになりローラーの交換を行ってください。(→P.7-9「搬送枚数の確認とカウンタのリセット」)

・ローラーが磨耗してくると紙詰まりや原稿が正しく給紙されないなどの不具合が起きやすくなります。このようなときはスキャン枚数に関わらず、ローラーの交換を行ってください。

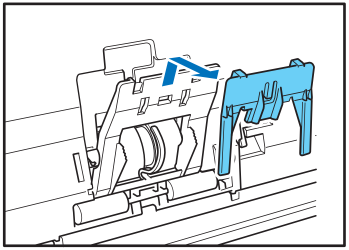
・ローラーを交換したら、ローラーカウンタを必ずリセットしてください。

❏ 原稿押えガイドの交換

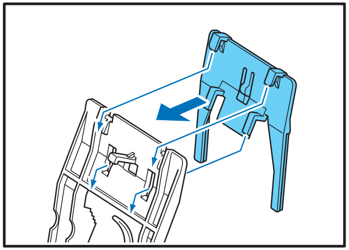
原稿押えガイドは以下の手順で交換します。

フィードローラーとリタードローラーの交換の手順については、フィードローラの清掃（→P.7-5）、リタードローラの清掃（→P.7-6）の手順にしたがってローラーの交換を行ってください。

1. ローラーカバーを開き、原稿押えガイドを上方向にスライドさせて取り外します。



2. 原稿押えガイドのフック（4ヶ所）をローラーカバーに掛け、下方向にスライドさせてセットします。

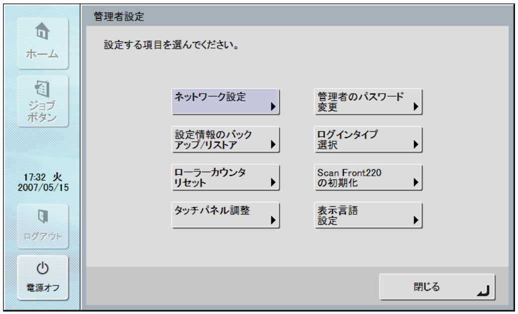


❏ 搬送枚数の確認とカウンタのリセット

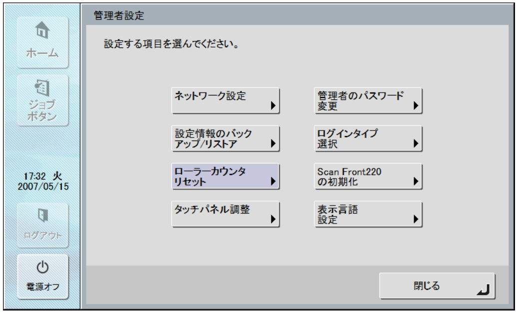
搬送枚数の確認は　ScanFront 本体の管理者設定画面の「ローラーカウンタリセット」画面で確認します。

重要　カウンタは、交換したローラーの搬送枚数をカウントします。ローラーを交換したときは、カウンタのリセットを必ず行ってください。

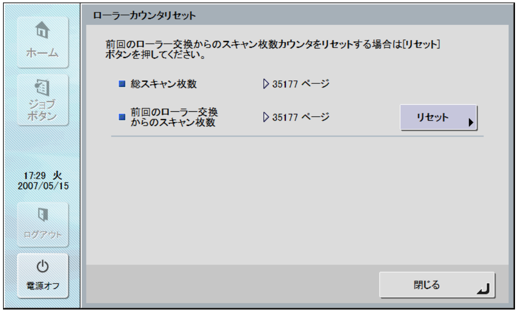
1.「管理者設定」画面にログオンします。



2. ［ローラーカウンタリセット］ボタンを押して［ローラカウンタリセット］画面を表示します。



ローラカウンタリセット画面



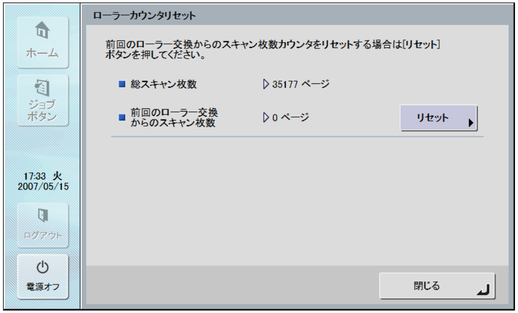
総スキャン枚数

ScanFront が原稿を搬送したトータルカウンタ

前回のローラー交換からのスキャン枚数

ローラーを交換し､カウンタをリセットしてから原稿を搬送した枚数

3. ［リセット］ボタンを押して、カウンタをリセットします。



4. ［閉じる］を押して、管理者設定画面からログアウトします。

第 8 章　こんなときは

1. 困ったときは

以下のようなときは、それぞれの対処方法に合わせて処理を行ってください。

LDAPアドレス帳が使えない（特定のユーザのみ）	原因	管理者によりLDAPアドレス帳の使用が制限されています。
	対処方法	ScanFrontの管理者にお問い合わせください。
Webメニューで設定が更新できない	原因	ScanFrontを使用中または、ユーザがログアウトしていない
	対処方法	ScanFront本体の状態を確認してからやり直してください。
Webメニューにアクセスできなくなった	原因	DHCPサーバから割り当てられたIPアドレスの変更
	対処方法	ScanFrontの管理者に連絡して、ScanFrontに割り当てられている IPアドレスを確認してください。
新しいフォルダを作成できない。（共有フォルダ/FTPサーバ）	原因	入力したユーザ名、パスワードに共有フォルダへの書き込み権限がない。
	対処方法	共有フォルダの管理者にお問い合わせください。
宛先にメールアドレスを指定してスキャンを開始するとエラーになる	原因	メールサーバの設定が未登録または、メールサーバの設定が削除されている。
	対処方法	ScanFrontの管理者にお問い合わせください。
アドレス帳/ジョブボタンが編集できない（特定のユーザのみ）	原因	管理者によりアドレス帳/ジョブボタンの編集が制限されています。
	対処方法	ScanFrontの管理者にお問い合わせください。
アドレス帳の表示が正しくソートされない	原因	アドレスの「ふりがな」が正しく登録されてない
	対処方法	アドレス帳の表示はふりがなでソートされます。（→ P.4-11、P.5-8） 宛先に登録されている「ふりがな」を確認してください。
画像にスジが入る	原因	読み取りガラスの汚れ
	対処方法	読み取りガラスの清掃を行ってください。（ →P.7-3） 読み取りガラスにキズが付いているときは、担当サービスに連絡してください。

紙詰まりになる	原因	搬送ローラーの汚れ
	対処方法	ローラーの清掃を行ってください。（ →P.7-3）
紙詰まりが多発する	原因	搬送ローラー（消耗品）の磨耗
	対処方法	交換ローラーキットをお買い求めの上、搬送ローラーを交換してください。（ →P.7-8）
共有フォルダのみなど、特定の送信先しか選択できない（特定のユーザのみ）	原因	管理者により使用できる送信先が制限されています。
	対処方法	ScanFrontの管理者にお問い合わせください。
原稿が重送する	原因	静電気による原稿の密着
	対処方法	原稿の束をセットする前に、よくさばいてからセットしてください。
原稿が重送する	原因	原稿の紙種による給紙エラー
	対処方法	原稿をセットする枚数を10枚以下にしてください。（ →P.2-8） または、非分離で1枚ずつスキャンします。
原稿がまとまって搬送される	原因	給紙切替えレバーが非分離給紙になっている。（ →P.2-4）
	対処方法	給紙切替えレバーを分離給紙にしてください。
社外からアクセスできるFTPサーバに接続できない	原因	ファイアウォールの設定を必要とするFTPサーバには接続できません
	対処方法	ファイアウォールの設定を必要としないFTPサーバを使用してください。
ジョブボタンを押すとスキャンがすぐに開始される（特定のジョブボタンのみ）	原因	ジョブボタンの設定で「読取設定画面をスキップする」が設定されています
	対処方法	ジョブボタンの設定を変更または、ジョブボタンを押す前に必ず原稿をセットしてください。（→ P.4-16、P.5-14）
電源が入らない	原因	ACアダプタの接続ミス、電源プラグの抜け
	対処方法	ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。接続を確認しても電源が入らないときはお買い求めの販売店に連絡してください。

電子メールの送信先で受け取ったメールの送信時間がずれている	原因	(1) 日時の設定が間違っている　(2)タイムゾーンの設定が他国の設定になっている
	対処方法	管理者に連絡して「言語/タイムゾーン」の設定を確認してください。（ →P.4-23）
電子メールの送信先で送信元のアドレスが表示されない	原因	ユーザと管理者のメールアドレスが未登録（→ P.4-16、P.5-14）
	対処方法	管理者に連絡してメールアドレスを登録してください。
ネットワークに接続できない（IPアドレスの競合）	原因	設定した IPアドレスがすでに他のデバイスで使用されている
	対処方法	ネットワークのシステム管理者に連絡してIPアドレスの設定を変更してください。
ネットワークに接続できない（LANケーブルの配線）	原因	LANケーブルの配線ミス
	対処方法	LANケーブルの接続を確認してください。
ネットワークに接続できない（デバイス名の競合）	原因	設定したデバイス名がすでに他のデバイスで使用されている
	対処方法	ネットワークのシステム管理者に連絡してデバイス名の設定を変更してください。 Scanfrontを2台以上導入したときはデバイス名を重複させないように注意してください。
フォルダが削除できない	原因	フォルダにデータが保存されている。
	対処方法	共有フォルダの管理者にお問い合わせください。
フォルダが削除できない	原因	入力したユーザ名、パスワードに共有フォルダを変更する権限がない。
	対処方法	共有フォルダの管理者にお問い合わせください。
ホーム画面からスキャンできない（特定のユーザのみ）	原因	管理者により「ジョブボタンのみ使用する」に制限されています。
	対処方法	ScanFrontの管理者にお問い合わせください。
ログインできない	原因	大文字、小文字が正しく入力されていない。
	対処方法	ユーザ名、パスワードの大文字、小文字を正しく入力してください。

2. エラーメッセージ（ScanFront 本体）

以下のエラーメッセージが表示されたときは、それぞれの対処方法に合わせて処理を行ってください。
その他表示されるメッセージについて不明はときは、サポート窓口にお問い合わせください。

FTPサーバへの接続に失敗しました	原因	登録したFTPサーバーの設定が間違っています。
	対処方法	FTPサーバーの設定を確認してください。（→P.4-11、P.5-8、P.6-19）
FTPサーバへの接続に失敗しました	原因	FTPサーバーとして使用しているコンピュータが起動していない。
	対処方法	FTPサーバーとして使用しているコンピュータを確認してください。
SMTPサーバのアドレスを設定してください	原因	メールサーバの設定が未登録または、メールサーバの設定が削除されている。
	対処方法	ScanFrontの管理者に連絡し、Webメニューで「メールサーバ」の設定を確認してください。（→P.4-27）
アドレスに制限がかかっています	原因	選択したアドレスが管理者により送信制限されています。（→P.4-8）
	対処方法	ScanFrontの管理者にお問い合わせください。
紙詰まりです。原稿を取り除いてください	原因	搬送ローラーの汚れまたはローラーの磨耗。
	対処方法	搬送ローラーを清掃してください。ローラーを清掃しても改善されないようなときは、ローラーを交換してください。（→P.7-8）
原稿が重送しました	原因	静電気などによる原稿の密着、原稿の積載過多、搬送ローラーの汚れなど
	対処方法	原稿をよくさばいてからセットし、重送が繰り返し起きるようなときは、セットする枚数を減らしてください。（→P.2-7）
コピーした宛先と、現在選択されている宛先が異なるため、貼り付けることができません	原因	コピー元と貼り付けるアドレスの種類が違います
	対処方法	コピーしたアドレスと貼り付けるアドレスの種類を同じにしてください。
制限されたアドレスが含まれています	原因	ジョブボタンに管理者により制限されている宛先が含まれています。（→P.4-8）
	対処方法	ScanFrontの管理者にお問い合わせください。

パスワードが一致しません	原因	新しいパスワードと確認用のパスワードが一致していません。
	対処方法	新しいパスワードと確認用のパスワードは同じパスワードを入力してください。
パスワードが間違っています	原因	入力したパスワードが間違っています
	対処方法	パスワードは、大文字、小文字を正しく入力してください。
ファイル名が設定されていません。ファイル名を入力するか、「自動的にファイル名をつける」設定を有効にしてください。	原因	ファイル名を入力しないで、「自動的にファイル名をつける」を［なし］にした。
	対処方法	ファイル名を入力するか、「自動的にファイル名をつける」設定を［なし］以外にしてください。（→P.6-28）
ログインに失敗しました。Webで編集中の可能性があります。	原因	Webメニューでユーザを編集中です。
	対処方法	ScanFrontの管理者にお問い合わせください。
ログインに失敗しました。バージョンアップ中の可能性があります。	原因	WebメニューでScanFront をバージョンアップ中です。
	対処方法	ScanFrontの管理者にお問い合わせください。
ログファイルが書けませんでした。送信処理を中止します。	原因	ログファイルの保存先に指定した共有フォルダに書き込み権限がない
	対処方法	共有フォルダの設定とアクセス権を確認してください。

3. エラーメッセージ（Web メニュー）

以下のエラーメッセージが表示されたときは、それぞれの対処方法に合わせて処理を行ってください。
その他表示されるメッセージについて不明はときは、サポート窓口にお問い合わせください。

同じユーザー名が存在しています。ユーザー名を変更して登録しなおしてください。	原因	登録するユーザ名と同じユーザ名がすでに登録されています。
	対処方法	ユーザ名を確認してから登録してください。
空の項目があります	原因	アドレス帳/ジョブボタンのインポート、リストア、バージョンアップ時など、ScanFrontへ取り込む設定ファイルを指定しないで実行した。
	対処方法	設定ファイルを指定してから実行してください。
スキャナがビジー状態です。操作をやり直してください。	原因	ScanFrontを使用中です。
	対処方法	ScanFrontの使用を終了させてからやり直してください。
設定の変更や登録ができません。ユーザーがデバイスにログインしている可能性があります。デバイスの状態を確認してください。	原因	ユーザがログインしているため設定の変更や登録ができません。
	対処方法	ユーザがログオフしてしてからやり直してください。
設定を変更できません。デバイスが管理者設定画面を表示している可能性があります。デバイスの状態を確認してください。	原因	ScanFrontを使用中です。
	対処方法	ScanFrontの使用を終了させてからやり直してください。
登録できるアドレス数を超えました。これ以上登録できません。	原因	アドレス登録数の制限
	対処方法	使用していないアドレスを整理してからやり直してください。
登録できるジョブ数を超えました。これ以上登録できません。	原因	ジョブボタン登録数の制限
	対処方法	使用していないジョブボタンを整理してからやり直してください。
登録できるユーザー数を超えました。これ以上登録できません。	原因	ユーザ登録数の制限
	対処方法	使用していないユーザを整理してからやり直してください。

パスワードが登録されていません。よろしいですか。	原因	登録するユーザにパスワードが設定されていません。
	対処方法	パスワードを確認してから登録してください。
モードがグレー、またはカラーのときにはTIFFを選択できません。	原因	選択したモードとファイル形式の組み合わせでは使用できません。
	対処方法	使用できるモードとファイル形式の組み合わせを確認してください。（→ P.4-17、P.5-15）
モードが白黒のときにはJPEGを選択できません。	原因	選択したモードとファイル形式の組み合わせでは使用できません。
	対処方法	使用できるモードとファイル形式の組み合わせを確認してください。（→ P.4-17、P.5-15）
ユーザーが現在デバイスを操作中です。ユーザーの操作終了後やり直してください。	原因	ScanFrontを使用中です。
	対処方法	ScanFrontの使用が終了してからやり直してください。
ユーザーがログインしています。操作は無効になります。	原因	ユーザーがScanFrontにログインしているため設定を更新できません。
	対処方法	ユーザをログオフさせてからやり直してください。

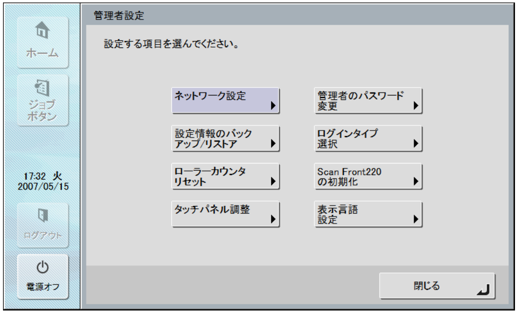
4. タッチパネルの調整

タッチパネルのボタンを押しても反応しない場合や、ボタンのない場所を押して反応するようなときはタッチパネルの調整が必要です。以下の手順に従って、タッチパネルの調整を行ってください。

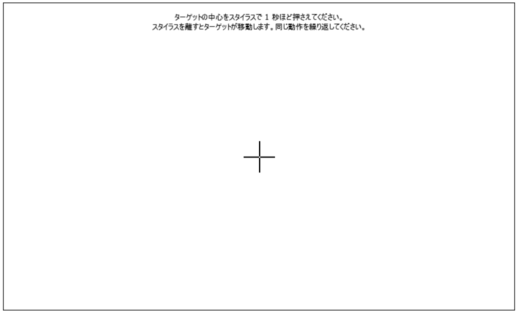
重要

- タッチパネルの調整には市販のタッチパネル用のペン（または同等品）が必要です。タッチパネルの調整を行う前にタッチパネル用のペンを用意してください。
- タッチパネルの調整は５箇所のタップを１サイクルとして行い、タップした位置がずれている場合には調整が１サイクルで終了しないことがあります。
- タッチパネルの調整を途中で終了させるときは、USB キーボードを接続して［ESC］キーを押します。

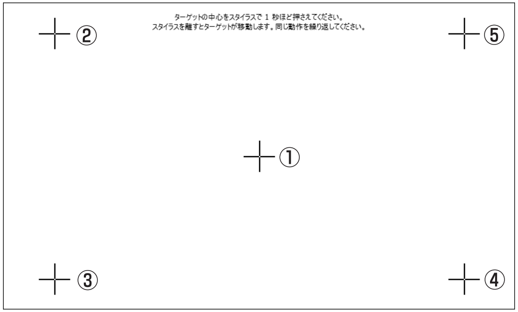
1.「管理者設定」画面にログオンします。



2.［タッチパネル調整］ボタンを押してタッチパネルの調整画面を表示します。



3. ①～⑤の順番で表示されるターゲット（＋）の中心をタッチパネル用のペンで押さえます。



4. 調整が終了したら、パネルをタップしてタッチパネル調整を終了します。



重要

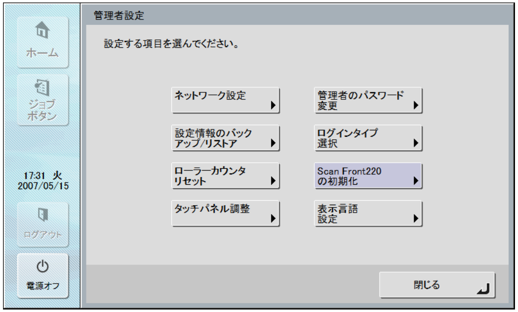
タッチパネルの調整が終了した後、30 秒間の間にタップしないと調整値は無効になり、調整前の状態に戻ります。

5.ScanFront の初期化

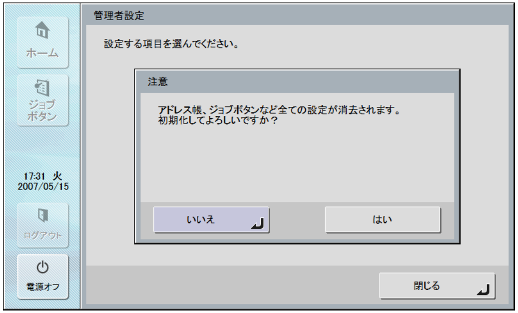
ScanFrontの初期化は、ScanFrontを修理依頼する際のユーザ情報の保護や、使用場所の変更等によりユーザ情報を消去するときに実行します。「ScanFront の初期化」では、ユーザー情報、アドレス帳、ジョブボタンなど ScanFront に登録されているすべての情報が初期化されます。

重要 ScanFront の初期化を行うと登録したすべての情報が消去されます。初期化を行う前には必ずバックアップを実行してください。

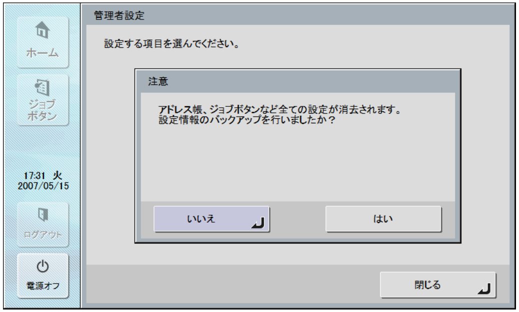
1.「管理者設定」画面にログオンします。



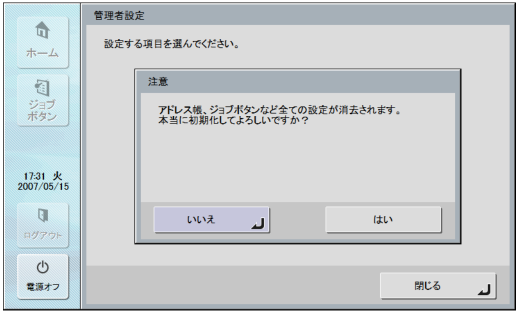
2. [ScanFront220 の初期化] ボタンを押します。



3. メッセージを確認し［はい］を押します。



4. メッセージを確認し［はい］を押します。



5. メッセージを確認し、[はい] を押すと初期化を実行して ScanFront を再起動します。

第９章　付　録

1. 仕　様

❏ 本体仕様

形式　卓上型ネットワーク対応シートスルースキャナ
操作パネル　タッチパネル式 8.5 インチ TFT 液晶パネル
WIDE-VGA（800 x 480 ドット）表示
読み取り原稿サイズ
幅：　50.8 - 216mm
長さ：　53.9 - 355.6mm
厚さ：　(分離給紙)
52 - 128g/m²　(0.06mm - 0.15mm)
(非分離給紙)
52 - 157g/m²　(0.06mm - 0.2mm)
読み取りカードサイズ
サイズ：　53.9 × 85.5mm
カード厚：0.76mm 以下
給紙方法　自動(分離給紙)/ 手差し(非分離給紙)
積載枚数　上質紙50枚以下、または積載高さ5mm以下（カール量込み）
読み取りセンサ　コンタクトイメージセンサ
光源　LED
読み取り面　片面 / 両面
読み取りモード　白黒、誤差拡散、文字強調、グレー、カラー
読み取り解像度 (主走査×副走査)
100 × 100dpi / 150 × 150dpi
200 × 200dpi / 300 × 300dpi
400 × 400dpi / 600 × 600dpi
読み取り速度（条件：A4）

白黒	片面	200 × 200dpi	26 枚 / 分
		300 × 300dpi	18 枚 / 分
	両面	200 × 200dpi	35 面 / 分
		300 × 300dpi	17 面 / 分
グレー	片面	200 × 200dpi	23 枚 / 分
		300 × 300dpi	12 枚 / 分
	両面	200 × 200dpi	23 面 / 分
		300 × 300dpi	10 面 / 分
カラー	片面	150 × 150dpi	16 枚 / 分
		200 × 200dpi	9 枚 / 分
	両面	150 × 150dpi	16 面 / 分
		200 × 200dpi	9 面 / 分

ネットワークコネクタ
RJ-45（10Base-T/100Base-TX）
インタフェース
Hi-Speed USB2.0 ポート(2) 、PS/2 ポート(2)
その他
重送検知機能、斜行補正、
指紋認証（ScanFront220P のみ）

外形寸法
310（幅）× 234（奥行き）× 158（高さ）mm
最大外形寸法（給紙トレイ、排紙トレイを開いた状態）
310（幅）× 545（奥行き）× 220（高さ）mm
質量　約 3.4kg（AC アダプタを除く）
電源　DC16V 2.1A
消費電力　動作時（最大）: 26W
パネルオフモード時：10W 以下
ローパワーモード時 : 4.5W
電源スイッチ OFF 時：1W 以下
騒音　66dB 以下
使用環境　温度：10℃-32.5℃
湿度：20%-80%RH

❏ ネットワーク仕様

ネットワーク　Microsoft WindowsNetwork 準拠
プロトコル　TCP/IP
IP アドレス　自動取得（DHCP）または固定アドレス
その他　Active Directory 対応、LDAP 対応

❏ 送信先

電子メール
FTP サーバー
共有フォルダ
USB メモリ

❏ AC アダプタ

型番	MG1-3968
入力	AC 100-240V 50/60Hz　83VA-108VA
出力	DC16V　2.6A
質量	約 0.35kg（電源コード含む）

製品改良のため仕様は予告なく変更することがあります。

❏ 消耗品

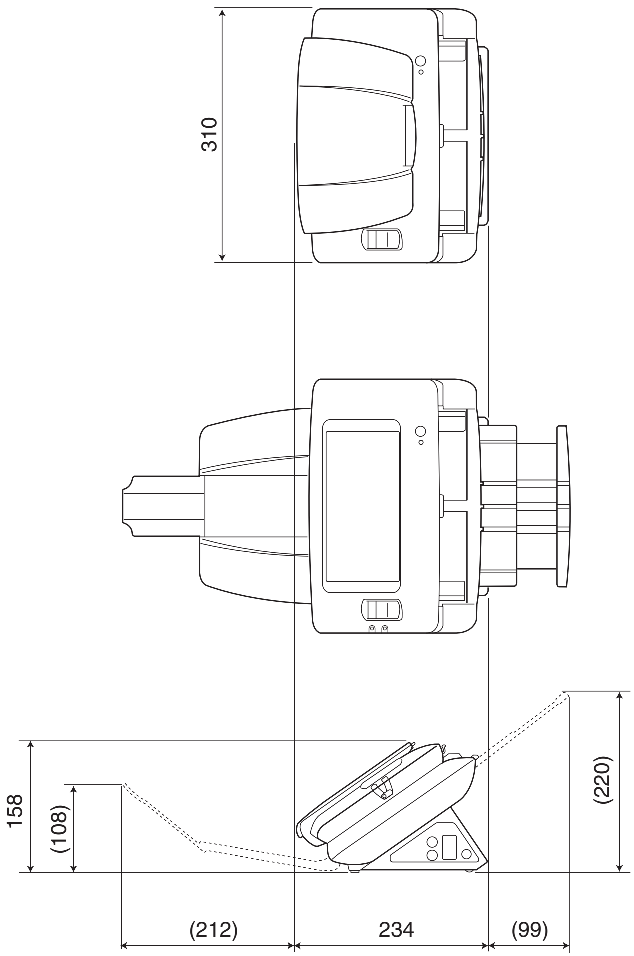
交換ローラキット（商品コード：2445B001）

搬送ローラ（フィードローラ、リタードローラ）と、原稿押えガイドの交換用キットです。（→ P.7-8「交換ローラーキットについて」）

重要

- 搬送ローラーは消耗品です。ローラーが磨耗してくると紙詰まりや原稿が正しく給紙されないなどの不具合が起きやすくなります。このようなときは搬送枚数に関わらず、ローラーの交換を行ってください。
- 交換ローラキットについての詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

❏ 外形寸法図　（単位：mm）



2. 保証とアフターサービス

❑ 保証とアフターサービス

- **この商品には保証書がついています**
  保証書は、お買い上げ販売店でお渡しします。お買い上げ日、販売店名などの記入をお確かめの上、内容をよくお読みになり大切に保管してください。

- **保証期間**
  保証期間はお買い上げ日より１年間です。

- **修理サービスのご相談**
  修理サービスのご相談は、お買い上げの販売店または お客さま相談センターへご相談ください。

- **修理を依頼される前に**
  「困ったときは」（→P.8-2）にそって故障かどうかお確かめください。それでも直らない場合は、直ちに電源プラグをコンセントから抜き、修理をご依頼ください。

- **修理を依頼されるときに、ご連絡いただきたいこと**
  - お客様のお名前
  - ご住所、お電話番号
  - 商品の品番
  - 故障の内容（できるだけ詳しく）

- **補修用性能部品について**
  保守サービスのために必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打ち切り後５年間です。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

❑ サービス＆サポートのご案内

- **お客様相談センター**
  取扱い方法および修理に関するご相談は、お買い上げ頂いた販売店または下記の窓口にご相談ください。

お客様相談センター
全国共通電話番号　**050-555-90076**

受付時間：＜平日＞9:00～12:00／13:00～17:00
（土日祝日と年末年始、弊社休業日は休ませていただきます。）

※ 上記番号は 050 から始まる IP 電話（株式会社エヌ・ティ・ティエムイー（NTT-ME）の XePhion Call Direct）を利用しています。
NTT の固定電話（一般回線）から地域・時間帯にかかわらず同一通話料金（10.4 円／ 3 分）でご利用になれます。

※ 携帯電話･PHS をご利用の場合、ご契約先携帯電話事業者の定める通話料金となります。詳しくはご契約の携帯電話事業者にお問い合せください。尚、一部の PHS からはご利用いただけませんのでご了承願います。

※ お客さまが050から始まるIP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。IP 電話からのご利用は、IP電話事業者間の接続状況によります。NTT-MEの XePhion Call Directの上記番号との通話（接続）可否については、ご契約のプロバイダーにお問い合せください。IP 電話からつながらない場合の事象（話中音、アナウンス、ブザー音など）はプロバイダーによって異なります。
また、IP 電話の相互通話であっても上記番号との通話料金はプロバイダーによって異なります。詳しくはご契約のプロバイダーにお問い合せください。

※ 上記番号におかけになってもつながらない場合は、NTT の固定電話（一般回線）からおかけいただくか、043-211-9156 におかけくださいますようお願いいたします。

※ お客様相談センターの詳細につきましてはキヤノンホームページ (http://cweb.canon.jp/e-support/rc/) をご参照ください、

- **消耗品の入手方法**
  消耗品はお買い上げ頂いた販売店、お近くのキヤノン製品取扱店およびキヤノンマーケティングジャパン（株）販売窓口にてご購入ください。尚、ご不明な場合はお客様相談センターにご相談ください。

- **キヤノンホームページ　http://canon.jp/**

※ http://canon.jp/support では、製品情報、アップデートファイルのダウンロード、QA検索などの情報が掲載されています。是非ご利用ください。

※ ホームページのレイアウトは、予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

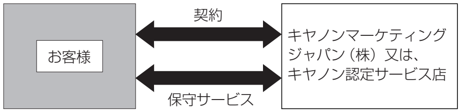
※ 通信料はお客様のご負担になります。

❏ 保守サービスのご案内

- **ご購入製品をいつまでもベストの状態でご使用いただくために**
  このたびはネットワークスキャナをご購入いただき誠にありがとうございます。さて、毎日ご愛用いただくネットワークスキャナの無償修理保証期間経過後の保守サービスとして「キヤノン保守契約制度」を用意しています。当制度はキヤノン製品を、いつも最高の状態で快適に、ご使用いただけますように充実した内容となっており、キヤノン認定の「サービスエンジニア」が責任をもって機能の維持・管理等、万全の処置を行ないます。お客様と、キヤノンをしっかりとつなぐ保守サービスで、キヤノン製品を末永くご愛用賜りますようお願い申しあげます。

キヤノン保守契約制度とは

ご購入後、定められた無償修理保証期間中に万一発生したトラブルは無償でサービスを実施します。保守契約制度とは、この無償修理保証期間の経過後の保守サービスを所定の料金で実施するサービスです。（製品により無償修理保証期間が異なります。また一部無償修理保証期間を設けていない製品もあります。）



- **精密機器だからこそ保守契約が必要です**
  ご購入いただきました機器は精密機器です。万一、思いがけないトラブルが発生した場合、時間的なロスだけでなく、予期せぬ出費が発生します。そこで、トラブルが起こってからではなく、事前に一定の料金をお支払いいただくことで、ご愛用の機器の修理に備えるのがキヤノンの保守契約制度です。

キヤノン保守契約制度のメリット

- **都度の修理料金は不要**
  保守契約料金には、訪問料、技術料、部品代が含まれています。
  万一のトラブル時も予期せぬ出費が発生することがありません。

- **保守点検の実施**
  お客様のご要望により、機器の保守点検を追加できます。（別途、有料となります。）

※天災、火災、第三者の改造等に起因するトラブルは除きます。
※消耗品およびキヤノン指定の部品は対象外となります。

購入時契約のおすすめ

ご愛用品は原則として保守契約に加入してご使用願うことになっております。また、ご購入時に加入いただきますと、手続きなどの手間は一度ですみ便利です。

キヤノン保守契約に関するお申し込み、お問い合わせはお買い上げの販売店もしくはキヤノンマーケティングジャパン（株）までお願いします。

3. 索引

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

Canon

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南 2-16-6 CANON S TOWER

PUB.CE-IJ-577-03